第八調

「スボタ」の小晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に主日の讃頌三章を歌ふ、其第一は二次。第八調。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。 ハリストスよ、我等晩の歌と靈智の務とを爾に獻る、爾復活を以て我等を救ひ給

ひしに因る。

主よ、主よ、我等を爾の顔より退くる母れ、復活を以て我等を救ひ給へ。 型なる<u>シオン</u>、諸教會の母、神の住所よ、慶べ、爾は始めて復活に由りて罪の赦を受 けたればなり。

り難き秘密を歌頌せん。蓋世世の造成主、我等の性を造りし主は己の像を憐みて、己 を究め難き卑微に降し給へり。父の無形の懐に在る者は爾潔き者の胎内に入り、舊 の如く本性の神に止まりし主は變易なく爾婚姻に興らざる者に由りて肉體と成り給 へり。故に我等は彼全き神及び全き人に其兩性に於て伏拜す、蓋彼の内には實に兩

「スボタ」の小晩課

の性あり。我等は其兩の性の本質の悉く二様なるを傳へて、其兩の性に屬する兩 の行及び兩の望を尊む。蓋彼は神父と一性なるに因りて、神として自主に望み且行 ひ、我等と一性なるに因りて、人として自主に望み且行ふ。至りて福たる潔き者よ、 我等の靈の救はれんことを彼に祈り給へ。

次ぎて「穩なる光」。其後提綱、主は王たり、彼は威嚴を衣たり、三次。句、主は能 力を衣、又之を帯にせり。次に「主よ、我等を守り、罪なくして此の晩」。

司祭聯祷を誦せずして、我等直ちに左の讃頌を歌ふ。

挿句に主日の讃頌、第八調。

てたより降りし<u>イイスス</u>は十字架に上り、死せざる生命は死の爲に來り、眞の光は黒暗 にある者に顯れ、衆人の復活は陥りし者に臨めり。我等の光及び救世主よ、光榮は爾 に歸す。

又至聖なる生神女の讃頌、三章。第八調。 句、我爾の名を萬世に誌さしめん。

讃美たる生神女よ、慶べ、信者に生命を流す泉よ、慶べ、萬衆の女宰、造物の祝讃 せらるる女君よ、慶べ、純潔至榮なる者よ、慶べ、至りて無玷なる者よ、慶べ、宮 よ、慶べ、神聖なる居所よ、慶べ、潔き者よ、慶べ、母童貞女よ、慶べ、神の聘女 よ、慶べ。

句、女よ、之を聽き、之を觀、爾の耳を傾けよ。

至淨なる神の母よ、慶べ、信者の倚賴よ、慶べ、世界の潔淨よ、慶べ、爾の諸僕を凡 の憂より脱れしむる者よ、慶べ、人人の生を施す慰藉よ、慶べ、守護者よ、慶べ、爾 を呼ぶ者の轉達よ、慶べ、神の神聖なる居處及び聖なる山よ、慶べ。

句、民中の富める者は衝の一顔を拜まん。

で、光の輝ける燈臺よ、慶べ、聖にせられし燈よ、慶べ、宮よ、慶べ、樂園よ、慶 べ、神の居所よ、慶べ、爾に趨り附く者の爲に活水を流す泉よ、慶べ。

光榮、今も、生神女讃詞、定理歌。

生神童貞女よ、天の容るる能はざりし主は爾の腹に狹なく入り給へり。爾は、言ひ難 き言に因りて、潔き者と止まりて、聊も童貞を汚さざりき。蓋爾は獨女の中に 母及び童貞女なり、衝獨至淨なる者は子として生を施す主を乳にて養ひ、眠らざ る眼を爾の手に抱きたり。然れども彼は父の懐を離れざりき、世の先より在すが如 し、乃彼は神として上には全く諸天使と偕に在り、下には爾に依りて全く人人と偕

第八調 「スボタ」の大晩課

に在りき、且言ひ難くして遍き處に在るなり。至聖なる女宰よ、正しく爾を潔き 生神女と承け認むる者の救はれんことを彼に祈り給へ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に主日の讃詞。 光榮、今も、其生神女讃詞、并に發放詞。

「スボタ」の大晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に十句を立てて主日の讃頌を歌ふ、第八調。

句、我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讃樂せしめ給へ。

ハリストスよ、我等晩の歌と靈智の務とを爾に獻る、爾復活を以て我等を救ひ給

句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

主よ、主よ、我等を爾の顔より退くる母れ、復活を以て我等を救ひ給へ。

つ、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聽き給へ。

撃なる<u>シオン</u>、諸教會の母、神の住所よ、慶べ、爾は始めて復活に由りて罪の赦を受 けたればなり。

世世の前に神父より生れ、末の時に婚姻に與らざる童貞女より世じて身を取りし言 は十字架に釘せられ、死を忍びて、己の復活を以て昔殺されし人を救ひ給へり。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人 の爾の前に敬まん爲なり。

<u>ハリストス</u>よ、我等は衝の死よりの復活を讃樂す。爾は此を以て<u>アダム</u>の族を地獄 の苛虐より釋き、神として世界に永遠の生命と大なる憐とを賜へり。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

ハリストス救世主、神の獨生の子、十字架に釘せられて、三日目に墓より復活せし主 よ、光榮は爾に歸す。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより 甚 し。

ため ため ため ため しゅうじか しゅ もの きんえい ぜんのう きゅうせいしゅ なんじ 主よ、我等は爾甘じて我が爲に十字架を忍びし者を讃樂す、全能の救世主よ、爾に まくばい ひと あい しゅ カルら なんじ かんばせ しりぎ なか すかわち カルら き 伏拜す。人を愛する主よ、我等を爾の顔より退くる勿れ、乃ち我等に聽きて、爾 の復活を以て我等を救ひ給へ。

> 第八調 「スボタ」の大晩課 六九五 「スボタ」の大晩課 六九六 第八調

又生神女の讃頌、 $\underline{\underline{r}}$ アモレイのパワェルの作。第四調。
句、願はくは $\underline{\underline{r}}$ は主を恃まん、蓋 憐 は主にあり、大なる 贖 も彼にあり、彼 はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

神の母よ、天の品位は爾を讃樂す、蓋爾至淨なる者は父及び聖神と偕に永在する神、 意志を以て無より天使の軍を造りし主を生み給へり。正しく爾を生神女と讃め歌ふ者 の靈を救ひて照さんことを彼に祈り給へ。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

女宰よ、我爾を成聖の泉、聖神に輝かさるる純金の約匱として、爾の前に俯伏し て祈る、慾に耽る我が不當なる靈を照し、我を悪鬼の甚しき苛虐より脱れしめて、我 に蹉跌なく救の道を行かしめ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

寶座は立てられ、書は披かれ、行は露れ、各人が己の重任を荷ひ、裸體にして前 に立ちて、神の憤及び其義なる審問に慄く時、女宰よ、其時我を憐みて、罪なる我 を兄の定罪と諸の苦より脱れしめ給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

天の王は人を愛するに因りて地に現れ、人と偕に在せり、蓋淨き童貞女より身を取 り、人の性を有ちて生れし者は、二の性にて一の位ある獨一子なり。故に我等彼が實 に全き神及び全き人なるを傳へて、 $\underline{\text{ハリストス}}$ 吾が神を承け認む。 夫を識らざる母 よ、我が靈の憐を蒙らんことを彼に祈り給へ。

次ぎて「穩なる光」、本日の提綱、「主は王たり」。其他常例の如し。

挿句に主日の讃頌、第八調。

てたより降りし<u>イイスス</u>は十字架に上り、死せざる生命は死の爲に來り、眞の光は黒暗 にある者に顯れ、衆人の復活は陥りし者に臨めり。我等の光及び救世主よ、光樂は爾

に歸す。

他の讃頌

句、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

我等は死より復活せし<u>ハリストス</u>を讃樂す、蓋彼の受けたる靈と體とは苦の時に 相分れたり、其至淨なる靈は地獄に降りて、之を擄にし、我が靈の教主の聖なる體 は墓に在りて朽壞を見ざりき。

句、故に世界は堅固にして動かざらん。

ハリストスよ、我等聖詠と詩賦とを以て爾の死よりの復活を讃榮す。爾は此を以て 我等を地獄の苛虐より解きて、神として永遠の生命と大なる憐とを賜へり。

第八調 「スボタ」の大晩課 六九七

第八調 「スボタ」の大晩課 六九川

句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。 鳴呼萬有の測り難き主宰、天地の造物主よ、爾は十字架の苦を忍びて、我に苦なきを流せり、瘞を受け、光榮の中に復活して、全能の手を以てアダムを偕に復活せしめ給へり。光榮は爾の三日目の復活に歸す、爾は此を以て我等に永遠の生命と諸罪の潔淨とを賜へり、獨慈憐の主なればなり。

光榮、今も、生神女讃詞。

聘女ならぬ童貞女、言ひ難く身にて神を孕みし者、至上なる神の母よ、爾の諸僕の祈祷を受け給へ。衆に諸罪の潔淨を予ふる純潔なる者よ、今我等の冀願を納れて、我等皆救はれんことを祈り給へ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に、

主日の讃詞、第八調。

恵深き主よ、爾は高きより降り、三日の葬を受けて、我等を苦より釋き給へり。吾が生命と復活なる主よ、光樂は爾に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

我等の為に童貞女より生れ、十字架に釘うたるるを忍び、神なるに因りて死にて死を滅し、復活を顯しし仁慈なる主よ、爾の手にて造りし者を棄つる母れ。慈憐の主よ、爾が人を愛する愛を顯して、我等の為に祈祷する所の爾を生みし生神女を受け給へ、善が教主よ、望を失ひし人人を救ひ給へ。

其他、并に發放詞。

「スボタ」の晩堂課

至聖なる生神女に奉る祈祷の規程、第八調。

第一歌頌

イルモス、我等其民をして、紅の海を過らせし主に歌はん、彼獨嚴に光樂を顯したればなり。

附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。

兄弟よ、敬みて來りて、我等信者は新なる歌を聖なる生神女に奉りて、今彼の偉大なるを崇め讃めん。

いきぎょ とうていじょ topl はないでは、見神を以て智慧を照されて、棘の中の靈妙なる現

第八調 「スボタ」の晩堂課 六九九

第八調 「スボタ」の晩堂課 七〇〇

れを見て、是れ爾が性に超ゆる神に合ふ胎孕の預象なりと明に悟れり。

光榮

生神女よ、我爾の前に吾が心の汚を悔い、我が罪過の爲に涙を流して祈る、我を覆ひて、主宰ハリストスの前に我が轉達者と爲り給へ。

今も

できずいでは、おけないではなり、では、では、ないでは、ないでの一般である。 潔き童貞女よ、我爾を尊み、愛を以て爾の帡幪の下に趨り附き、畏を以て伏拜して祈る、爾の耳を我に傾けて、我が祈祷の聲を聽き給へ。

第三歌頌

イルモス、主よ、爾は爾に趨り附く者の固、爾は昧まされし者の光なり、我が神は爾を歌ふ。

至りて無玷なる者よ、昔太祖の見たる梯は爾を預象せり、蓋諸天使の此に縁りて地に降ることは神が爾に縁りて我等に降るを示せり。

 $\frac{\underline{d}\underline{d}\underline{g}}{\underline{d}\underline{g}}$ の族よ、樂しめ、 $\frac{\underline{d}\underline{g}}{\underline{d}\underline{g}}$ が預言せし如く、其族より拯救なる $\underline{d}\underline{d}\underline{g}$ ハリストスは生じたり。至淨なる者よ、爾は彼を生みて光榮を得たり。

光绺

至淨なる生神女、我等の恃賴及び援助なる者よ、我罪に由りて望を失ひて、爾を救の港として得たり、故に我を痛悔に向はしめ給へ。

今も

至榮なる女宰よ、我爾を主宰の前に轉達者として獲て、信を以て我が悉くの恃賴を 爾に負はしめて求む、我を宥め給へ。

第四歌頌

イルモス、言よ、預言者は樹蔭繁き山たる惟一の生神女より爾が身を取らんと欲するを神妙に見て、畏を以て爾の力を讃榮せり。

金繍の衣に散はるる如く、童貞の華美に飾られたる父の聘女よ、爾は恩寵を受けて、神の子の母と現れ給へり。

生神女よ、ハリストス 言は爾 眞 の \underline{v} たる者を甘じて己の爲に神聖なる居處に擇 びて、全世界を新にし給へり。

ニヒヒば ワラタト しき宮、王の婚筵の殿よ、慶べ、悉くの無形の者の譽れよ、慶べ、人人の佑

神の母生神童貞女よ、爾の子の聖像を斥くる者は神より離れて込び、之を尊む者は救 はる。

第五歌頌

第八調 「スボタ」の晩堂課 七〇一

イルモス、光を施すハリストス神、創造の始の淵の闇を退けし主よ、我が靈の晦冥 を散らして、言よ、我に爾が誠の光を與へ給へ、我が夙に興きて爾を讃樂せん爲

我等は神聖なる<u>ガウリイル</u>と偕に立ちて、忠信に生神女に呼ばん、聖なる童貞女、恩寵 を蒙れる者よ、慶べ、主は爾と偕にす、彼は爾に依りて悲を斥けて、喜を與へ給

次 き童貞女よ、 $\underline{\mathscr{F}}$ ない はなの 全海なる産を預見せり、蓋神言は父の神性に離れ ずして、雨の如く爾の腹に降りて、聖神に由りて身を取り給へり。

光榮

神の母童貞女よ、爾は世界の扶助者、罪なる人人の轉達者なり、爾は信と愛とを以 て爾に趨り附く者を化して、之を救ひて、其多くの罪を釋き給ふ。

潔き神の母よ、爾は萬物より先に父より生れし子、年に由らずして無原なる者を種 なく聖神に由りて生み給へり。我等皆彼の形の肖を尊む。

イルモス、人を愛する主よ、我多くの罪に圍まれて、爾の洪恩に趨り附く者を受け て、預言者の如く我を救ひ給へ。

たがん。まずか、ことででは、まれた。なんだっとうてい、かがみおよっかみ。またってまた。もってかが婚姻に與らざる童貞女よ、我等は爾を童貞の鏡及び神の淨き居處として歌を以て崇 め讃む。

神の聘女よ、神は潔くして靈妙に爾の胎内に身を取り給へり、新なる巻軸に父の指

よ、爾の諸僕を辱かしむる勿れ。

神の聘女よ、爾の轉達を以て我等を諸慾の烈しき暴風より脱れしめて、穩静なる港 に向はしめ給へ。

次に主憐めよ、三次。光榮、今も、

小讃詞、第八調。

生神女よ、我等爾の諸僕は禍より援けられしを以て、爾克く勝つ將帥に凱歌と感謝 とを奉る。勝たれぬ權能を有つに因りて、我等を諸の苦難より救ひ、爾を歌ひて 豊かならぬ聘女よ、慶べと呼ばしめ給へ。

第七歌頌

イルモス。昔<u>ワワィロン</u>に於て火は神の降臨に慙ぢたり、故に少者は爐に在りて、

第八調

第八調 七〇四

花園に歩むが如く祝ひて歌へり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

置貞女よ、爾は我等の歡喜の中保者と現れ給へり、故に我等は愛を以て感謝の樂冠 を奉りて、爾を崇め讃めて呼ぶ、祝福せられたる潔き者よ、慶べ。

至りて無玷なる者よ、爾は樹蔭繁き神の聖なる山、高き山、神聖なる光照に輝かさ れたる山、神の居ることを嘉せし山なり。

生神女よ、爾の慈憐に勝つ罪はなし、蓋爾は母の勇敢と志望とを有ちて、爾の祈祷 を以て我等の諸罪を釋き、凡の紛擾を治め給ふ。

る主を生み給へり。我等は其形の肖を尊む。

第八歌頌

イルモス、聖なる山に光榮を顯し、棘の中に火を以て<u>モイセイ</u>に永貞童女の奥密を示 しし主を歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

生神童貞女、我神の母よ、爾は諸罪を焚く神聖なる熾炭の香爐として預言者に現れ給

生神童貞女よ、ダニイルは爾を大なる山と預見せり、是より尊き石なるハリストス は肉體を衣て出でて、邪宗の偶像の宮を碎き給へり。

我が罪悪と諸慾とに由る失望の大なる鯨は我を呑まんと欲す、女宰よ、急ぎて爾の僕

童貞女よ、萬有の神は爾に藉りて人の形を受けて、人人と對話し給へり。我等は其記 されたる像を尊む。

第九歌頌

イルモス、潔き童貞女よ、我等爾に依りて救はれし者は爾を實に生神女と承け認 めて、無形の軍と偕に爾を崇め讃む。

生神童貞女よ、睿智者は詩賦に於て爾を神の神に封ぜられたる泉及び閉ざされたる園

として歌ふ、其中に生命の樹たるハリストスは身を取りて生れ給へり。 生神女よ、預言者は爾の言ひ難き産を録して、之を封じたる書として預見す、爾の産 の秘密は一も悟る者なければなり。 光榮

> 第八調 「スボタ」の晩堂課 七〇五

> > 第八調 主日の夜半課 七〇六

我等皆靈 の傷感を以て爾に祈る、女宰よ、我が祷を棄つる勿れ、我等の爲に寛容なる帲幪と爲りて、我が冀願を聽き給へ。 今も

生神童貞女よ、我爾及び爾の子の聖像の前に伏拜して、之を尊まざる者を斥け、正教の心を抱きて歌頌を終ふ。

次ぎて「常に福にして」聖三祝文。「天に在す」の後に本調の小讃詞。其他常例の如し、并に發放詞。

 $\sim\sim\sim\sim\sim\sim\sim\sim$

主日の朝、夜半課

生命を施す至聖なる三者の規程、其冠詞は、三者惟一者よ、我爾の僕を救ひ給へ。<u>ミトロファン</u>の作。第八調。

第一歌頌

イルモス、昔奇跡を行ふ<u>モイセイ</u>の杖は、十字形に撃ちて、海を分ち、車に乗りて追び來るファラオンを沈め、徒歩にて逃るる<u>イズライリ</u>、神を讃め歌ふ者を救ひ給へり。
附唱、至聖なる三者我等の神よ、光榮は爾に歸す。

我等は三日光の王、萬有の造成者及び攝理者、獨仁慈なる實在の主、神性の惟一な まえんにちこう まう ばんゆう ぞうせいしゃ およ せつり しゃ ひとり じんじ とっざい しゅ しんせい ゆいいち 我等は三日光の王、萬有の造成者及び攝理者、獨仁慈なる實在の主、神性の惟一な こうえい たも たま いちげん かみ まえ かくはい さんせい うた たてまっ る光榮を有ち給ふ一元の神の前に伏拜して、三聖の歌を奉る。

我等は神の言及び上よりする預言を明に記念して、神元の惟一なる性、父、子、及び聖神の三位に於て永在にして同無原なる全功全能の神を讃樂す。

アウラアムは聖にせられし秘密者と爲りて、昔奇妙に萬有の造成者・神及び主を三位に於て歡び接けて、三位の惟一なる權柄を悟れり。

生神女讃詞

至淨なる者よ、爾は婚姻に與らずしてハリストス、我等の為に我が性を受けて、變易せずして二性を保てる主を生み給へり。我に罪過と誘感とを免るるを賜はんことを絶えず彼に祈り給へ。

第三歌頌

イルモス、始に智慧にて天を堅め、地を水の上に建てし<u>ハリストス</u>よ、爾が誠の石に我を堅め給へ、爾獨人を慈む主の外に聖なる者なければなり。

<u>イサイヤ</u>は爾近づき難き神、光榮の王、高き寶座に坐して、ヘルワィム及びセラフ

第八調 主日の夜半課 七〇七

第八調 主日の夜半課 七〇八

<u>イム</u>より絶えざる歌を以て讃樂せらるる惟一にして三位なる主を見たり。 我等は智慧よりするが如く父より生れたる惟一なる言、及び言ひ難く出づる神を、

聖書及び之に照さるる思念に因りて知るを得て、惟一なる三日光の神を尊む。 ***
生れざる父は己の性の煇煌なる子、光よりする光を無形に生み、之と同性の光なる
神、全功にして同尊なる主を出し給ふ。

ストスの為に清き殿と顯れたり。爾の母たる祈祷を以て彼を我が為に慈憐なる者と為

次ぎて主憐めよ、三次。

に天使の品位、地上に教會の聖位を作り給へり、此等をして呼ばしめん爲なり、聖、聖、 聖なる哉至仁なる神や、光榮と歌頌とは爾の權柄に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

變易せざる神を生みし仁慈なる生神女マリヤよ、誘惑者の攻撃に因りて罪と怠惰とを いて常に變る吾が心を爾の母たる祈祷を以て固め給へ、我も感謝の情を抱きて爾を 讃樂せん爲なり、純潔なる者よ、爾が獲たる爾の牧群を憐み給へ。

イルモス、主よ、爾は我の固め、我の力なり、爾は我の神、我の喜なり、爾は父の懐を離れずして、我等の貧しきに臨み給へり。故に預言者アウワクムと共に爾に呼 ぶ、人を慈しむ主よ、光榮は爾の力に歸す。

神性の東は幽暗に在る者に現れて、諸慾の暗き夜を全く散じたるに、性に於て單一 にして、位に於て三光なる義の日は輝き出でたり。我等常に彼を歌頌して讃樂す。 セラフィムの口に歌頌せらるる性の惟一にして、位の三なる光樂の主を我等は塵に屬 する口を以て讃樂して呼ぶ、嗚呼萬有の王よ、爾の諸僕に諸罪の赦を與へ給へ。 萬物を保ち給ふ無形にして洪恩、慈憐、仁愛なる三者、尊貴なる神元よ、我爾の僕 を全く忘るる勿れ、言ひ難き仁慈に由りて爾の諸僕と立てし約に違ふ勿れ。

七〇九

第八調 主日の夜半課 七一〇

を持たいでは、 はまた は、 無原なる言は古世より獨爾を $\frac{1}{4}$ で、 ないでは、 本作に因りて爾の内に入りて、人の性を新にし給へり。常に彼に我が凡の憂より教 はれんことを祈り給へ。

第五歌頌

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐なる我を掩へ り。祈る、我を返して、我が途を爾の誠めの光に向はしめ給へ。

我等は爾惟一の主を、單一の神性を分たず、同永在の三位を混淆せずして、讚樂し て忠信に呼ぶ、神元なる聖三者よ、爾の諸僕を憂より救ひ給へ。

我は吾が靈の弱きを大く歎く、如何ぞ欲せざるに、變じて悪に傾く。故に呼ぶ、生命 の原たる聖三者よ、我を善に立たん爲に堅め給へ。

神元なる聖三者よ、我罪の坐睡に壓せられ、死の眠に引かるる者を、爾仁愛、仁慈、 慈憐なる主として、宥めて起し給へ。

というないではない。

生神女讃詞

第六歌頌

イルモス、救世主よ、我を淨め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を悪の淵より引き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が救ひの神よ、我に聽き給へ。

萬有の惟一の原因たる實在の三者よ、我等は天上の神靈の品位に效ひて、我が塵に屬する口にて三聖の歌を以て爾を讃樂す。

我は爾三位なる神、己の像に循ひて人を造り、睿智を以て萬有を無より成しし主に がない。 大は爾三位なる神、己の像に循ひて人を造り、睿智を以て萬有を無より成しし主に がはいて、爾を尊み、歌ひ、崇め讃む。

全能の神、惟一にして像られぬ三日光の主宰よ、言ひ難き仁慈に因りて我の中に入りて、慈憐なる主として我を照して、悟らしめ給へ。

生神女讃詞

至淨なる者よ、爾は容れ難き神の殿と現れたり。至聖なる女宰よ、爾の祈祷を以て我をも彼の神聖なる恩寵の殿と爲して、諸害より護り給へ。

主憐めよ、三次。

坐誦讃詞、第八調。

我等信者は無原なる父、同無原の子、及び神聖なる神、實に混淆なく變易なく合せられたる單一なる聖三者を歌頌して、諸天使と偕に呼ぶ、至聖なる哉父、子、及び尊貴

第八調 主日の夜半課 七一-

第八調 主日の夜半課 七一二

なる聖神や。主宰よ、爾の像に循ひて造りし者を憐み給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

深き生神女、恩寵を蒙れる者よ、我等常に爾に感謝し、爾を崇め讃め、伏拜して、絶えず爾の産を歌ひて呼ぶ、仁慈慈憐なる童貞女よ、試の時に我等を救ひ給へ、爾の諸僕が恥を蒙らざらん爲なり。

第七歌頌

イルモス、昔<u>ワワィロン</u>に於て火は神の降臨に慙ぢたり、故に少者は爐に在りて、 はなその あかり 花園に歩むが如く祝ひて歌へり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

三位にして惟一なる神よ、爾の言ひ難き睿智と仁慈の淵とを以て爾の僕を功なくして憐を蒙る者と爲して、今も古の如く、諸難、諸罪、諸慾より救ひ給へ。二次。 生れざる智慧なる父、彼より生れたる言、及び悟り難く出づる神聖なる神、一元の神、 三日光の主よ、我爾に歌ふ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。

生神女讚詞

至淨なる童貞女よ、我殺され、罪の毒を飲ませられたる者は信を以て爾生命の首を生

みし者に趨り附く、獨潔き者よ、爾の祈祷を以て爾の僕を活かして、諸の誘惑及 び慾より脱れしめ給へ。

第八歌頌

イルモス、ハルデヤの窘迫者は怒りに堪へずして、敬虔の者の爲に爐を七倍熱くしたれども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼べり、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。 暮れざる光、三日光、一元にして、性の單一なる神、悟り難き全能の主よ、我が味みたる心を照して、我に光の中に爾を歌ひ、萬世に崇め讃むるを得しめ給へ。

萬善の原たる神、一元にして至聖なる三者よ、神聖なるセラフィム等は爾の悟り難き華美の光榮に勝へずして、聖にせられたる翼を以て敬みて面と足とを蔽ふ、然れども我等も勇を得て、忠信に爾を歌ひ、世世に崇め讃む。

我が神よ、我忠信を以て、爾無原の原、萬有の縁由、全能至善にして永在なる造成主及 きゅうせいしゅ、世い、おい、かいいち で救世主、性に於て惟一にして位に於て三者なる主を世世に崇め讃む。

生神女譖詞

至淨なる女宰よ、爾の童貞の産に因りて暮れざる日は地上に輝きて、人人を邪宗の幽暗より救へり。故に今も我爾の僕を夫の神元の光線を以て照して護り給へ。

第八調 主日の夜半課 七一三

第八調 主日の夜半課 七一四

第九歌頌

イルモス、天は懼れ、地の極は驚けり、神は身にて人人に現れ、爾の腹は天より廣き者と爲りたればなり、故に天使と人人の群は爾生神女を崇め讃む。

我等は今爾萬有の王たる神、全功なる無原の性、生命の原因、慈憐、仁慈、仁愛にして一元なる聖三者を讃樂して、諸罪の赦、世界の爲に平安、諸教會の爲に同一意なるを求む。二次。

性一なる三光の主、獨一なる三日の神よ、仁慈を以て爾を歌ふ者を容れて之を諸罪及 び誘惑ひより救ひ、仁愛を以て 速 に諸教會に平安と合一とを予へ給へ。

生神女譖詞

ハリストス 我が救世主よ、爾は童貞女の腹に入り、變易無く混淆なく實に神人として爾の世界に現れ、常に爾の諸僕と偕に在らんことを明に約し給へり。故に爾を生みし者の祈祷に因りて、爾の一切の牧群に平安を與へ給へ。

次に \underline{JJJJJ} <u>シナイト</u>の聖三讃歌、「爾神言を讃榮するは」、及び其他夜半課の式。 本書の末に載す。

~~~~~~~~

六段の聖詠畢りて「主は神なり」、第八調に依りて歌ひ、後主日の讃詞、「惠み深き 主よ、爾は高きより降り」、二次。光榮、今も、生神女讃詞、「我等の爲に童貞女よ り生まれ」。次に聖詠經の常例の誦讀。

## 第一の誦文の後に主日の坐誦讃詞。第八調。

萬有の生命よ、爾死より復活せしに、光明なる天使は女等に呼べり、涙を止め、使徒に福音して、歌ひて呼べ、神として人類を救はんことを嘉せし<u>ハリストス</u>主は復活した。

句、主我が神よ、起きて爾の手を撃げよ、苦しめらるる者を永く忘るる母れ。 爾は録されし如く實に基より復活して、聖なる女等に爾が興きたるを使徒に係へんことを命じ給へり。速なるペトルは墓に走り、其中に光を見て驚き、裏布の置かれて、爾の神聖なる體の無きを見て、信じて呼べり、父の光なるハリストス神よ、光榮は爾に歸す、爾は我が救主、萬民を救い給えばなり。

### 光榮、今も、生神女讃詞

我等は天の門、約櫃、至聖なる山、光る雲、天の梯、靈智なる樂園、工ワの贖、全世界の大なる寶を讃め歌はん、蓋斯の中に世界の教と古の罪の赦とは成れり。故に我

第八調 主日の早課 七一五

第八調 主日の早課 七一六

等彼に呼ぶ、敬虔にして爾の至聖なる産を伏し拜む者に罪の赦を賜はんことを爾の子及び神に祈り給へ。

## 第二の誦文の後に主日の坐誦讃詞、第八調。

教世主よ、人人が爾の墓を封印せしに、天使は石を其門より移せり。女等は爾が死より興きたるを見て、シオンに於て爾の門徒に爾が、萬有の生命よ、復活し、死の桎梏の解かれたるを福音せり。主よ、光榮は爾に歸す。

句、主よ、我心を盡くして爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳へん。

一葉の香料を攜へし女等は天使の聲を墓の中より聞けり、涙を止め、哀に代へて喜った。 を受けて、歌ひて呼べ、神として人類を救はんことを嘉せしハリストス主は復活し給へり。

光榮、今も、生神女讃詞。坐するにあらずして、立ちて、畏と敬とを以て之を 歌ふ。

恩寵を滿ち被る者よ、凡の造物、天使の會及び人の族は爾に因りて喜ぶ。爾は聖にせられし宮、靈智なる樂園、童貞女の譽なり、神は爾より身を取り、世世の先より在す我等の神は嬰兒となり給へり、蓋爾の胎を寶座と爲し、爾の腹を天より廣き者と爲せり。恩寵を滿ち被る者よ、凡の造物は爾に因りて喜ぶ、光樂は爾に歸す。

## 應答歌、第八調。

攜香女は生命を賜ふ主の墓の前に立ちて、不死なる主宰を死者の中に尋ねしに、天使より福音の喜を受けて、使徒等に傳へて云へり、ハリストス神は復活して、世界に大

なる憐を賜へり。

品第詞、第八調。第一倡和詞。毎句復唱す。

我が幼き時より敵は我を誘ひ、逸樂にて我を焦がす、主よ、我唯爾を賴みて之に勝つ。

<u>シオン</u>を憎む者は抜かるる前の草の如し、蓋<u>ハリストス</u>は苦しき切斷を以て被等の首を斬らん。 光祭

聖神に藉りて萬有は生く、彼は光よりの光にして、大なる神なり。我等彼を父及び言と偕に崇め歌ふ。

### 第二倡和詞

至りて慈憐なる主よ、願はくは我が心は謙りて、爾を畏るる畏に覆はれん、高ぶりて爾より離れ落ちざらん爲なり。

主に恃みを負はせたる者は、主が火と苦とを以て衆を審判せん時に懼れざらん。

第八調 主日の早課 七一七

第八調 主日の早課 七一八

### 光榮

聖神に藉りて凡の聖者は見、預言し、奇妙に高尚なる事を行ひて、三位に惟一の神を歌ふ、蓋神性は三光なれども獨一なり。

### 今も、同上。

## 第三倡和詞

主よ、我爾に籲べり、聞き納れて、呼ぶ者に爾の耳を傾け、我を此より取らざる先に潔め給へ。

この母たる地に歸る衆人は復出でん、在世の時に行ひし事に適ひて苦痛或は尊榮を受けん爲なり。

光榮

聖神に藉りて聖三の惟一者は傳へらる、蓋父は無原なり、子は詩なき先に彼より生れ、同一座同一性の神は共に父より輝けり。

## 今も、同上。 第四倡和詞

### 光榮

聖神は萬物の平安に保たるる惟一の原因なり、蓋彼は神なり、父及び子と一體にして、同宰制の主なり。
今も、同上。

### 提綱、第八調。

主は永遠に王とならん、 $\frac{シオン}{\frac{35}{15}}$ よ、爾の神は世世に王とならん。 $\frac{1}{15}$ 、我が靈よ、主を讃め揚げよ。我生ける中主を讃め揚げん。

次に「凡そ呼吸ある者」。主日の早課の福音經。「<u>ハリストス</u>の復活を見て」。第五十

### 聖詠。及び其他次第に循ふ。

主日の規程、第八調。

### 第一歌頌

イルモス、昔奇跡を行ふ<u>モイセイ</u>の杖は、十字形に撃ちて、海を分ち、車に乗りて追び來るファラオンを沈め、徒歩にて逃るる<u>イズライリ</u>、神を讃め歌ふ者を救ひ給へり。
附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

我等如何ぞ<u>ハリストス</u>の全能の神性を奇とせざらん、彼は苦より衆信者に苦なきと析ちざるとを流し、聖なる脇より不死の泉を滴らせ、墓より永遠の生命を施し給ふ。

第八調 主日の早課 七一九

第八調 主日の早課 七二〇

天使は今女等に如何にか美しき者と現れたる、彼は本性の無形の潔淨の光明なる形を具へ、其姿を以て復活の光を示して呼べり、主は復活し給へり。

### 生神女讃詞

神言を腹に容れて貞潔を守りし生神女マリヤよ、爾に於て至榮なる事は世世の中に唱
へられたり。故に我等皆爾神の亞に我が保護者たる者を尊む。

### 又十字架復活の規程

イルモス、「<u>イズライリ</u>は乾ける地の如く水を過り」。

萬有の性に超ゆる高き者が最下なる處に降りしを見て、苦痛の削は擧げられ、地獄の門衛は懼れたり。

聘女ならぬ母よ、天使の品位及び人人の會は絶えず爾を崇め讃む、爾は彼等の造成主を赤子として爾の手に抱きたればなり。

## 又至聖なる生神女の規程

イルモス、「我等其民をして紅の海を過らせし主に歌はん」。

するを取りし永在なる神の言を性に超えて生みたる至淨なる生神女よ、我等爾を歌ふ。 ハリストスよ、童貞女は爾生を施す葡萄の房、全世界の教の甘味を滴らす者を生み給へり。

生神女よ、アダムの族、爾に因りて智慧に超ゆる福樂に上せられたる者は、宜しきに合ひて爾を讃樂す。

共頌、「我が口を開きて」。

### 第三歌頌

イルモス、始に智慧にて天を堅め、地を水の上に建てし<u>ハリストス</u>よ、爾が誠の石に我を堅め給へ、爾獨人を慈む主の外に聖なる者なければなり。

<u>ハリストス</u>よ、食ふ罪に因りて定罪せられし<u>アダム</u>を、爾は己の身の教を施す苦

を以て義と爲し給へり、蓋罪なき主よ、爾親ら死の試に屬せざりき。 吾が神<u>イイスス</u>は幽暗に居り死の蔭に坐する者に復活の光を輝かし、己の神性を以て強き者を縛りて、其器を劫し給へり。

### 生神女讃詞

無站なる生神女よ、爾はヘルワイム及びセラフィムより上なる者と顯れたり、蓋爾は獨容れ難き神を己の腹に受け給へり。故に我等衆信者は歌を以て爾潔き者を讃揚す。

第八調 主日の早課 七二一

第八調 主日の早課 七二二

又 イルモス、「主、天の穹蒼の至上なる造成者」。

主よ、爾は先に我誠に背きし者を逐ひて、爾より退けたり、今我が形を受けて、我に順從を教へて、十字架に釘せらるるを以て復我を己に就かしめ給へり。

者智を以て一切を預知し、智慧を以て地獄を設けし主神の言よ、爾は己の像に循ひて造りし者に爾の寛容に因りて復活するを獲しめ給へり。

## 生神女讃詞

でとりのと あい しょう なんじ どうていじょ い りて、肉體を以て見るに宜しきが如く己を人人 あらら かっかれ まこと しょうしんじょ おり て、肉體を以て見るに宜しきが如く己を人人 に現し、且彼を真の生神女及び信者の扶助者と爲し給へり。

**又** イルモス、「主よ、爾は爾に趨り附く者の固」。

であんけっ なる者よ、爾の祈祷を以て我等に援助を與へて、我等を圍む諸敵の攻撃を防ぎ給

生神女よ、爾は世界の爲に生命の首たる<u>ハリストス</u>を生みて、原母<u>エワ</u>の更新と爲 n 絵へ n

### 第四歌頌

イルモス、主よ、爾は我の固、我の力なり、爾は我の神、我の喜なり、爾は父の懐を離れずして、我等の貧しきに臨み給へり。故に預言者rウワクムと共に爾に呼ぶ、人を慈む。主き、光学は爾の力に歸す。

を慈む主よ、光榮は爾の力に歸す。

にないる教世主よ、爾は敵なる我を甚愛せり。爾は驚くべき謙遜を以て地に臨み、
我が至極の暴虐を辭せず、爾の至淨なる光榮の高に在して、我嘗て辱しめられし者を榮し給へり。

主宰よ、誰か今苦にて死の滅され、十字架にて朽壞の遠ざけられ、死にて地獄の寶の奪はるるを見て驚かざらん。人を愛する主よ、爾十字架に釘せられし者の神聖なる力にて行はれしことは奇異なる哉。

### 生神女讃詞

聘女ならぬ聘女よ、爾は信者の譽なり、爾は「ハリスティアニン」等の轉達と避所、 が哲と港なり。蓋爾は、純潔なる者よ、爾の子に祈祷を獻げて、信と愛とを以て爾 を潔き生神女と承け認むる者を苦難より救ひ給ふ。

**又** イルモス、「主よ、我爾が攝理の秘密を聆き」。

ハリストス神よ、法に戻る者の諸子は爾を十字架に釘せり。爾は此を以て、慈憐の主

第八調 七二四 主日の早課

として、爾の苦を讃樂する者を救ひ給へり。 爾は墓より復活して、凡そ地獄に在る死者を己と偕に復活せしめ、慈憐なる主とし て、爾の復活を讃樂する者を照し給へり。

### 生神女讃詞

至淨なるマリヤよ、爾が生みし神に爾の諸僕に諸罪の赦を賜はんことを祈り給へ。

### 又 イルモス同上

生命を施す穂、世界に永生を與ふる者を生ぜし耕されざる田なる生神女よ、爾を歌

世級人はつ まいていどうじょ はれらでら はの みななんじ しょうしんじょ つま なんじ ぎ ロ う 純潔なる永貞童女よ、我等照されたる者は皆爾を生神女と傳ふ、爾は義の日を生み たればなり。

神よ、罪なき主として、爾を生みし者の祈祷に藉りて、我等の無知に潔淨を、爾の世界 に平安を與へ給へ。

### 第五歌頌

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐なる我を掩へ り。祈る、我を返して、我が途を爾の誠の光に向はしめ給へ。

ハリス<u>トス</u>救世主よ、爾は辱しめられて、苦の前に絳袍を衣せらるるを忍びて、始 ーー・マートの みにく はだか キネネ はだか み に造られし者の醜き裸を掩ひ、裸なる身にて十字架に釘せられて、死の衣を脱ぎ給 ~ n

<u>ハリストス</u>よ、爾は復活して、我が墜ちたる性を死に屬する塵より改め作り、之を老 いざる者と爲し、之を復王の像として不朽の生命にて輝く者と顯し給へり。

### 生神女讃詞

延続課なる者よ、求む、禰の子の前に母の勇敢を有つ者として、我等の爲に同族に適 なり。

仁慈仁愛なる神よ、我等爾の復活を歌ふ者の生命を司りて、我等に平安を與へ給へ。

### 生神女讃詞

ことを祈り給へ。

第八調 七二六 主日の早課

**又** イルモス、「主よ、我等夙に興きて爾に籲ぶ」。

至淨なる生神女よ、天使の品位及び人人の會は爾の産に奉事す。

聘女ならぬ聘女、生神女マリヤよ、諸敵の謀を虚しくして、爾を歌ふ者を樂しま しめ給へ。

イルモス、救世主よ、我を淨め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を悪の淵より引 き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が救の神よ、我に聽き給へ。

ハリストスよ、悪の魁は木を以て厲しく我を墮したれども、爾は十字架に上りて、更 に厲しく彼を墮し、辱しめて、陥りし者を復活せしめ給へり。

が神聖なる血を以て、其舊を易へて之を新にし、今其中に於て世世の王と爲り給へ

潔き神の母よ、願はくは我等は爾の祈祷に因りて甚しき罪悪より脱れて、爾至淨 の者より言ひ難く人體を取り給ひし神の子の神聖なる光照を受けん。

### 又 イルモス、「我祷を主の前に灌ぎ」。

<u>ハリストス</u>よ、爾は手を十字架に伸べて、始めて造られし者の<u>エデム</u>に於て不節制 に伸べたる手を醫し、甘じて膽を嘗めて、全能の主として、爾の苦を讃樂する者 を救ひ給へり。

贖罪主<u>ハリストス</u>は死を嘗めて、古の定罪と朽壊との國を破り、地獄に降りし後復活 して、全能の主として、其復活を歌ふ者を救ひ給へり。

### 生神女讃詞

至淨なる生神童貞女よ、我等の爲に絶えず祈り給へ、爾は信者の保固なればなり。 我等爾を恃むに因りて堅く立ちて、愛を以て爾及び爾より言ひ難く身を取りし主を 潜祭す。

## 又 イルモス、「光を衣の如く衣る」。

生神女よ、我等信者は爾を神の宮及び約匱、生ける殿及び天の門としして傳ふ。 神の聘女マリヤよ、神として邪宗を滅す者と爲りし爾の産は父及び聖神と偕に伏拜 せらる。

生神女よ、神の言は爾を地上の者の爲に天の梯として崇し結へり、爾に縁りて我等 に降りたればなり。

## 小讃詞、第八調。

七二七 第八調 主日の早課 七二八 主日の早課

第八調

大仁慈なる主よ、爾は墓より復活して、死せし者を興し、<u>アダム</u>を復活せしめ給へり。エワは爾の復活を樂しみ、世界の極は爾が死より興きたるを祝ふ。

### 同讃詞

地獄の國を擄にし、死者を復活せしめし恒忍なる救世主よ、爾は攜香女に逢ひて、之に 哀に易へて喜を賜へり。生命を施す仁慈仁愛なる主よ、爾は使徒に勝利の記號を示して、造物を照し給へり。故に世界は爾が死より興きたるを祝ふ。

### 第七歌頌

<u>ハリストス</u>よ、爾の光榮なる謙虚、爾が貧窮の神妙なる富は諸天使を驚かす、彼等は、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると、信じて呼ぶ者を救はん爲に、爾が十字架に釘せらるるを見ればなり。

爾は神聖なる降臨にて地獄に光を滿たししに、曾て蔽ひたる闇冥は逐はれたり。故に古世よりの囚人は復活して呼ぶ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。

### 聖三者讃詞

我等は爾萬有の主、惟一の獨生の子の惟一の父を正しく傳へ、又爾より出づる惟一の義なる神、爾と同一性同永在なる者を承け認む。

洪恩なる主よ、爾は寢よりするが如く墓より復活して、衆人を朽壞より救ひ給へり、 使徒等は復活を傳へて造物に之を信ぜしむ。我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

### 生神女讃詞

生みし者し同功、同能、同永在なる言は童貞女の胎内に、父及び聖神の善旨に由りて、形づくらる。吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

### 又 イルモス同上

爾は童貞女の胎より身を取りて、我等の教の為に現れ給へり。故に我等は爾の母を 生神女と識りて、正しく呼ぶ、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

至福なる童貞女よ、爾は<u>イエッセイ</u>の根より枝を生ぜり、是れ信を以て爾の子に、 我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼ぶ者の爲に救の花を開きて果を結ぶ者なり。

第八調 主日の早課 七二九

第八調 主日の早課 七三〇

至上者の實在なる睿智よ、信を以て爾に、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると歌 る衆人を、生神女に藉りて睿智と神聖なる力とに滿て給へ。

### 第八歌頌

イルモス、ハルデヤの窘迫者は怒に堪へずして、敬虔の者の爲に爐を七倍熱くした

れども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼べり、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

イイススの神性の至りて神妙なる力は神に合ふが如く我等の中に輝けり、彼衆人の ために身にて十字架の死を嘗めて、地獄の堅堡を破りたればなり。少者よ、常に彼を崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

新せられし者は起き、高ぶる者は倒れ、陥りて破られたる者は改められ、朽壌は除かれ、不朽は華さけり、死に屬する事が生命に呑まれたればなり。少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

### 聖三者讃詞

三光の神性、惟一の光明にて輝く者、三位一體の神、無原の父、父と一性の言、及び共に王たる一性の聖神を、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

マ イルモス、「爾の誠に熱中せし少者は」。

木の上に在りて手を我裸體にせられし者に舒べ、我を召して、己の美しき裸體にて温めんと欲する主を、悉くの主の造物は崇め讃めて、世世に彼を讃め揚げよ。

我陥りし者を最下なる地獄より擧げて、父の高き寶座に坐せしむめ光樂を以て尊くせし主を、悉くの主の造物は崇め讃めて、世世に彼を讃め揚げよ。

### 生神女讚詞

童貞女よ、爾は陥りしアダムの女にして、我が性を新にせし神の母と現れたり。 我等悉くの造物は彼を主として歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。

ス イルモス、「天使の軍の歌ふ所の天の王」。

生神女よ、諸敵の我等に向ひて射る焔の状なる燃ゆる矢を滅し給へ、我等が萬世に爾を歌はん爲なり。

童貞女よ、爾は性に超えて造成主及び教主たる神言を生み給へり。故に我等爾を歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。

童貞女よ、爾の内に入りたる近づき難き光は爾を萬世の爲に金光を放つ光明なる燈と爲し給へり。

第八調 主日の早課 七三一

第八調 主日の早課 七三二

次ぎて生神女の歌を歌ふ、「我が靈は主を崇め」、附唱と共に、「<u>ヘルワィム</u>より尊く」。 第九歌頌

イルモス、天は懼れ、地の極は驚けり、神は身にて人人に現れ、爾の腹は天より廣き者と爲りたればなり、故に天使と人人の群は爾生神女を崇め讃む。

神の言よ、爾は神の無原なる性にて單一なる者にして、肉體を受くるに因りて合せられたる者と爲り、人としては苦を受け、神としては苦に與らざる者と止まり給へり。故に我等爾を分離なく混淆なき二性を有つ者として崇め讃む。

至上なる主よ、爾は諸僕に降り、其性を以て人と為りしに因りて、己の本性の父を神と名づけ、墓より復活して、地に生るる者の為に本性の神及び主宰を恩寵の父と為し給へり。我等衆彼と偕に爾を崇め讃む。

### 生神女讃詞

鳴呼童貞女、神の母よ、爾は天然の法に超ゆる者と顯れて、仁慈なる父が萬世の先に生みし神言を身にて生み給へり。彼は肉體を衣たれども、我等は今彼を悉くの肉體より至りて上なる者と承け認む。

又 イルモス、「凡の者は神の言ひ難き寛容の事」。

我等爾を本性の神の子、生神女の胎内に孕まれて、我等の為に人と為りし者と承け認め、爾が人の性にて十字架に苦を受くるを見て、神として苦に與らざる者と崇め讃む。

古の幽暗は破られたり、蓋地獄より義の日<u>ハリストス</u>は光を放ちて出で、地の四極を照し、天の人・地の神として神性の光明を以て輝き給ふ。我等彼を二性に於て崇め讃む。

### 生神女潜詞

生神女の子よ、弓を執り、矢を放ちて、我等を滅さんと謀る敵を斃し給へ。爾の十字架を我等の爲に諸敵に勝たれぬ武器と爲して、我等の皇帝に勝利を賜へ。

又 イルモス、「潔き童貞女よ、我等爾に依りて」。

童貞女よ、爾の記憶は、爾に趨り附きて、敬虔に爾を生神女と承け認むる者を喜 と樂とに滿てて、彼等に醫治を流す。

型電を蒙れる者よ、我等聖詠を以て爾を歌頌して、黙すなく爾に呼ぶ、慶べ、蓋爾は衆人に喜を流し給へり。

生神女よ、爾は最美しき果を結べり、是れ信を以て爾を讚め揚ぐる者に朽壞にあらずして生を施す者なり。

第八調 主日の早課 七三三

第八調 主日の早課 七三四

業類の後に小職祷。次ぎて主我等の神は聖なり。其後 差遺詞。

「凡そ呼吸ある者」に主日の讃頌、第八調。

句、彼等の為に記されし審判を行はん為なり、斯の榮は其悉くの聖人に在り。 主よ、爾は審判座の前に立ちて、ピラトより審判せられたれども、父と偕に坐して、 實座を離れざりき、死より復活して、世界を敵の奴隷より釋き給へり、慈憐にして人 を愛する主なればなり。

句、神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。

まよ、ないは悪魔に勝つ武器として我等に爾の十字架を賜へり、蓋彼は戰ひ慄きて、 まのもからを見るに忍びず、其死者を起し、死を空しくしたればなり。故に我等爾の葬 と復活とを伏し拜む。 句、其權能に依りて彼を讃め揚げよ、其至嚴なるに依りて彼を讃め揚げよ。 主よ、イウデヤ人は爾を死者の如く墓に藏めたれども、兵卒は寢ぬる王の如く爾を守 れり、生命の寶の如く印を以て封じたれども、爾は復活して、我等の靈に不朽を賜

句、角の聲を以て彼を讃め揚げよ、琴と瑟とを以て彼を讃め揚げよ。

主よ、復活を傳へし爾の天使は番兵を恐れしめ、女等に呼びて云へり、何ぞ生ける者 を死者の中に尋ぬる、彼は神として復活し、世界に生命を賜へり。

## 又讃頌、アナトリイの作。同調。

句、鼓と舞とを以て彼を讃め揚げよ、絃と簫とを以て彼を讃め揚げよ。

仁愛なる<u>ハリストス神よ、衛は神性にては苦に</u>與らざる者にして、十字架の苦を忍 びて、三日の葬を受け給へり、我等を敵の奴隷より釋き、爾の復活に因りて、我等 に生命を賜ひて、我等を不死の者と爲さん爲なり。

句、和聲の鈸を以て彼を讃め揚げよ、大聲の鈸を以て彼を讃め揚げよ。凡そ呼吸ある者 は主を讃め揚げよ。

<u>ハリストス</u>よ、我爾が墓よりの復活に伏拜し、之を讃樂して歌頌す、爾は之を以て 我等を地獄の解き難き械より釋き、神として世界に永遠の生命と大なる憐とを賜へ り。

句、主我が神よ、起きて、女の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる毋れ。 は、たった。たった。ときないで、いっちゃっ。 法に悖る民は其時爾が生命を受けたる墓を守り、番兵を置きて封印したれども、爾 は不死なる全能の神として三日目に復活し給へり。

句、主よ、我心を盡して爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳へん。

主よ、爾は地獄の門に至りて之を破りしに、俘囚は斯く呼べり、此れ誰ぞや、

第八調 主日の聖體禮儀 七三六 で地の最下なる處に繋がれずして、反りて幕の如く死の獄を破りたる、我は彼を死者 として受けて、神として慄く。全能の主よ、我等を憐み給へ。

光榮、福音の讃頌。今も、生神女讃詞、「生神童貞女よ、爾は至りて讃美たる者なり」。 大詠頌。

## 次ぎて復活の讃詞。

主よ、爾は墓より復活して、地獄の鎖を壞り、死の定罪を滅し、衆人を敵の網より救 へり。獨大慈憐なる者よ、爾は使徒に顯れて、彼等を傳教に遣し、彼等に依りて爾 の平安を世界に賜へり。

次ぎて聯祷、及び發放詞。

## 聖體禮儀の眞福詞、第八調。

<u>ハリストス</u>、世界の教主よ、木に在りて盗賊を憶ひし如く、我等を憶ひ給へ、獨洪恩 なる主よ、我等衆に爾の天國を獲しめ給へ。

句、心の清き者は福なり、彼等神を見んとすればなり。

<u>アダム</u>よ、聞きて<u>エワ</u>と偕に喜べ、曾て爾等二人を裸體にして、誘惑を以て擄にせ し者がハリストスの十字架にて空しくせられたればなり。

句、和平を行ふ者は福なり、彼等神の子と名づけられんとすればなり。

きが教世主よ、爾は甘じて木に釘せられて、<u>アダム</u>を木に縁る誰より脱れしめ、神 の像に適ふ樂園の住所をも還し給へり、爾は惠深き主なればなり。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

今ハリストスは墓より復活して、衆信者に不朽を與へ、苦及び復活の後に攜香女に 新なる喜を賜ふ。

句、人我の爲に爾等を詬り、窘逐し、爾等の事を偽りて.諸の悪しき言を言はん時 は、爾等福なり。

春智なる攜香女よ、慶べ、爾等は先じてハリストスの復活を見、之を全世界の喚起 として使徒に知らせたり。 句、喜樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

<u>ハリストス</u>の崩となり、其光榮に同座せんとする使徒よ、我等が畏れずして彼の前に 立たんことを其門徒として祈り給へ。

### 光榮、聖三者讃詞。

無原なる三者、分れざる神性、同座にして光榮の同尊なる惟一者、始なき生命及び權柄 よ、信を以て爾を崇め歌ふ者を救ひ給へ。

> 七三七 第八調 主日の聖體禮儀

第八調 主日の晩課 七三八

の壺よ、慶べ。

## 提綱、第八調。

主爾等の神に誓を作して償へよ。句、神はイウデヤに知られ、其名はイズライリに大 なり。

「アリルイヤ」、來りて主に歌ひ、神我が救の防固に呼ばん。句、讚揚を以て其顔 の前に進み、歌を以て彼に呼ばん。

「主よ、爾に籲ぶ」に痛悔の讃頌、第八調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

罪人を召さん為に世になり、盗賊と、税吏と、淫婦と、蕩子とを受け給ひし我が主<u>ハカリストス</u>よ、我衆人に超えて爾の前に罪を犯して、聊も痛悔せざる者を仁愛を以て召し給へ。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

次に若し之あらば、月課經の聖人の讃頌。若し月課經なくば、又無形なる聖天使の 讃詞、第八調。

句、願はくは $\underline{\underline{Axy}}$ は主を恃まん、蓋 憐 は主にあり、大なる 贖 も彼にあり、彼は $\underline{\underline{Axy}}$ できまきない。 は  $\underline{\underline{Axy}}$  を其 悉 くの不法より 贖 はん。

主よ、無形の者の會は爾の華麗と言ひ難き美善とを樂しみ、豊に三日光の煇煌に照されて、絶えず爾を讃榮す。救世主よ、彼等の祈祷と轉達とに因りて我等の靈を救ひ給へ。

第八調 主日の晩課 七三九

第八調 主日の晩課 七四〇

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

主よ、爾は己の全能の言と至聖なる神とを以て天使の歌詠の會を建てて、彼等に不斷の光照を賜へり。 救世主よ、彼等の祈祷と轉達とに因りて我等の 靈を救ひ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

主よ、<u>セラフィム</u>は爾を歌頌し、權柄と差役、首領と主制、寶座と能力、差役首と威嚴なる<u>ヘルワィム</u>は讃美を爾に奉る。救世主よ、彼等の祈祷と轉達とに因りて我等の靈を救ひ給へ。

### 光榮、今も、生神女讃詞。

我造物は常に造物主を憂ひしめて怒らす、少女よ、我に悔改を與へて我を改め、爾の助を以て神を悦ばしむる行に導き給へ、我が赦罪と救とを得ん爲なり。

次ぎて「穩なる光」。本日の<mark>提綱。</mark>「主よ、我等を守り」。

挿句に痛悔の讃頌、第八調。

諸天使は絶えず爾王及び主宰を歌頌す、惟我は爾の前に俯伏して、税吏の如く呼ぶ、

神よ、我を潔め、我を憐み給へ。

句、天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

不死なる我が靈よ、度生の浪に覆はるる勿れ、乃起ちて爾の恩主に呼べ、神よ、我を浄め、我を救ひ給へ。

句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は侮に饜き足れり。我等の靈は驕る者の辱と誇る者の侮とに饜き足れり。

主の致命者よ、爾等は凡の處を聖にし、凡の病を醫す。爾等に求む、今も我等の靈を敵の網より脱れしめんことを祈り給へ。

### 光榮、今も、生神女讃詞。

我等は天使首<u>ガウリイル</u>の聲に效ひて言はん、慶べよ、神の母、世界の爲に生命を賜 ふ主ハリストスを生みし者や。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に<mark>讃詞、聯祷、</mark>及び發放詞。

 $\sim\sim\sim\sim\sim\sim\sim\sim$ 

第八調主日の晩課七四一第八調主日の晩堂課七四二

### 主日の晩堂課

至聖なる生神女の規程、第八調。

### 第一歌頌

イルモス、昔奇跡を行ふ<u>モイセイ</u>の杖は、十字形に撃ちて、海を分ち、車に乗りて追かなるファラオンを沈め、徒歩にて逃るる<u>イズライリ</u>、神を讃め歌ふ者を救ひ給へり。
附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。

至聖至潔にして讃美たる生神女。獨信者の光榮と爲りし者よ、爾に於て至榮なる事は述べられたり。故に祈る、爾の祈祷に因りて我爾を讃榮する者を將來の光榮に與らしめ給へ。

無站至淨にして祝福せられし者よ、爾の腹の果は祝福せられたり、之に因りて我等 もの者は皆祖を免れたり。嗚呼言ひ難き奇跡、測り難き傳、衆信者の救や。

### 光榮

主よ、天使の大數、爾の門徒と預言者との會、致命者と克肖者との群は常に爾に祈る、仁愛なる主としして、生神女に因りて我等に諸罪の赦を與へ給へ。

### 今も

至淨なる者よ、我信を以て輸胎内に堪へ難き火を受けし者に祈る、神に悦ばるる禰 の祈祷を以て我を援け、「ゲエンナ」の火を免れしめて、永遠の苦より救ひ給へ。

### 第三歌頌

イルモス、主、天の穹蒼の至上なる造成者、教會の建立者、冀望の極、信者の固、獨人を愛する者よ、我を爾の愛に堅め給へ。

至淨なる者よ、我潔き度生に離れ、禽獸に效いて、全く定罪せられたり。審判者を生みし者よ、我を凡の定罪より脱れしめて救ひ給へ。

宏恩なる主よ、天の品位、奉事する諸神、預言者と、使徒と、爾の致命者との會は常に爾に祈る、爾の民に諸罪の赦を與へ給へ。 今も

至淨なる童貞女よ、慈憐の者として、今仁慈なる主に祈りて、我に神聖なる慈憐を得しめ給へ、我は仁慈慈憐に戻る習慣を獲て、永遠の火に當る者と爲りたればなり。

第八調 主日の晩堂課 七四三

第八調 主日の晩堂課 七四四

### 第四歌頌

イルモス、主よ、爾は我の固、我の力なり、爾は我の神、我の喜なり、爾は父の懐を離れずして、我等の貧しきに臨み給へり。故に預言者アウワクムと共に爾に呼ぶ、人を慈む主よ、光榮は爾の力に歸す。

至淨なる者よ、甘じて爾より人體を取りし主の神聖なる脅を刺しし神聖なる戈を以て我が諸罪の悪しき書券を裂きて、我無知にして主より離れたる者を救はれし者の書に録さんことを彼に祈り給へ。

至りて無玷なる童貞女よ、凡そ神より離れたる者は爾の大なる産に由りて大なる惠を獲たり。求む、我大に神より離れて、深く罪に陥りし者にも神聖なる赦罪を得しめ給へ、我が感謝の聲を以て爾を讃榮し、熱心の愛を以て爾を崇め讃めん爲なり。

### 光榮

至りて無玷なる者よ、性の法は爾に於て虚しくなれり、爾は性に超えて神言を生みたればなり。故に我信を以て爾に祈る、人の性に超えて多く罪を犯して、神に離れたる我を爾の祈祷を以て改めて救ひ給へ。 今も

できたのなりである。 敵は罪の矢を以て大に我が靈に傷つけ、逸樂を以て我が心を汚して、我を直き途 より遠ざけたり。故に童貞女よ、爾に呼ぶ、我を返し、我を醫して救ひ給へ。

### 第五歌頌

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐なる我を掩へり。祈る、我を返して、我が途を爾の説の光に向はしめ給へ。

生神女よ、萬族は今爾常に福なる者を讃揚し、天の軍は爾下なる者を上なる者と合せし獨女の中に祝福せられたる童貞女、陥りしアダムの更新なる者を崇め讃む。

仁慈なる言、我等を無知より救ひし主を生みたる仁慈なる骨よ、彼に我を護り全くして、直き道を失はずして行かしめんことを祈り給へ。 光樂

慈憐の淵に由りて己の血を十字架に流しし言よ、我が諸慾の淵を涸らして、生神女に由りて、傷感の情を以て爾神の悦を為すを得しめ給へ。 今も母童貞女、身にて限なき主、天使の光榮、悪鬼の傷たる者を生みし神の聘女よ、罪に由りて傷つけられたる我が心に神聖なる醫治を得しめ給へ。

第八調 主日の晩堂課 七四五

第八調 主日の晩堂課 七四六

### 第六歌頌

イルモス、救世主よ、我を淨め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を悪の淵より引き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が救の神よ、我に聽き給へ。

仁慈にして潔淨なる女宰よ、爾に依りて人の性は憐を蒙れり、爾は仁慈なる主を生みたればなり。故に爾に祈る、吾が靈を憐み給へ。

<u>ハリストス</u>よ、無形の者と致命者、預言者と爾の使徒の品位は爾に祈る、爾を生みし者に由りて、爾の民を凡の苦難より救ひ給へ。 光榮

耕作者及び萬有の造成者を生みたる耕作せられざりし地たる者よ、慾に由りて荒れたる者が靈を神聖なる智慧を以て實を結ぶ者と爲し給へ。 今も

えいていどうじょ 永貞童女よ、我は神に導く誠に背きて、欲せずして悪慾の奴隷と爲れり。故に爾 に祈る、我を其壓制より脱れしめ給へ。

### 次ぎて主憐めよ、三次。光榮、今も、

## 坐誦讃詞、第八調。

我等信者は天軍の尊敬、吾が靈の美譽たる母童貞女を崇め讃めん。諸天使の造成主を胎内に孕みし者よ、慶べ、神言を人體に生みて陥りし者の潔淨と爲りたる者よ、慶べ、聘女ならぬ聘女よ、慶べ。

### 第七歌頌

イルモス、昔  $\frac{DD + DD}{DD + DD}$  に於て火は神の降臨に慙ぢたり、故に少者は爐に在りて、 花園に歩むが如く祝ひて歌へり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

生神女よ、爾は言ひ難き爾の産に由りて我等に驚くべく言ひ難き諸恩を獲しめたり。
なないない。 ないないでは、 またでは、 ないないでは、 ないないないでは、 ないないないでは、 ないないないでは、 ないないないないでは、 ないないないないないないないないないないないないないないないない。

おれまたより うち なか いのち ついや しまけっか もの となら りて、詰問と「ゲエンナ」の滅えざる火 とを懼る。耐へ難き火を生みし生神女よ、爾の祈祷を以て我を救ひ給へ。

### 光榮

### 今も

<u>ハリストス</u>教世主よ、我怠惰の中に生を度りて、爾の聖なる誠と尊き命とを輕じたる者を、爾を生みし童貞女に依りて、大仁慈なる恩主神として憐み給へ。

第八調主日の晩堂課七四七第八調主日の晩堂課七四八

### 第八歌頌

イルモス、<u>ハルデヤ</u>の窘迫者は怒に堪へずして、敬虔の者の爲に爐を七倍熱くしたれども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼べり、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

童貞女よ、我が殺されたる靈を活かし、其陥りたるを起し、其傷つけられたるを醫し、吾が心を和げ、誘惑の浪を鎮め、我を救ひて呼ばしめ給へ、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、彼を世世に尊み崇めよ。

### 榮

讃美たる生神女よ、我等僕として爾に呼ぶ、無數の神靈の軍、豫言者及び克肖者、 世徒及び致命者と偕に衆人の爲に祷を奉りて、之に熱心に歌はしめ給へ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、彼を世世に尊み崇めよ。

純潔なる生神女よ. 爾は形而上の天使の品位よりも尊き者なり、蓋婚姻に與らざる童貞女の胎より彼等の造成者及び主、混淆なく變易なき二性に於て一位にして身を取りし者を生み給へり。

### 第九歌頌

イルモス、凡の者は神の言ひ難き寛容の事、如何に至上者が甘じて肉體を取るまでに降りて、童貞女の腹より人と爲りしかを聞きて、恐れざるなし。故に我等信者は至淨なる生神女を崇め讃む。

鳴呼ソロモンの神聖なる榻、勇士六十人の環れる者、聖書に言へるが如く、其上に神の息ひし者たる潔き永貞童女よ、我常に千萬の悪鬼に環らるる者を爾の力を以て害なく護り給へ。

萬衆の甘味を生みし者よ、蛇の苦き毒に惱まされたる我が靈に神聖なる甘味を滴らせて、之を醫し給へ。衆信者の恥を得ざる轉達者よ、爾の保護を以て常に我を凡の敵の害より護り給へ。 光榮

光樂の日たるイイススよ、我が不當なる。  $\frac{1}{2}$  を照し給へ、爾を生みし、潔きがない。  $\frac{1}{2}$  を表し、我が不當なる。  $\frac{1}{2}$  を明した。  $\frac{1}{2}$  を見かした。  $\frac{1}{2}$  を表し、我が不當なる。  $\frac{1}{2}$  を明した。  $\frac{1}{2}$  を見かした。  $\frac{1}{2}$  を表し、  $\frac{1}{2$ 

第八調 主日の晩堂課 七四九

第八調 月曜日の早課 七五〇

惟一なる王及び主よ、我全く定罪せられて関ゆる者は爾の畏るべき再度の降臨に戰 く。故に終の前に爾に呼ぶ、仁慈仁愛なる主よ、爾を生みし者に因りて我を宥めて救 ひ給へ。

次ぎて「常に福にして」、及び伏拜。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞。其常例の 如し、并に發放詞。

### 月曜日の早課

第一の誦文の後に痛悔の坐誦讚詞、第八調。 主よ、慈憐なる眼を以て我が卑微を見よ、蓋我が生命は暫時にして終る、行に由りては我に救なし。故に祈る、主よ、慈憐なる眼を以て我が卑微を見て、我を救ひ給

つ、主よ、て = 0 情を以て我を責むる毋れ、て = 0 の窓を以て我を罰する毋れ。 鳴呼 靈 よ、審判者の降臨と畏るべき日の時とを思ひて、ここを備へよ、蓋矜恤を施 さざりし者は審判せらるる時に矜恤を獲ざらん。故に終の前に呼べ、救世主よ、我 を宥め給へ、爾獨罪なければなり。

## 光榮、今も、生神女讃詞。

無形の者は奥密に命ぜられしことを智慧の中に受けて、急ぎて<u>イオシフ</u>の家に至り、 婚姻に與らざる者に謂へり、天を傾けて降り給ふ主は變易なく全體爾の中に入り給 ふ。我は彼が爾の胎内に僕の形を受くるを見て、畏れて爾に呼ぶ、聘女ならぬ聘女 よ、慶べ。

第二の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。 きが 靈 よ、彼の畏るべき日を思ひて警醒し、爾の 燈 を燃して油を備へよ、蓋 何 の時に、視よ、新娶者來ると言ふ聲の爾に至るを知らず。故に我が靈よ、愼め、恐 らくは眠りて後五人の處女の如く門を叩きて外に留らん。 乃警醒して待て、盛に燃 ゆる燈を執りてハリストスを迎へん爲なり、然らば彼は爾を己の光榮の神聖なる殿 に入れ給はん。

句、主よ、爾の憤を以て我を責むる母れ、爾の怒を以て我を罰する母れ。 \*\*ゥ゚せいしゃ。 たれいんぶん ここと なんじん まえん なかく 教世主よ、我淫婦の如く爾の前に俯伏して、赦罪を求む、香料に代へて心より涙を爾 に捧げて、彼に於けるが如く我を宥めて、諸罪の潔淨を賜はんことを祈る。蓋我彼 の如く爾に呼ぶ、我が行の濘より我を救ひ給へ。

> 第八調 月曜日の早課 七五一

第八調 月曜日の早課 七五二

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

### 致命者讃詞

今日斯の聖堂は天の光に照さる、蓋此の中に受難者を記憶して、天使の軍は喜び、 クセピ。ダ ととも まだん クヤント たの たい たい たい たい かれい かれい かれい まとう にまりて 爾の世界に平安 と大なる 憐とを降し給へ。

### 光榮、今も、生神女讃詞。

光榮の王の門よ、慶べ、至上者獨我等の靈の救の為に之を過りて、封即せられし者として護り給へり。

## 第三の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

吾が靈よ、何の時に至るまでか怠惰の中に度生せん、何の時に至るまでか憂悶の中に居らん。不當なる者よ、憂悶の眠より起きて、爾の行を思へ、歎息して義なる審判者の言に戰け。其時爾何をか答へん、或は改めずして止まらば、如何ぞ爾を待つ焔を逃れん。終の至らざる前に審判者に呼べ、救世主よ、我に諸罪の赦を與へ給へ、爾獨恒忍なる主なればなり。

### 光榮、今も、生神女讃詞。

神の恩寵を蒙れる祝福せられし潔さ者よ、大仁慈を以て爾より生れ給ひし主に、大ななない。
大軍と天軍首及び悉くの無形の者と偕に我等の爲に恒に祈りて、我等に終の至らざる前に諸罪の赦と潔淨及び生命の更新を賜はんことを求め給へ、我等が其慈憐を獲ん爲なり。

### 第一歌頌

イルモス、 $\underline{\underline{Ax5Ay}}$ は乾ける地の如く水を過り、 $\underline{\underline{xx3y}}$ の禍を免れて籬べり、我が救主及び神に歌はん。

我智慧の恩賜を受けし者は諸慾に服するに因りて昧まされて、無知なる者と爲れり。 主よ、我が靈に起くるを與へて、爾が知る所の法を以て我を救ひ給へ。

### 致命者讃詞

第八調 月曜日の早課 七五三

第八調 月曜日の早課 七五四

業ででいた。 楽冠を冠れる讃美たる致命者よ、爾等の體は苦に因りて倒れたれども、靈は直く立ちて動かず、造成主に於ける愛は盛に燃えたり。

### 致命者譖詞

洪恩なる主よ、爾の光榮なる受難者の聖にせられし血の河は流れて、爾の力に因りて邪宗の棘を壓し倒せり。

生神女讃詞

我が信を以て常に爾を讃揚せん爲なり。

又無形なる聖天使の規程。<u>フェオファン</u>師の作。第八調。

聖なる天使等の嚮導者たる天軍首、常に神を見るを以て樂しむ者よ、我等の爲に恩主 及び救世主に祷り給へ。二次。

神聖なる天軍首よ、我等信者、災禍と誘惑とに圍まるる者は今爾等に趨り附く、主宰 の前に轉達者として熱切に我等の爲に祈り給へ。
生神女讃詞

至りて洪恩なる救世主神を身にて生みし生神童貞女よ、我の爲に避所及び港、垣墻及 び轉達者と爲り給へ。

### 第三歌頌

イルモス、主、天の穹蒼の至上なる造成者、教會の建立者、冀望の極、信者の固、獨人 を愛する者よ、我を爾の愛に堅め給へ。

で g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g が g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に g に ざかりし者に爾の慈憐の手を舒べて、先に彼を受けし如く我を受け給へ。

### 致命者潜詞

ハリストスの受難者致命者よ、爾等は神の智慧の石に堅められて、信の武器を以て 無知の棘を根より絶ちて、苦難の果を繁く結べり。

#ニピ #レス ラビ ぱヒら セxラカハ いた ニラカハ トデワ 眞の教の動かされぬ柱、教會の至りて光明なる飾、<u>ハリストス</u>の聖にせられたる羊、 ずじて屠られし者たる致命者は讃美せらるべし。

### 生神女讃詞

至聖なる者よ、我爾を苦難の中に保護者として獲たり、爾を神の前に我が眠らざる

てんたっしゃ 轉達者として有つ。至淨なる者よ、願はくは爾を審判の日に我を凡の定罪より救ふ者 として獲ん。

### 又 イルモス同上

天使の諸品の長たる天軍首、多種の恩賜に飾られたる者よ、爾等の轉達を以てハリ ストスの諸教會を堅く護り給へ。二次。

<u>ストス</u>の暗教音を至く暖り相い。一人。

TACKLE AND TACKLE AND TO TAKKOLE ASSET TO THE LAKE AND THE 

り。故に讃美たる者よ、我死の蔭に在る者を今爾の祈祷を以て生命に導き給へ。

### 第四歌頌

イルモス、言よ、預言者は樹蔭繁き山たる惟一の生神女より爾が身を取らんと欲するを神妙に見て、畏を以て爾の力を讃樂せり。

致命者の傷に由りて敵は傷つけられて、其高ぶれる首は墜ちたり。致命者に樂冠を冠らせたる主は崇められて、神聖なる歌を以て讃樂せらる。

### 生神女讃詞

神の母よ、我信を以て爾主宰の潔さ宮と爲りし者に祈る、我を凡の汚より潔めて、

### 又

神元の光明と恩惠との實見者たる至りて光榮なる天軍首よ、今爾等の群を照し給へ。

第八調 月曜日の早課 七五七

第八調 月曜日の早課 七五八

### 生神女讃詞

至りて無玷なる神の母よ、無形の者の神聖なる軍は敬みて爾を讃樂す、爾は彼等の造成主を生みたればなり。

### 第五歌頌

イルモス、主よ、爾の誠を以て我等を照せ、人を愛する者よ、爾の高き臂を以て爾の平安を我等に與へ給へ。

主よ、我不當の事を行ふ者は悪しき風習にて爾を憂へしめたり。祈る、我悔改する者を憐みて救ひ給へ。

神聖なる致命者よ、光を施す主は爾等を神智にて光る玉、迷の暗を散ずる者として置きたり。 **致命者讃詞** 

爾等は神聖なる法を以て悪の法に敵し、神を傳へて、熱切に彼の為に己を死に付し給へり。

### 生神女讃詞

### 又 イルモス同ト

神を環りて立ち、彼處より出づる煇煌に照さるる天軍首よ、爾等の群を護り給へ。

天軍首よ、衆人の教の轉達者として、我が主宰及び神に我等に教を賜はんことを祈り給へ。
生神女讃詞

純潔なる者よ、我等は爾諸恩賜の芳香を流し給ふ神を身にて生みし者を真の奥密の香料と名づく。

### 第六歌頌

イルモス、主よ、爾は獨<u>イオナ</u>を鯨の内に入れたり、我敵の網に捕はれたる者を、彼を淪滅より救ひし如く救ひ給へ。

でかり、ほどに 光を施す<u>ハリストス</u>よ、我諸罪の幽暗の中に在る者に痛悔の日光を輝かし給へ、 我が爾の慈憐を歌はん爲なり。

我常に爾の畏るべき審判に戰けども、悪を離れずして、悪しき習慣に役す。  $\underline{\underline{\underline{NUZ}}}$  トスよ、我を改め給へ、我が爾の慈憐を歌はん爲なり。

### 致命者讃詞

はいる。 尊き致命者の會は苦を忍びて、悪鬼の軍に勝ち、喜びて天使の會に合せられたり。主 は、彼等の祈祷に因りて我等の靈を救ひ給へ。

> 第八調 月曜日の早課 七五九 第八調 月曜日の早課 七六〇

### 致命者潜詞

主よ、爾は己の力を以て爾の致命者を堅固なる者と爲ししに、彼等は古の誘惑者の悉くの力を破れり。主よ、彼等の祈祷に因りて我等の靈を救ひ給へ。

### 生神女讃詞

たまれる者よ、我が靈の暗を拂ひて、我の暗き罪過を痛悔の光にて解き給へ、我が 感謝の聲を以て常に爾を讃樂せん爲なり。

### $\nabla$

イルモス、我祷を主の前に灌ぎ、我が憂を彼に告げん、我が靈は悪に滿ち、我が生命は地獄に近づきたればなり。我<u>イオナ</u>の如く祈る、神よ、我を淪滅より引き上げ給へ。 思るべき寶座の前に立つを得て、常に聖なる三者の煇煌を樂しめる見神者たる天軍首よ、今爾等に趨り附く者が諸難及び諸慾より救はれんことを祈り給へ。二次。 現れたとき、至りて光榮なるガウリイル及びミハイルよ、我等歌を以て爾等を讃樂する者が主宰の寄寓處と爲り、實在の喜を獲、神聖なる光照を受けんことを祈り給へ。

### 生神女讃詞

主宰の活ける宮、童貞の光れる光線にて、棘の中に生じたる百合の花の如く、最美しく輝く者たる至淨至聖なる生神童貞女は讃樂せらるべし。

### 第七歌頌

イルモス、昔<u>ワワィロン</u>に於て<u>イウデヤ</u>より來りし少者は、聖三の信を以て、爐の焔を蹈みて歌へり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

<u>ハリストス</u>よ、昔の税吏に於けるが如く、我に歎息を賜へ、淫婦に於けるが如く、涙 を以て我が悪の汚を洗ひて、我を宥めて呼ばしめ給へ、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

教世主よ、我靈を滅す盗賊に遇ひて、甚しく傷つけられし者を忠信なる痛悔の油にて醫して、傷感の情を以て爾に歌はしめ給へ、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

### 致命者讃詞

勇敢なる受難者よ。爾等は世の爲に死して、死者となりし<u>ハリストス</u>、生命を施す主を敢て諱まずして、苦を忍びて歌へり、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

### 致命者讃詞

睿智なる受難者よ、爾等は三者の惟一なる性を三位に於て承け認めて、偶像の多神の迷を滅して歌へり、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第八調 月曜日の早課 七六一

第八調 月曜日の早課 七六二

### 生神女讃詞

深き母童貞女よ、神の言及び神は爾の胎に入りて、爾を凡そ難に遇ひて、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼ぶ者の爲に保護者と顯し給ふ。

## 又 イルモス同上

神聖なる天軍首よ、萬衆の恩主は爾等に多種の恩寵を賜へり。今彼の教會を救ひて歌はしめ給へ、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。二次。

### 生神女讃詞

生神童貞女よ、我等は今爾を救の港と有ちて、度生の禍及び暴風を逃れて、爾の子に呼ぶ、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

### 第八歌頌

イルモス、聖なる山に光榮を顯し、棘の中に火を以て<u>モイセイ</u>に永貞童女の奥密を示しし主を歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

言よ、我肉體の逸樂に誘はれ、無知にして爾に遠かりて、禽獸の如くになりし者を遺つる母れ。救世主よ、終の前に我を返して救ひ給へ。

我聊も罪を棄てずして、常に悔改せざれし不當の者は呼ぶ、洪恩なる主よ、我爾の前に罪を犯せり、我が頑なる靈を和げ給へ。

### 致命者讃詞

主の勇敢なる受難者は血の流の中に洗を受けて、再び汚されざりき、故に樂冠を冠 りて絶えず諸天使と偕に祝ふ。 致命者讃詞

敬虔にして勇敢なる至命者は將來の福の望に堅められて、厲しき苦を忍び、世を逝 りて常に主宰の寶座の前に立ち給ふ。

生神女讃詞 こうていじょ 童貞女よ、爾は立てる者の保固、墜ちたる者の更新なり。故に我墜ちたる者を起し給 へ、我が爾祝福せられて恩寵を蒙れる者を讃樂せん爲なり。

イルモス、天使の軍の歌ふ所の天の王を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

ハリストスよ、爾の測り難く言ひ難き光榮の前に立ちて世世に之を歌ひ、今我等の爲 に爾に祷る者を受け給へ。二次。

獨一至仁なるハリストスよ、世世に爾を歌ふ天使の軍、今我等の爲に祈る者を受け給

### 生神女讃詞

七六三 月曜日の早課

七六四 第八調 月曜日の早課

神の母よ、信を以て爾を歌ひて、萬世に讚め揚ぐる者を爾は己の至りて光明なる煇煌 にて照し給ふ。

次ぎて生神女の歌を歌ふ、「我が靈は主を崇め」、附唱と共に、「ヘルワィムより尊く」。 并に叩拜。

### 第九歌頌

イルモス、凡の者は神の言ひ難き寛容の事、如何に至上者が甘じて肉體を取るまで に降りて、童貞女の腹より人と爲りしかを聞きて、恐れざるなし。故に我等信者は至淨 なる生神女を崇め讃む。

教世主言よ、昔涕泣して爾の前に俯伏せし淫婦を潔めし如く、唯歎息せし税吏を義 と爲しし如く、マナッシャを受けし如く、痛悔せしダワィドを憐みし如く、仁愛な る主よ、斯く我をも受けて、我を救ひ給へ。

こましい たんそく し、でいきゅう なんじ まえ つみ はな 明 に 爾の隱なる事を知る主の前 の罪を離れて、明 に 爾の隱なる事を知る主の前 に俯伏して、熱切に呼べ、主よ、我爾の前に罪を犯せり、慈憐の淵を有つ大仁慈な る主よ、功なくして我に慈憐を垂れ給へ。

### 致命者讃詞

勇ましく地上に苦を忍びたる神の受難者は今天國の奪はれざる業を受け、天堂の かんらく まずか よろこ かみ かれ ら まとう ま しゃれ ら なんじ こうえい あずか ちの 甘樂に 與りて悦ぶ。ハリストス神よ、彼等の祈祷に因りて我等を爾の光樂に與る者 と爲し給へ。

### 致命者讃詞

にせられし光線にて凡そ爾等の光明なる祭を祝ふ者を照し給ふ。

### 生神女讚詞

光の門たる潔き女宰よ、祈る、罪過の深き暗に味まされたる吾が心の首を照し、我に痛悔の光線を注ぎて、爾の轉達を以て我を永遠の火より救ひ給へ。

### 又

イルモス、 潔 き 童貞女よ、我等爾に依りて救はれし者は爾を實に生神女と承け認めて、無形の軍と偕に爾を崇め讃む。

ハリストスよ、爾の教會を今徳を以て無形の者の品位に数ふ者と為し、天使等を以て爾の牧群を護り給へ。二次。

至りて光榮なる諸天使・轉達者よ、爾等の帡幪の下に趨り附く者の 靈 に神より 救の賜はらんことを祈り給へ。 生神女讃詞

童貞女よ、爾は義の日たる<u>ハリストス</u>を手に抱きて、幽暗に在る者及び迷ひし者の爲に朝として輝き給へり。

第八調 月曜日の早課 七六五

第八調 月曜日の早課 七六六

次に「常に福にして」、及び伏拜。其後小聯祷、光耀歌、常例の聖詠、及び其他。

### 挿句に痛悔の讃頌、第八調。

我行ひたる悪の多きを思念の中に入れ、又彼の畏るべき詰問を懐ふ時、恐れ戦きてないではいる神に趨り附きて祈る、獨罪なき主よ、我を遺つる母れ、終の先に我が卑微なる 靈に傷感を賜ひて、我を救ひ給へ。

句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。 なんじわれら。 爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代へて、我等を樂しましめ給へ。願はく は爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

が神よ、昔の罪ある婦に於けるが如く、我に涙を與へて、迷の途より我を去らしめたる爾の足を濡し、病悔を以て潔めたる生命を香香として爾に奉るを得しめ給へ、我も爾の慕ふべき聲、爾の信は爾を救へり、安然として往けと云ふを聞かん爲なり。何、願はくは主吾が神の惠みは我等に在らん、願はくは我が手の工作を我等に助け給へ、我が手の工作を助け給へ。

### 致命者讃詞

聖なる者よ、我等何を以てか爾等を稱せん、<u>ヘルワイム</u>とせんか、<u>ハリストス</u> 爾等の上に息いたればなり、<u>セラフィム</u>とせんか、爾等絶えず彼を讃樂したればなり、天使とせんか、爾等内體を捨てたればなり、能力とせんか、爾等奇跡を行へばなり。爾等の名は多く、恩賜は更に多し。我等の靈の教はれんことを祈り給へ。

## 光榮、今も、生神女讃詞。

製籠を蒙れる者、聘女ならぬ母よ、天の者は爾を歌ひ、我等も爾の究め難き産を崇め讃む。生神女よ、我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

次ぎて「至上者よ、主を讃榮し」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、聯祷。次に 第一時課、常例の聖詠、其他、并に發放詞。

### 月曜日の眞福詞、第八調。

<u>ハリストス</u>、世界の教主よ、木に在りて盗賊を憶ひし如く、我等を憶ひ給へ、獨洪恩 なる主よ、我等衆に爾の天國を獲しめ給へ。

句、義の為に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。 ハリストス、獨靈體の醫師なる主よ、我が靈の慾を醫し、慈憐なるに因りて、涙 の流を以て我を滌ひて、全く潔め給へ。

第八調 月曜日の眞福詞 七六八 句、人我の爲に爾等を詬り、窘逐し、爾等の事を譌りて諸 の悪しき言を言はん時 は、爾等福なり。

寶座と<u>ヘルワィム</u>、首領と權柄、及び他の無形の者の品位は尊貴なる神元の寶座を繞 りて、聖歌を以て之を歌頌す。

句、喜樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

### 致命者讃詞

<u>ハリストス</u>を愛する愛にて盛に燃ゆる受難者は火の中に焚かれぬ者と止まりて、神 の恩寵を以て邪宗の棘を焚き給へり。

鳴呼至聖なる三者、無原なる惟一者よ、爾の神聖なる無形軍の祈祷に因りて、爾の よりない。 諸僕を滅えざる火より救ひて、爾の國を獲しめ給へ。

今も  $^{hh}$   $^{hh}$  ひ難く言は録されたり、我等を生命の書に録し給ふ言なり。

### 月曜日の晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に痛悔の讃頌、第八調。 句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人 の爾の前に敬まん爲なり。

我は傷感をも、涙の泉をも、熱切なる承認をも、潔むる涕泣をも、心の謙卑をも得 ざりき、我は税吏にも、罪女にも、蕩子にも效はざりき、如何ぞ我が多くの罪の赦

を得ん。唯祈る、<u>ハリストス</u>よ、爾が知る所の法を以て我を救ひ給へ。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

我神の孔の誠に遠ざかり、徳行の事を聊も思はざりき、無知にして怠惰の中に 我が一生を費し、放蕩を以て我が不當不法なる一切の行為を為せり。祈る、ハリス トスよ、慈憐なるに因りて憐みて、功なくして我を救ひ給へ。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより 甚 し。

慈憐の測り難き淵に因りて我の爲に甘じて我に似たる者と爲りし仁愛なる主よ、無知 にして爾に離れたる爾の仁慈の手の行爲たる我を爾の憤を以て責むる母れ。言 よ、永貞童女たる爾の母の祈祷に由りて、神として、我に神聖なる悔改を得しめ給

> 七六九 第八調 月曜日の晩課

第八調 七七〇

はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

るでである。 福たる前驅<u>イオアン</u>よ、我が卑微なる靈を常に主を愛する愛に養ひ、爾の聖なる 轉達を以て我が慾の火を滅して、我を神の誠を行ふに導き、吾が心の感覺を潔め給 へ、我が爾を讃樂せん爲なり。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

胎の荒れたる者の産、主宰の潔淨なる植物、人人の飾、讃美たる前驅イオアン、我が卑 しき靈の神聖なる守護者よ、爾の祈祷と佑助とを以て我に主の寛容を得しめ、我を蛇 の悪謀、其姦悪なる誘惑及び攻撃より救ひ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

全體世味にして神聖なる世味に滿ちたる常に光榮なる前驅よ、爾は凡そ信を以て爾 に來る者を樂しませ、其靈體の感覺を慰め、常に病と憂、誘惑と靈を殘ふ逸樂を 我等より除き給ふ。

## 光榮、今も、生神女讃詞。

潔き神の母よ、我信を以て爾の帡幪の下に趨り附く、我を憂愁と災禍、諸慾の懊惱 と悪鬼の毒害より救ひ給へ。蓋爾は、女宰よ、慈憐の淵を有ちて、救の轉達者と現 れ給へり、仁慈なる神、獨至りて洪恩にして仁愛なる主を生みたればなり。

次ぎて「穩なる光」。本日の<mark>提綱</mark>。其後「主よ、我等を守り」。

## 挿句に痛悔の讃頌、第八調。

諸天使は絶えず爾王及び主宰を歌頌す、惟我は爾の前に俯伏して、税吏の如く呼ぶ、 神よ、我を潔め、我を憐み給へ。

句、天に居る者よ、我自を擧げて爾を望む。視よ、僕の自主人の手を望み、婢の自主婦 の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

を淨め、我を救ひ給へ。

句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は悔に饜き足れり。我等の靈 は驕る者の辱と誇る者の侮とに饜き足れり。

### 致命者讃詞

主の致命者よ、爾等に祈る、我等の神に祈りて、吾が靈の爲に多くの慈憐と多くの罪 の潔とを求め給へ。

> 第八調 月曜日の晩課

七七二 第八調 月曜日の晩堂課

## 光榮、今も、生神女讃詞。

世界の譽よ、慶べ、主の殿よ、慶べ、樹蔭繁き山よ、慶べ、衆人の避所よ、慶べ、精金 の燈臺よ、慶べ、正教の者の尊貴なる光榮よ、慶べ、<u>ハリストス</u>神の母<u>マリヤ</u>よ、慶 べ、樂園よ、慶べ、神聖なる筵よ、慶べ、幕よ、慶べ、純金の壷よ、慶べ、衆人 の倚賴よ、慶べ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、聯祷、 及び發放詞。

#### 月曜日の晩堂課

至聖なる生神女に奉る祈祷の規程。第八調。

イルモス、<u>イズライリ</u>は乾ける地の如く水を過り、<u>エギペト</u>の禍を免れて籲べり、 我が教主及び神に歌はん。

附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。 神の母よ、我等皆爾を祈祷の泉、信者の靈體に恩惠の流を注ぐ者と知る。故に絶え ず爾を讃樂す。

プロスターの という なんじゅ せい ここ しんげん ことば う せい きゅうかい すく たま もと まち 童貞女よ、爾は性に超えて神元なる言を生みて、性を朽壊より救ひ給へり。求む、無知 にして性に戻る諸慾より我を釋き給へ。

を其害より救ひ給へ。

を新にし給へり。

### 第三歌頌

イルモス、主よ、爾は爾に趨り附く者の固、爾は昧まされし者の光なり、我が神 は爾を歌ふ。

至淨なる女宰よ、我を攻めて、 甚 しく吾が心を擾す 諸 の誘惑を防ぎて、我を諸罪 諸慾より解き給へ。

至淨なる者よ、爾の洪恩の淵は測り難し、此を以て我をも諸罪諸病より救ひ給へ。

第八調 月曜日の晩堂課 七七三

第八調 月曜日の晩堂課 七七日 至淨なる者よ、急ぎて我病める者に臨みて、我を重き病及び凡の憂より救ひ給へ。

至淨なる者よ、爾の祈祷の慈憐と保護とを我の上に偉大なる者と顯して、我を災禍及 び憂愁より救ひ給へ。

## 第四歌頌

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を聆き、爾の作為を悟り、爾の神性を讃樂せり。 至淨なる者よ、我に常に聖なる 誠 を憶ふを以て吾が心の潔淨及び諸罪の防禦と爲す を得しめ給へ。

至りて無玷なる者よ、我に靈體の救、我病む者に醫治と、苦より脱るることを與へ給

#### 光榮

至淨なる者よ、詭譎なる悪鬼の奸計を虚しくし、諸慾の動揺を鎮め、不能なる我等に力

至淨なる者よ、爾の胎内より義の日は輝き出でて、世界を照せり、彼の神聖なる光線 にて我をも照し給へ。

#### 第五歌頌

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐れなる我を掩 へり。祈る、我を返して、我が途を爾の誠の光に向はしめ給へ。

至聖にして讃美たる童貞女よ、爾の産にて死の桎梏は解かれ、朽壊の權は縛られた り。求む、亟に我が諸罪と重き憂との縲絏をも解き給へ。

ひとりおよそ にくだい としれい という きゅうせいしゅおよ しょ ター・ ことが かれ かくき の さくがい およ ひとびと 獨 凡 の 肉體 と 神靈 と の 醫師、救世主及び主を生み し女宰よ、我を悪鬼の毒害及び人人

の懊悩より救ひて、吾が靈體の病を亟に醫し給へ。 光祭 音音 である者よ、爾に祈る、神聖なる熾炭の 鉗 として、爾の僕の凡の慾と忍び難き苦難 とを焚き、憂の流を涸らし給へ。

とを焚き、憂の流を涸らし給へ。 今も 純潔なる女宰よ、爾の子は凡そ彼を信じて、明に爾より身を取りし神と傳ふる者 に爾を救として賜へり。祈る、我を諸の災禍及び憂愁より救ひ給へ。

イルモス、救世主よ、我を淨め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を悪の淵より引 き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が教の神よ、我に聽き給へ。

女宰よ、爾の慈憐なる眼を以て我を顧みて、・
変に我を苦しき病、凡の懊惱、敵の網、

及び堕落より救ひ給へ。

月曜日の晩堂課 七七五

第八調 月曜日の晩堂課 七七六

至淨なる女宰よ、爾の祈祷を以て我を無知なる慾の習慣、冒嫉と凡の悪事、及び度生 の懊悩より救ひ給へ。

童貞女よ、我等を造りし主は爾の内に造られて、人の性を朽壊より救ひ給へり。 潔 き者よ、我をも爾の祈祷を以て我を圍む諸の誘惑より救ひ給へ。

至淨なる女宰よ、爾は容れ難き神身の至りて潔き殿と爲り給へり。爾の祈祷を以 て我をも彼の恩寵の殿と爲して、諸害より護り給へ。

次ぎて主憐めよ、三次。光榮、今も、

# 坐誦讃詞、第八調。

我等萬族は爾種なく身にて神を生みし童貞女、女の中に獨なる者を讃美す。蓋神性 の火は爾の内に入り、爾は造成者及び主を赤子として乳にて養ひ給へり。故に天使の品位及び人の族は宜しきに合ひて爾の至聖なる産を讃楽し、我等は同心に爾に呼 ぶ、敬しみて爾の光樂を歌頌する者に諸罪の赦を賜はんことをハリストス神に祈り 給へ。

### 第七歌頌

イルモス、昔<u>ワワィロン</u>に於て<u>イウデヤ</u>より來りし少者は、聖三の信を以て、爐の焔

の祈祷を以て亟に我に健康を與へ給へ。

福たる童貞女、凡そ憂に遇ふ信者の避所なる者よ、我を諸の誘惑及び憂愁より援け、 

り不能と罪過の汚とを除き給へ。 今も神の母よ、我等は爾より言ひ難く生れし言、父及び聖神と同無原なる主を絶えず讃榮 して讃め歌ふ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

#### 第八歌頌

イルモス、<u>ハルデヤ</u>の窘迫者は怒に堪へずして、敬虔の者の爲に爐を七倍熱くしたれども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼べり、少者よ、崇め讃 めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。 女宰よ、我等皆信を以て爾の保護に趨り附く者は爾の諸奇跡の偉大なるを傳ふ。祈

月曜日の晩堂課 第八調

る、今我を甚しき不能及び靈と體との病より援けて、健康の者と爲し給へ、我が爾

の子ハリストスを世世に讃樂せん爲なり。

冒嫉の風は甚しく吹き、凶悪の河は溢れて、我が神靈の家を衝きたり。祈る、潔 き童貞女よ、烈しく浪たつ海を鎮むるが如く、凡の憂の暴風を治めて、爾の祈祷に由 りて我に世世の安静を得しめ給へ。

童貞女よ、人の體を土より造り、其内に不死なる靈を入れし主は爾の内に造られ て、復之を新にし給ふ。祈る、爾の祈祷を以て彼を我等の爲に寛容慈憐なる主と爲 して、凡そ憂ふる者に速に力と救とを與へ給へ。

を讃樂する者を照して、爾の諸僕を夜の暗黒なる震驚と悪鬼の攻撃より救ひ給ふ。祈 る、爾の祈祷を以て我をも此等より脱れしめて、我を圍む禍より救ひ給へ。

## 第九歌頌

イルモス、潔き童貞女よ、我等爾に依りて救はれし者は爾を實に生神女と承け認 めて無形の軍と偕に爾を崇め讚む。

至淨なる者よ、教會の角を高くし、信者に敵に對する力を與へ、國の權柄を堅め給

より害なく護り給へ。

世いきょう しんじゃ ゆいいち ふじょしゃ なんじ きとう もっ なんじ きんえい もの まも りて、速 に其救 正教の信者の惟一の扶助者よ、爾の祈祷を以て爾を讃榮する者を護りて、速 に其救

の諸敵を辱しめ給へ。 今も 童貞女よ、信者の會を導き、之を堅めて、其見ゆると見えざるとの敵に勝たれぬ者 と為して、凡の憂より救ひ給へ。

次ぎて「常に福にして」、及び伏拜。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞。其他常例 の如し并に發放詞。

> 第八調 七七九 月曜日の晩堂課

第八調 火曜日の早課 七八〇

#### 火曜日の早課

第一の誦文の後に痛悔の坐誦讃詞、第八調。 主よ、慈憐なる眼を以て我が卑微を見よ、蓋我が生命は暫時にして終る、行に由り ては我に救なし。故に祈る、主よ、慈憐なる眼を以て我が卑微を見て、我を救ひ給

句、主よ、爾の憤を以て我を責むる母れ、爾の怒を以て我を罰する母れ。 鳴呼靈よ、審判者の降臨と畏るべき日の時とを思ひて、己を備へよ、蓋矜恤を施 さざりし者は審判せらるる時に矜恤を獲ざらん。故に終の前に呼べ、救世主よ、我 を宥め給へ、爾獨罪なければなり。

## 光榮、今も、生神女讃詞。

我等信者は信の動かざる固、吾が靈の尊き賜たる生神女を歌を以て崇め讃む。爾 の胎内に生命の石を入れし者よ、慶べ、四極の恃賴、憂ふる者の慰藉よ、慶べ、聘女 ならぬ聘女よ、慶べ。

# 第二の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

に捧げて、彼に於けるが如く我を宥めて、諸罪の潔淨を賜はんことを祈る。蓋我彼 の如く爾に呼ぶ、我が行の濘より我を救ひ給へ。

を待ちて、火の苦と滅されぬ焔とを以て我を嚇す。衆人が救を得んことを欲する主 よ、我に涙の雨を與へて、其力を滅し給へ。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

## 致命者讃詞

聖なる致命者よ、爾等は靈智なる光體と現れたり、蓋信を以て迷の幽暗を散じ、爾等 の靈の燈を盛に燃して、光榮を以て新娶者と偕に天の宮に入りたり。求む、今我等 の靈の数はれんことを祈り給へ。

## 光榮、今も、生神女讃詞。

が靈を我が卑賤なる體より離す時、我何をか爲さん。其時爾我が爲に扶助者及び 轉達者と爲り給へ、我爾の僕は爾を恃賴とすればなり。

## 第三の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

火曜日の早課

主宰ハリストスよ、我は爾の畏るべく驚くべく偏頗なき審判の日と時とを畏念の中 に入れて、罪犯者として戰く、我に恥づべき行、最悪しき行為、唯我のみ行ひし者 あり。故に我畏を以て爾の前に俯伏して、傷ましく呼ぶ、大仁慈なる主よ、爾の前驅 の祈祷に因りて我を救ひ給へ。

意りて生命を費しし吾が靈よ、今起きて、痛悔に目を注げ、心の深處より痛く哭 け、否ずば彼處に於て徒に突くことを免れざらん。主宰の再度の降臨を思ひて戰 け、審判の前に自ら己を定罪せよ、然らば其義なる審判を逃れん。

## 光榮、今も、生神女讃詞。

ハリストスよ、爾の無形なる軍と爾の前驅、門徒と預言者、致命者と衆聖人、及び婚姻 に與らざる生神女、爾の慈憐なる母の祈祷に因りて、爾の大仁慈を以て我等に爾の 光の中を行きて、爾の國に入るを得しめ給へ。

我が主 $\overline{1/2}$  ハリストス及び其聖致命者に奉る痛悔の規程。 $\overline{1/2}$  師の作。第 八調。

## 第一歌頌

イルモス、我等は其手にて敵を敗り、<u>イズライリ</u>に紅の海を過らせし者を、吾が教主神として歌はん、彼光榮を顯したればなり。

ハリストスよ、吾が心を傷感に滿て給へ、我が痛悔を以て爾の居所に入り、讃美を以て爾我を罪債より解き給ふ主に祈らん爲なり。

<u>ハリストス</u>よ、爾の致命者の光榮は高大なり、蓋彼等は勇敢に苦を忍びて後、爾の至大なる恩寵を蒙りたり。 **致命者讃詞** 

童貞女よ、我に痛悔の途を示して、罪に往かしむる途より返し給へ、我が爾讚美たる神の母を歌頌せん爲なり。

## 又聖大前驅イオアンの規程。第八調。

<mark>イルモス、苦</mark>しむる<u>ファラオン</u>を海に溺らし、<u>イズライリ</u>を乾ける地にて導きし<u>ハ</u>リストスに歌はん、彼世世に光榮を顯したればなり。

前驅、悔改の傳道師よ、我愛を以て爾を尊む者の智慧と心とを照して、我に 靈 を全

第八調 火曜日の早課 七八三

第八調 火曜日の早課 七八四

くして痛悔するを得しめんとことを救世主及び主に祈り給へ。

野の至りて美しき羊たる前驅、ハリストスの致命者よ、今我諸慾の野に居る者を爾の神聖なる祈祷を以て痛悔の生命に導き給へ。

睿智なる前驅よ、祈る、爾の轉達を以て我を苦しむる罪より速に我を解きて、我に向ひて起す所の悪鬼の暴風を鎮め給へ。

生神女讃詞

## 第三歌頌

イルモス、我が心は主の中に整められ、我が角は我が神に在りて高くなり、我が口は我が敵に向ひて開け、我は衛の教の為に樂しめり。

吾が $\frac{NUストス}{5}$ よ、至仁なる主として我が心の悪の汚を滌ひて、我に無垢なる者として畏るべき日に爾の前に現るるを得しめ給へ。

受難者は互に呼べり、勇ましく立ちて、一人も 戦 を辭すべからず、主宰は助くる者として、我等勇敢の心を抱きて 苦を受くる者の前に立ち給ふ。

我等象信者は歌を以て教會の最尊き石、敬虔の神聖なる柱、迷の勝利者たる主の致命者を尊まん。

生神女讃詞

陥りたる者の更新なる生神女、女宰よ、落ちたる我を悪の隍より起して、神の誠の石に堅く立て給へ。

#### 又

イルモス、言を以て天を堅めし主よ、我が智慧と心とを堅めて、我等に靈の救の爲 に爾を歌ひて讃樂せしめ給へ。

慈憐の淵たる衆人の主を河に洗せし前驅、至榮なる致命者よ、我にも痛悔の點滴を注ぎ給へ。

神福なる前驅よ、我夜の祈祷の中に爾世界の晝の燈灯を呼ぶ、吾が心の感覺を照し給へ。
生神女讃詞

第八調 火曜日の早課 七八五

我等敬みて呼ぶ、聖なる生神女よ、慶べ、世界の為に歡喜を生みし者よ、慶べ、天 の「マンナ」の此より衆信者に與へられし壷よ、慶べ。

#### 第四歌頌

イルモス、主よ、我爾の風聲を聞きて懼れたり、蓋爾は永在の神にして、言ひ難き攝理を以て、童貞女より身を取りて出で給へり。ハリストスよ、光榮は爾の寛容に歸し、光榮は爾の力に歸す。

主、神の言よ、爾は親ら我多く爾の前に罪を犯しし者の隱れたる私なる事を知る。 だいじんじ 大仁慈なるに因りて、多くの慈憐を我に垂れて、痛悔の潔淨の時を與へ給へ。

### 致命者讃詞

渡の如く、苦に溺らさるる致命者は<u>ハリストス</u>の嚮導に因りて天の國の港に送られて、實に彼より勝利の榮冠にて飾られたり。 <mark>致命者讃詞</mark>

致命者は敬虔を以て心の地を新にし、其中に承認の種を播き、恩寵に因りて苦のではいる。 生神女讃詞

讃美たる女宰よ、我大なる聲を以て爾を歌頌する者の心を喜に滿てて、我に善き涙と、熱心なる痛悔と、真の教とを與へ給へ。

#### $\nabla$

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を聆き、爾の作為を悟り、爾の神性を讃樂せり。

我常に正しからざる生を度りて、己の爲に泣く。前驅よ、罪に由りて込ぶる我を憐みて救ひ給へ。

福たる者よ、願はくは我祈祷祈願の中に爾を我が靈を固め、我が思を照す挟助者とて獲ん。

<u>ハリストス</u>の授洗者よ、我諸罪の暴風に溺らされて難に遭ふ者を神聖なる智識の港に導き給へ。
生神女讃詞

卑くなりたる人性を高くせし主を生みし至淨なる者よ、高ぶりて生を度る我を卑くして救ひ給へ。

#### 第五歌頌

イルモス、光を施すハリストス神、創造の始めの淵の暗を退けし主よ、我が靈の晦冥を散らして、言よ、我に爾が誠の光を與へ給へ、我が夙に興きて爾を讃樂せん爲なり。

第八調 火曜日の早課 七八七

第八調 火曜日の早課 七八八

罪女及び癩病者を爾の命を以て潔め給ひし主宰。萬有の造成主よ、祈る、我が卑微なる靈を汚はしき罪より潔めて、光明なる衣にて飾り給へ。

ハリストス神よ、我を多くの我が罪の桎梏より解きて、 礙 なく 爾の途を行くを得し を禁め給へ、我が肉體より解かれて、聖なる安息所に入りて、 爾を讃樂せん爲なり。

## 致命者讃詞

致命者は己の爲に苦より光樂の衣を織りて、美しく衣せられ、勝利の華美なる樂冠に飾られて、喜を以て天上の國に住ひ給ふ。 **致命者讃詞** 

致命者は睿智にして流るる諸事に易へて住まる事を得たり、蓋暫時に過ぎ去る苦を 忍びしに因りて永遠の天國に至りて、今其中に喜び給ふ。

#### 生神女讃詞

聖なる生神女、獨衆聖人の中に息ひ給ふ聖なる言を身にて生みし者よ、常に悪事に居る我が心を聖にし給へ。

#### 又

イルモス、<u>ハリストス</u>よ、願はくは無知の夜の後、爾の 顔 の光の中に、神智の日は我等朝の讃美を爾に 奉る者の心に輝かん。

義の日の燈たる光榮なる前驅よ、生命の夜に迷ひし我を照し給へ。

前驅よ、將來の審判に我が主の前に立たん時、願はくは爾我が轉達者と爲りて、我 を畏るべき定罪より脱れしめん。

常に歌はるる前驅よ、我攻められて悪鬼の誘惑に動かさるる者を神の旨の石に固め給

### 生神女讚詞

神の母永貞童女よ、悉くの造物より至りて上なる者として、我を敵の網より上なる者

と爲し給へ。

#### 第六歌頌

イルモス、 $\underline{\underline{\underline{NUX + Z}}}$ 神よ、祈る、預言者を最下なる深處より脱しし如く、我をも吾が諸罪より脱して、我が生命を理め給へ、爾人を愛する主なればなり。

<u>ハリストス</u>よ、爾に祈る、昔爾の預言者の神聖なる傳道を信じて痛悔せし<u>ニネワイ</u> 上版 ごと  $\frac{x_{hh}}{x_{hh}}$   $\frac{x_{hh}}{x_{hh}}$   $\frac{x_{hh}}{x_{hh}}$   $\frac{x_{hh}}{x_{hh}}$   $\frac{x_{hh}}{x_{h}}$   $\frac{x_{h}}{x_{h}}$   $\frac{x_{h}}{x$ 

我税吏の如く歎息し、淫婦の如く泣き、<u>ペトル</u>の如く呼ぶ、<u>ハリストス</u>よ、我多くの罪に溺らさるる者に援の手を授けて、我を救ひ給へ。

ないればいりの立となる者に接の手を授けて、我を救ひ給へ。 **致命者讃詞** 

第八調 火曜日の早課 七八九

第八調 火曜日の早課 七九〇

生神女よ「マンナ」を納るる壷は昔爾を預象せり、蓋爾は凡そ爾を尊む者の爲に神智の「マンナ」を前らし給ひしハリストスを宿し給へり。

又

イルモス、光を衣の如く衣る慈憐の深き<u>ハリストス</u>我が神よ、我に光明の衣を予へ給

を指述する<u>イオアン</u>よ、真の悔改の斧を以て全く我が心を潔めて、之を繁く諸徳の果を結ぶ者と爲し給へ。

前驅よ、我患難の鯨に呑まれて、吾が心の深處より爾に呼ぶ、我を甚しき苦より救ひ給へ。

きが<u>震</u>よ、熱心に悔改せよ、視よ、審判は邇づけり、興きて呼べ、我が神<u>イイスス</u>よ、爾の前驅に由りて我を宥め給へ。

生神女讃詞

のとりことば、よりて身を以て言を生みし潔き者よ、祈る、我等の靈を敵の網より救ひ給へ。

## 第七歌頌

イルモス、天使を以て少者を火より救ひ、鳴れる爐の焔を露に變ぜし吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

宏恩なる主よ、我は不法の中に孕まれて生れし者にして、衆人に超えて罪を犯せり。我に悔改の時を與へて、我を義と爲らしめ給へ。

った。 潔き者よ、爾は原因に超えて、萬有の原因たる主、大仁慈に因りて人と爲りし者を生み給へり、故に我等心を合せて爾を讃頌す。

又

イルモス、太初に地を基づけ、天を言にて固めし主、我が先祖の神よ、爾は世世に崇

第八調 火曜日の早課 七九一

第八調 火曜日の早課 七九二

め讃めらる。

主の爲に道を備へし前驅よ、我が道をも彼に向はしめ給へ、我が呼ばん爲なり、我が 先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

<u>ハリストス</u>の睿智なる授洗者、荒れたる胎の實の繁き産なる者よ、衛の祈祷を以て吾が荒れたる心を化して、繁く實を結ぶ者と爲し給へ。
神神女讃詞
神の言の選ばれたる牝羊よ、爾より身を取りし神に祈りて、畏るべき時に於て我を選ばれたる羊に加へんことを求め給へ。

### 第八歌頌

イルモス、水の上に己の宮を建て、沙を以て海の界を定め、一切を持つ主よ、日は爾を歌ひ、月は爾を讃め、造物は皆世世に爾萬有の造成主に歌頌を獻る。

春が靈よ、爾は諸の悪事を以て手を汚せり、如何ぞ之を上に擧げて神に祈らん。爾は恥づべき行爲に行きて、足を不當なる者と爲せり、痛悔を以て務めて救の道を行け。

仁慈なる主よ、我聊も爾の誠を守らず、一日も爾の旨を行はざりき、爾が義なる審判を行ひて、罪ある者を「ゲエンナ」の火に遣す時、我其時何の目を以てか爾を見ん。

### 致命者讃詞

睿智なる受難者よ、爾等は造物主を愛するに因りて非義なる苦を受くる時、多くの水の如く爾等の血を流して、多神の燃ゆる爐を滅し給へり。故に福樂の流を繼ぎ給ふ。

### 致命者讃詞

聖なる者よ、爾等は地上の卑微なる身に超えて、他人の身に於けるが如く諸の苦と手足の斷たるることとを忍びたり。故に今天上の世世の生命を受け給へり。

#### 牛神女潜詞

深き女宰よ、我爾に呼ぶ、我罪の暴風に打たるる者を爾の轉達を以て救ひの痛悔及び至りて穏なる港に向はしめ給へ、我常に怠惰に味まさるる者が救の光を見ん爲なり。

又

イルモス、無原なる光榮の王、天軍の戰く主を、司祭よ、歌へ、民よ、萬世に讃め揚げよ。

授洗者よ、爾が衆に崇しし神の盖、世界の罪を任ふ者に、吾が諸慾を殺して、我が靈

第八調 火曜日の早課 七九三

第八調 火曜日の早課 七九四

を救はんことを祈り給へ。

主の授洗者よ、我が 靈 の重負を輕くし、我と戰ふ者に勝ちて、我を其の悪業に傷つけられぬ者と爲し給へ。

預言者よ、爾は遠く離れて過られぬ野に居りたり。故に我爾に祈る、吾が靈の荒れたる諸慾を速に遠ざけ給へ。 生神女讃詞

童貞女よ、爾は葡萄の樹にして、熟したる房を生じ給へり。祈る、今我に傷感の飲料を飲ませて、我が罪悪の醉を醒まし給へ。

次に生神女の歌を歌ふ、「我が靈は主を崇め」。

#### 第九歌頌

イルモス、祝讃せらるる哉主、イズライリの神、我等の爲に救の角を其の僕<u>ダワイドの家に興しし者よ、東旭は上より我等に臨みて、我等を平安の道に向はしめたり。ハリストス</u>教世主よ、我肩に多くの傷を受けし者を顧みて、爾の慈憐の酒と油とを之に灌ぎて醫し給へ、我も救はれて感謝の心を抱きて爾を崇め讃めん爲なり。

我等の爲に苦を受けし主の苦に效いたる受難者よ、爾等は今彼と共に榮せられて、 神聖なる共與を以て神成せられ、物質の日の光よりも盛に輝きて、信者の心を照し給 ふ。

#### 致命者讃詞

聖なる受難者の徳は光り、其至榮なる奇跡の恩賜は盛に輝けるに、凡の城邑は信に由りて斯の眞に奪はれぬ寶にて富まさる、我等は彼等を熱切なる轉達者として歌頌す。

## 生神女讚詞

純潔なる者よ、爾の胎より出でたる神の子の輝ける光線にて信を以て爾を歌ふ者を では、爾の轉達を以て我等を外の幽暗と永遠の苦より脱れしめ給へ。

#### $\nabla$

言よ、我が爾の畏るべき寶座の前に立ちて、我が行の詰問せられん時、我不當の者は何の答をか爲さん。主我が神よ、爾の授洗者に因りて、其の時我を宥め給へ。

第八調 火曜日の早課 七九五

第八調 火曜日の早課 七九六

言の聲たる睿智なる授洗者よ、我が聲を神に向はしめ、我を魔鬼の悪業と人人の誘惑より救ひ給へ、我が職として爾を讃頌せん爲なり。

授洗者及び預言者よ、我を<u>ハリストス</u>の誠の不死なる糧に魘かせ、我に生活の飲料を飲ませて、爾の帡幪の下に趨り附く者を救はれし者として神の前に立たしめ給へ。

#### 生神女讃詞

至潔至榮なる女宰童貞女よ、前驅と偕に爾の子及び王に、信を以て爾を讃美する者を凡の患難より救はんことを祈り給へ。

次ぎて「常に福にして」。及び伏拜。小聯祷。光耀歌、及び常例の聖詠。

## 挿句に痛悔の讃頌、第八調。

神よ、昔の罪ある婦に於けるが如く、我に涙を與へて、迷の途より我を去らしめたる爾の足を濡し痛悔を以て潔めたる生命を香膏として爾に奉るを得しめ給へ、我も爾の慕ふべき聲、爾の信は爾を救へり、安然として往けと云ふを聽かん爲なり。何、願はくは主吾が神の惠は我等に在らん、願はくは我が手の工作を我等に助け給へ、我が手の工作を助け給へ。

### 致命者讃詞

聖なる者よ、爾等は大に勤勞し、不法者より受けたる苦を勇しく忍びて、ハリストスを諸王の前に承け認めたり。斯の生命より移されし後復世に異能を行ひて、病む者を其苦より醫し給ふ。聖なる者よ、我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

## 光榮、今も、生神女讃詞。

生神童貞女よ、爾の庇蔭は屬神の醫治なり、我等之に趨り附きて、靈の諸病より救はるればなり。

次ぎて「至上者よ、主を讃樂し」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、聯祷。次に 第一時課、常例の聖詠、其他、并に發放詞。

 $\sim\sim\sim\sim\sim\sim\sim\sim$ 

 第八調
 火曜日の早課
 七九七

 第八調
 火曜日の眞福詞
 七九八

火曜日の眞福詞、第八調。

<u>ハリストス</u>、世界の教主よ、木に在りて盗賊を憶ひし如く、我等を憶ひ給へ、獨洪恩なる主よ、我等衆に爾の天國を獲しめ給へ。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

<u>ハリストス</u>よ、慈憐の淵を有つ主として、我が罪過の淵を涸らし、傷感の涙を以て我が 頑なる 靈 を化し給へ。

句、人我の爲に爾等を詬り、窘逐し、爾等の事を譌りて諸の悪しき言を言はん時は、爾等福なり。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

## 致命者讃詞

無原なる父、子、及び神聖なる神よ、祈る、授洗者の祈祷に因りて我が靈の多年の病を賢して、爾の僕を救ひ給へ。 今も

至淨なる生神女よ、爾の祈祷を以て我等敬虔に爾を讃美する者を恥づべき諸慾と地獄の 甚 しき 苦 より脱れしめ給へ。

### 火曜日の晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に十字架の讃頌、第八調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり。人の爾の前に敬まん爲なり。

至仁なるハリストスよ、爾は十字架に釘せられ、手足を穿たれ、聖なる脅を刺されて、我が爲に神聖なる教の血と水との滴を注ぎ給へり、我が膿汁とと汚とを滌はん爲なり。洪恩なる主よ、光榮は爾の仁慈に歸す。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

主宰よ、爾は苦を忍び給へり、凡そ爾の苦と自由なる屠殺、又爾が恒忍を以て甘じて忍びし戈と、釘と、葦とに伏拜する者に苦なきを與へん為、主よ、爾の苦に因りて我にも苦なきを得しめん爲なり。

第八調 火曜日の晩課 七九九

第八調 火曜日の晩課 八〇〇

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより 甚 し。 無比なる牝牛は犢が甘じて木に擧げられたるを視て、痛く哭きて呼べり、嗚呼至愛 なる子よ、恩を識らざる<u>エウレイ</u>の會は何をか爾に報いたる。至りて愛すべき者よ、 彼等は我を子なき者と爲せり。

次ぎて月課經の聖人の讃頌。若し月課經なくば、又生神女の讃頌、第八調。

句、願はくは $\underline{\underline{Ax}}$  は主を恃まん、蓋 憐 は主にあり、大なる 贖 も彼にあり、彼は $\underline{\underline{Ax}}$  を其の 悉 くの不法より贖 はん。

子よ、我爾衆人に警醒を賜ふ主が木の上に眠りしを見るに勝へず。然れども是れ昔果を食ふ罪に因りて滅込の眠にて眠りたる者に神聖なる救の警醒を賜はん爲なりと、童貞女は哭きて言へり。我等彼を崇め讃む。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

恒忍なる主よ、不義なる會は爾世界の罪を任ふ 羔を十字架に擧げ、戈を以て爾の脅を刺し、爾の手と足とに釘うてり。鳴呼凶悪なる殘忍や、鳴呼狂暴やと、至淨なる者は痛く哭きて呼べり。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり主の眞實は永く存す。

主宰よ、我が今見る所の此の顯現は何ぞや。手を以て奇妙に萬物を保つ神の言よ、爾は不順なる諸僕より非義に定められて、羔の如く木に懸けられたり。洪恩なる主よ、ななに、なんに、高の忍耐は奇妙なる哉、爾の仁慈は大なる哉と、純潔なる者は泣きて言へり。

## 光榮、今も、十字架生神女讃詞。

言よ、牝羊及び童貞女は爾 羔 が屠殺の爲に牽かるるを見て、涙を流して後に隨ひて呼べり、吾が子よ、何にか急ぐ、甘愛なる者よ、我爾と偕に行く、大仁慈なる吾がイイススよ、我爾と別るるに忍びざればなり。

次ぎて「穩なる光」。本日の提綱。「主よ、我等を守り」。

挿句に十字架の讃頌、第八調。

<u>ハリストス</u>神よ、爾は十字架に擧げられて、人類を救ひ給へり。我等爾の苦を讃榮す。

句、天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其の我等を憐むを俟つ。

<u>ハリストス</u>神よ、爾は十字架に釘せられて、樂園の門を啓き給へり。我等爾の神性を讃樂す。

句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は侮に魘き足れり、我等の靈

第八調 火曜日の晩課 八〇一

第八調 火曜日の晩堂課 八〇二

は驕る者の辱と誇る者の侮とに饜き足れり。

#### 致命者潜詞

主よ、爾の致命者は現世を忘れて苦を思はざりき、來世の生命を獲ん爲なり、故に之を嗣ぐ者と爲りて、諸天使と共に喜ぶ。彼等の祈祷に由りて爾の民に大なる憐を賜

光榮、今も、十字架生神女讃詞。 主よ、日は爾義の日が木に懸けられしを見て光線を隱し、月も光を暗昧に變じ、純潔 なる爾の母は心を刺されたり。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひ」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、聯祷、及 び發放詞。

#### 火曜日の晩堂課

至聖なる生神女に奉る祈祷の規程、第八調。

#### 第一歌頌

<mark>イルモス、<u>イズライリ</u>は乾ける地の如く水を過り、<u>エギペト</u>の禍を免れて呼べり、</mark> 我が救主及び神に歌はん。

附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。

鳴呼言の母童貞女よ、我多くの誘惑に圍まるる者は爾に趨り附きて救を求む、諸罪 諸難より我を救ひ給へ。

諸慾の攻撃は我を擾して、我が靈を深き憂悶に滿つ。純潔なる童貞女よ、爾の子及 び神の温柔を以て我を平安ならしめ給へ。

電真女よ、我爾救世主及び神を生みし者に祈る、我を罪過及び患難より救ひ給へ、 我爾に趨り附きて、我が靈我が思を爾に捧ぐればなり。

選一の生神女、仁慈なる主の母よ、仁慈なる者として我靈體の病める者を顧みて、爾 の神聖なる。慮を我に垂れ給へ。

### 第三歌頌

イルモス、主天の穹蒼の至上なる造成者、教會の建立者、冀望の極、信者の固、獨人 を愛する者よ、我を爾の愛に堅め給へ。

> 火曜日の晩堂課 第八調 八〇三

> 火曜日の晩堂課 第八調

がみ、ははどうていじょ。 かれなんじ カー いのち まもり およ おおい とうと しょぜん いずみ しんじゃ かため 神の母童貞女よ、我爾を我が生命の守護及び帲幪として尊む。諸善の泉、信者の固、 

童貞女よ、祈る、吾が靈の紛擾、吾が憂の暴風を鎮め給へ、爾は、獨至淨なる神 の聘女よ、平穩の首たるハリストスを生みたればなり。

萬善の原因なる恩主を生みし者よ、衆人に諸恩の富を施し給へ、禰は、神福なる者 よ、能せざる所なければなり、蓋能力の堅固なる<u>ハリストス</u>を生み給へり。

今も

無玷なる童貞女よ、我苦しき病と甚しき慾とに惱まさるる者を援け給へ、我爾を 警治の盡されぬ寶藏として識ればなり。

### 第四歌頌

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を聆き、爾の作為を悟り、爾の神性を讃樂せり。 響導師たる主を生みし神の聘女よ、我が諸慾の紛擾と吾が諸罪の暴風とを鎮め給へ。 凡そ爾を歌ふ者の仁慈なる教主を生みし者よ、我爾の慈憐の淵を呼ぶ者に慈憐を垂れ給へ。

至淨なる者よ、我等爾を神の母と識る者は爾の諸恩を樂しみて、感謝の歌を爾に奉る。 今も

る。 今も とようしんじょ をいていどうじょ 生神女、獨一の永貞童女よ、至仁なる者として、我病と不能との床に伏す者を援け給 へ。

#### 第五歌頌

イルモス、主よ、爾の誠を以て我等を照せ、人を愛する者よ、爾の高き臂を以て爾の平安を我等に與へ給へ。

たのしみ けんいん うっていきぎょ もの なんじ けつじょう ようこび また 楽 の原因を生みし 潔 き者よ、爾の潔淨なる 喜 を與へて、吾が心を樂 に滿て給へ。

ネいなん。 永遠の救と凡の智慧に超ゆる平安とを生みし潔さ生神女よ、我等を諸難より救ひ給 へ。

#### 光榮

神聖にして永遠なる光を生みし神の聘女よ、禰の光照の輝にて我が諸罪の暗を散じ給へ。

深き者よ、爾の眷顧を以て吾が靈の不能を醫し、爾の祈祷を以て我に健康を與へ給 へ。

第八調 火曜日の晩堂課 八〇五

第八調 火曜日の晩堂課 八〇六

#### 第六歌頌

#### 北紫

童貞女よ、我等爾を堅固なる避所と靈の全き拯救、及び憂ひの中の慰藉として獲て、常に爾の光照を喜ぶ。嗚呼女宰よ、今も我等を諸慾諸難より救ひ給へ。

我今病みて床に臥し、我が身には醫治なし。世界の神及び救主、諸病の醫師を生み し慈憐なる者よ、爾に祈る、諸病の惱より我を起し給へ。

次ぎて主憐めよ、三次。光榮、今も、

## 坐誦讃詞、第八調。

なんじ う もの なんじこひっじおよ ぼくしゃ せかい きゅうしゃ じゅうじゃ たるを見て、泣きて曰へ爾を生みし者は爾 羔 及び牧者たる世界の救主が十字架に在るを見て、泣きて曰へ り、吾が子吾が神よ、世界は救を獲て喜び、我は爾が衆人の爲に忍びて釘うたるる を見て心を灼けり。

### 第七歌頌

イルモス、昔<u>ワワィロン</u>に於て<u>イウデヤ</u>より來りし少者は、聖三の信を以て、爐の焔 を蹈みて歌へり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

教世主よ、爾は我等の教を成さんと欲して童貞女の胎に入り、彼を世界の轉達者と爲 し給へり。吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

潔き母よ、爾が生みし仁慈なる主に祈りて、信を以て、吾が先祖の神よ、爾は崇 数讃めらると呼ぶ者の諸罪及び靈の汚より潔められんことを求め給へ。

る柱、及び痛悔の門と爲し給へり。吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

今も \*\*\*\*
神の母、我等の手目に救世主<u>ハリストス</u>を生みし童貞女よ、愛を以て爾の帡幪に來

第八調 火曜日の晩堂課

八〇八 第八調 火曜日の晩堂課

り就く者の肉體の柔弱と靈の諸病とを醫し給へ。

### 第八歌頌

イルモス、天使の軍の歌ふ所の天の王を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

でいています。 なんじ たすけ もと なんじ うた まま に まま まっ もっ す なか 童貞女よ、爾に祐助を求めて、爾を歌ひて世世に讃め揚ぐる者を棄つる勿れ。

潔き童貞女よ、吾が靈の不能と肉體の諸病とを醫し給へ、我が世世に爾を讃樂せ

童貞女よ、爾は信を以て爾を歌ひて、爾の言ひ難き産を讃め揚ぐる者に醫治の富を流 し給ふ。

でいています。 なんじ しょなん かこみ しょよく こうげき しりぞ たま ゆえ かれら なんじ ばんせい ほ うた 童貞女よ、爾は諸難の園と諸慾の攻撃とを退け給ふ。故に我等は爾を萬世に讃め歌 ふ。

#### 第九歌頌

イルモス、潔き童貞女よ、我等爾に依りて救はれし者は爾を實に生神女と承け認 めて、無形の軍と偕に爾を崇め讃む。

れた。 すれた しょう なみだ のご 凡そ憂ふる者の涙を拭ひし<u>ハリストス</u>を生みたる童貞女よ、我が涙の流を厭ふ毋れ。

童貞女よ、敬虔に爾を生神女と承け認むる者を爾の光の光線を以て照して、無知の暗

童貞女よ、我卑微なる者の諸病を醫して、不能を變じて健康と爲し給へ。

次ぎて「常に福にして」及び伏拜。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞。其他常例の 如し、並に發放詞。

## 水曜日の早課

第一の誦文の後に十字架の坐誦讚詞、第八調。

盗賊は生命の首が十字架に懸れるを見て曰へり、我等と共に釘うたれし者は、若し身 を取りし神に非ずば、日は其の光線を隱さず、地も戰ひ慄かざらん。萬の事を忍ぶ主 よるの國に於て我を憶ひ給へ。

句、主我が神を崇め讃め、其の足凳に伏し拜めよ、是れ聖なり。

爾の十字架は二人の盗賊の間に在りて義の權衡と爲れり、一人は謗の重きを以て

八〇九

第人調 水曜日の早課 八一〇 地獄に降され、一人は罪を釋かれ輕くせられて、神學の智識に昇せられたり。<u>ハリス</u> トス神よ、光榮は爾に歸す。

## 光榮、今も、十字架生神女讃詞。

牧羊は、煮及び牧者たる救主が非義に十字架に擧げられしを見て、痛く哭きて呼べり、 至仁なる神、罪なき主よ、世界は爾に依りて救を獲て喜び、我は爾が大仁慈を以て釘 うたるるを忍び給ふを見て心を灼けりと。我等忠信に彼に呼ばん、童貞女よ、我等 に慈憐を垂れて、主の苦に伏拜する者に諸罪の赦を與へ給へ。

## 第二の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

エデムの中の樹は死を生じ、全地の中の樹は生命を生ぜり。蓋不朽なる我等は第一 の者の果を食ひて朽壞の者と爲れり、第二の者を獲て、不朽を樂しむ、爾十字架を以 て神として人類を救ひ給へばなり。

句、神我が古世よりの王は救を地の中に作せり。

樂園の樹は先に我を裸體にし、敵は食を以て我を殺せり、十字架の樹は人人に永遠 の生命の衣を衣せたり。十字架が地に樹てられしに、全世界は喜に滿ちたり。我等 信者は其擧げらるるを見て、心を合せて神に呼ばん、爾の家は光榮に充ちたり。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

#### 致命者讃詞

至りて讃美たる受難者よ、爾等は信に依りて全地の爲に常に光る光體と爲りたり。 ばたし きがい いっさい のぞみ かみ お まいしん れいち あぶら もっ なんじら たましい ともしび さかん 蓋 致命の一切の望を神に負はせて、聖神の靈智なる油を以て爾等の 靈 の 燈 を盛 に燃せり。故に人人の爲に水の如く醫治を注ぐ神靈の器として教會に現れたり。愛 を以て爾等の聖なる記憶を祭る者に諸罪の赦を賜はんことを<u>ハリストス</u>神に祈り給

## 光榮、今も、十字架生神女讃詞。

こうていじょよ、なんじ 童貞女よ、爾より身を取りし主が十字架に二人の盗賊の間に擧げらるるを見し時、爾 は涕泣して呼べり、鳴呼吾が甘愛の子よ、爾は慈憐に因りて世界の罪を任ふ者にし て、如何ぞ甘じて釘せられたる。是れ人人が爾を神として、讃揚の歌を爾に奉ら ん爲なり。

# 第三の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

<u>ハリストス</u>よ、禰暮れざる日が十字架に擧げられしを見て、日は畏に因りて直に晦 み、地は震ひ、石は戦きて崩れ、殿の幔は裂け、死者は墓より起きて、爾惟一の我が神

第八調 水曜日の早課

の驚くべき神聖なる寛容を讃樂せり。  $^{tht}$  なる生命を生ぜり。  $^{tht}$  本は先にエデムに於て苦味を生じ、十字架の木は甘味なる生命を生ぜり。 蓋 アダム は食ひて朽壞に陥り、我等はハリストスの聖體を樂しみて生かされ、奥密に神成せ られて、神の永在の國を受く。故に信を以て呼ぶ、言よ、光榮は爾の苦に歸す。

を讃揚す。求む、爾の祈祷を以て我等に諸罪の赦を與へ給へ。

尊貴にして生命を施す主の十字架の規程、其冠詞は、木の上に釘せられし神に感謝を 奉る。イオシフの作。第八調。

#### 第一歌頌

イルモス、昔奇跡を行ふ<u>モイセイ</u>の杖は、十字形に撃ちて、海を分ち、車に乗りて追 ひ來る<u>ファラオン</u>を沈め、徒歩にて逃るる<u>イズライリ</u>、神を讃め歌ふ者を救ひ給へり。 言よ、禰は十字架に殺されて、我木の果を食ふに因りて死者と爲りしものを生かし、 光榮を以て飾り給へり。我爾の權柄に伏拜し、爾の苦と無量の慈憐とを讃榮す。 耕作せざりし葡萄は、木に懸けられし時、我等の爲に神聖なる恩寵の酒、吾が心を樂 しませ、迷の醉いを全く醒まし、諸罪を潔むる者を流せり。

#### 致命者讃詞

傷創にて妝はれ、苦の記號にて飾られたる大致命者は美しき者として仁慈なる主宰 の前に立ち、大なる光楽の中に樂しみて、神に似たる者として知らる。

#### 致命者讃詞

型なる者よ、爾等は明に神の力に堅められて、強き者の害を爲す悉くの力を勇ましく破り、美しく勝利の榮冠に飾られて、喜びて神の前に立ち給ふ。

#### 生神女讃詞

主よ、婚姻を識らざる者は爾の十字架の前に立ち、爾の刺さるるを見て、心刺されて言へり、鳴呼我が子よ、我爾を生む時産苦を免れしに、今は苦痛に勝へず。

又至聖なる生神女の規程。第八調。

イルモス同上

第八調 水曜日の早課 八一三

第八調 水曜日の早課 八一四

光の門たる童貞女よ、暗黒の蛇が諸罪の暗を以て昧ましたる吾が眼を明にし、我が為に痛悔の門を啓き、我を生命に導きて、焔及び幽暗より脱れしめ給へ。

祝福せられたる至りて潔き神の聘女よ、爾の腹の果、實に言ひ難き奇跡、悟り難き奥義、衆信者の救たる者は祝福せられたり。我等地上の者は皆彼に因りて詛より解かれたり。

## 第三歌頌

イルモス、始めに智慧にて天を堅め、地を水の上に建てし<u>ハリストス</u>よ、爾が誠の石に我を堅め給へ、爾獨人を慈む主の外に聖なる者なければなり。

天を堅め、地を建て、言を以て海を縛りし仁愛なる主よ、爾は我の為に縛られて、 十字架に釘せられたり、我を罪の縛より解かん為なり。

蔵は十字架の木に觸れて、其害を爲す悪鬼と偕に殺され、禁ぜられし食に因りて定罪せられたる者は憐を蒙り、敬虔の教の堅めらるるに因りて造物は堅められたり。

#### 致命者讃詞

勇敢なる聖受難者は奸悪なる窘逐者より多種の傷と、劍と、猛獸と、肉體の剥がる ることとに付されて、神の指摩に因りて勝たれぬ者と止まりたり。

#### 致命者讃詞

#### 生油女潜詞

讃美たる牝羊は 羔が非義に木の上に擧げらるるを視て、母として涙を流して呼び、彼を讃榮して其の恒忍を歌へり。

#### $\nabla$

イルモス、主よ、爾は爾に趨り附く者の固、爾は除まされし者の光なり、我が神

は爾を歌ふ。

ってよ しょざい かってとこと のできな なんじ すけ かんしょう にくてい のでき まま たま 潔 き女宰よ、我が悉くの望を爾に進む、 亟に我が肉體の望を潔め給へ。 女宰、光の門よ、我に痛悔の清き光線を輝かして、我が諸罪の暗昧を拂ひ給へ。 がよりたまんける。 獨純潔なる者よ、我等を凡の罪悪、諸の誘惑、及び永遠の火より脱れしめ給へ。

イルモス、主よ、爾は我の固、我の力なり、爾は我の神、我の喜なり、爾は父の懐 を離れずして、我等の貧しきに臨み給へり。故に預言者アウワクムと共に爾に呼ぶ、人 を慈む主よ、光榮は爾の力に歸す。

初に造られし者が昔陥りたる堕落より人類は起されたり。蓋萬有の造成主は甘じ て木に擧げられて、其指は血に染められ、手は釘に穿たれ、脅は戈にて刺されたり。 十字架は樹てるに、一切の迷は落ちたり。救世主よ、爾裸體にせられしに、敵は裸體 にせられて、アダムは神聖なる不朽の衣を衣せられたり、ハリストスよ、爾木に釘 せらるるに、日は晦みて造物は照されたり。

まめいしゃ なんじら までっと こうえい あらた 新なる祭として屠られたる言に獻げられたり。光榮 なる者よ、爾等は己の血の流を以て神の恩寵に由りて迷の海を涸らし、奇跡の注 ぐを以て常に苦難の流を罄し給ふ。 致命者讃詞

致命者よ、爾等は百體の寸斷せらるること、齒と爪との抜かるること、殘酷に手と足 と舌と關節との截たるることを忍び給へり。故に至大なる光樂を獲て、萬有の神の前 に立ち給ふ。

#### 生神女讚詞

無話なる牝牛は己の犢の木に擧げられしを見て、哭きて呼べり、子よ、如何ぞ法に戻 る者の會は爾彼等を憐みし者を聊も憐れまずして、詭譎なる裁判を以て非義に爾 を死に付さんことを定めたる。

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を聆き、爾の作爲を悟り、爾の神性を讃樂せり。 神の聘女よ、我を誘惑より護り、我を靈を害する度生の暴風及び永遠の火より脱れ しめ給へ。

童貞の聖にせられし器、性の容れられぬ者の居所たる少女よ、多くの慾に味まされ たる吾が靈を照し給へ。

至聖なる神の聘女、世界の女宰よ、爾我を救ひて、患難より脱れしめ、諸慾の紛擾

第八調 水曜日の早課 を退け給へ。

#### 第五歌頌

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐なる我を掩へり。祈る、我を返して、我が途を爾の誠の光に向はしめ給へ。

恒忍なる主<u>イイスス</u>よ、爾我を逸樂の食の害より救はん爲に、甘じて膽を嘗め、我より諸慾に由る死の状を脱がせん爲に、裸體にして木の上に釘せらるるを甘じたり。我爾の慈憐を歌ふ。

言よ、爾は諸慾に由りて朽ちたる吾が靈を新にせん爲に、木に懸りて己の靈を父に付し給へり。靈なき地は之を見るに勝へずして、畏を以て震ひて爾を歌頌す。

#### 致命者讃詞

致命者よ、爾等は神聖なる苦に飾られて、己の苦を以て衆に苦なきを賜ひし主、無原の父の獨生の言の後に從ひて、至りて美しき者と爲り給へり。故に彼と偕に榮せらる。

致命者讃詞

救世主の勝たれぬ致命者よ、爾等は下の者に離れて、見えざる者を嗣ぎ、天上の神聖なる居所に入りて、聖なる共與を以て無形に神成せらる。

#### 生神女讃詞

讃美たる者は言へり、我驚くべき顯現を見る、如何ぞ瞬を以て全地を震はする主は、 古世より寢れる者を起さんと欲して、木に擧げられて眠りたる。子よ、我爾の恒忍に伏拜す。

#### $\nabla$

イルモス、主よ、我等人に興きて爾に籲ぶ、我等を救ひ給へ、爾は我等の神なればなり、爾の外他の神を知らず。

讃美たる童貞女、神の言を爾の胎内に容れし至りて無玷なる者よ、我等爾を歌ふ。 神の母よ、憐を施す權を有つ者として、我を滅えざる火及び死せざる蟲より脱れしめ給へ。

至聖なる者よ、爾は信者の垣墻及び能力にして、爾を歌ふ者を諸の誘惑より救ひ給

衆人の救なる主、我等の病を負ふ者を生みし至淨なる女宰よ、吾が病める靈を醫し給へ。

#### 第六歌頌

イルモス、罪の淵、過の暴風は我を擾して、重き失望の深處に引く、嗚呼主宰よ、爾

第八調 水曜日の早課 八一九

第八調 水曜日の早課 八二〇

の強き手を<u>ペトル</u>に於けるが如く我に伸べて、我を救ひ給へ。 言は、衆天軍は爾が十字架に懸れるを見て、驚きて爾を歌へり。救世主よ、傷つけられし<u>アダム</u>は爾の傷に由りて醫治を獲、詛は逐はれたり。 られて、衆信者より嘲らる。ハリストスよ、光榮は爾の慈憐に歸す。

#### 致命者讚詞

神に似たる受難者よ、爾等は熾炭の如く現れて、恩寵に因りて凡の邪教を焚き、首 ら燃ゆる炭の上に焚かれて、神聖なる清涼を受け給へり。

### 致命者讃詞

神聖なる受難者よ、爾等は真の牧者の羔と現れて、猛き狼の中に害なくして止 まり、善く馳すべき道を盡して、天上の牢に入り給へり。

## 生神女讃詞

ことのではようではようです。 立直女は呼べり、子よ、我爾生命の主を人の子より美しき者として生みしに、如何 ぞ今爾指摩にて萬物を飾りたる者は華榮なく釘せられて死する。

イルモス、救世主よ、我を淨め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を悪の淵より引 き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が教の神よ、我に聽き給へ。

マリヤ、萬物の造成主の至潔至尊なる居所よ、我に靈を潔むる涙を與へて、我を將來 の審判及び苦より脱れしめ給へ。

神の門たる生神女よ、我が卑微なる靈に神に往く入門を示し給へ、我が此に入りて、 痛悔して罪過の解かるるを得ん爲なり。

諸罪の海と失望の浪とは我が心を荒らす。救世主を生みし女宰よ、我に憐を垂れ、手 を伸べて我を救ひ給へ。

生神女、獨信者の避所なる者よ、我等衆信者常に罪悪と、紛擾と、憂愁との深處に陥 る者は爾を轉達者及び援助として有つ。

## 第七歌頌

イルモス、昔<u>ワワィロン</u>に於て火は神の降臨に慙ぢたり、故に少者は爐に在りて、 花園に歩むが如く祝ひて歌へり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。 ハリストスよ、爾は奇跡を行ひし手に釘うたれ、傷を忍びて、我が悉くの傷を醫

し給へり。獨恒忍なる主よ、我爾を歌ひて呼ぶ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。

まゅうせいしゃ 救世主よ、爾は手と足とに釘うたれて、十字架に懸けられ、脅を刺されて、衆の爲

に赦罪の滴を流して、常に歌はしむ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。

#### 致命者讃詞

我等會を爲して神の致命者を讃め歌はん。彼等は天使の會に合せられ、地上の者を照 して常に歌はしむ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。 致命者讃詞

神聖なる致命者よ、爾等は聖にせられて聖なる光照の處に入りて、凡そ爾等を讚揚 し、ハリストスを歌頌する者に成聖と救贖とを遣して歌はしむ、吾が先祖の神よ、爾

は崇め讃めらる。 生神女讃詞 ととば どうていじょ なんじ よ

言よ、童貞女は爾に呼べり、暮れざる日よ、如何ぞ爾は木に釘せられて隱れたる、主宰よ、日は爾の苦しめるを見て、光を放つ能はざりき。子よ、我爾の順良を歌頌す。

### 又

イルモス、<u>エウレイ</u>の少者は爐に在りて勇ましく焔を蹈み、火を露に變じて籲べり、 主神よ、爾は世世に崇め讃めらる。

至淨なる童貞女よ、女に祈る、我の内に棲む罪を殺し、我を生命を受くるに勝ふる者と為して、我に彼處に苦しめらるる者の分を免れしめ給へ。

無慾の泉を生みし潔き者よ、諸の慾は我を荒らす、生神女よ、爾の祈祷を以て我を其攻撃及び永遠の火より脱れしめ給へ。

我自由の望を以て罪を犯し、不當なる習慣の奴隷と爲りし者は、今爾の常の慈憐に趨り附く、至聖なる生神女よ、望を失ひし我を救ひ給へ。

できず、かみの母は、我が諸窓の焔を滅し、吾が心の暴風を鎮め給へ。至淨なる者よ、我 家き神の母よ、我が諸窓の焔を滅し、吾が心の暴風を鎮め給へ。至淨なる者よ、我 を悪鬼の苛虐と永遠の火より脱れしめ給へ。

### 第八歌頌

イルモス、<u>ハルデヤ</u>の窘迫者は怒に堪へずして、敬虔の者の爲に爐を七倍熱くしたけども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼べり、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

<u>ハリストス</u>よ、爾は<u>イエッセイ</u>の根より身を取りて出で、棘の冠を戴きて、アダムの犯罪より生じたる棘を根より絶し、木に釘せられて、木に縁りて生じたる詛を抹し、人人を救ひて歌はしむ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

人を愛する言よ、爾は人を神と爲さん爲に人と爲り、十字架に釘せられて、聲を刺され、醯と膽とを飲ませられたり。故に我等爾の苦に由りて救はれし者は感謝の心を抱きて呼ぶ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世にハリストスを尊み崇めよ。

### 致命者讃詞

第八調 水曜日の早課 ハーニ

第八調 水曜日の早課 八二四

業がが、こうたりし致命者、諸天使の侶、無形の敵を破りし者よ、我等の爲に祈を主に獻 学冠を冠りし致命者、諸天使の侶、無形の敵を破りし者よ、我等の爲に祈を主に獻 げ給へ、我等が愛と全き同心とに於て生を送りて、忠信の情を以て呼ばん爲なり、 少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、世世にハリストスを尊み崇めよ。

### 生神女讃詞

童貞女は其腹より生れし主が十字架に在るを見て、母として痛く歎き、心の裂くるに勝へずして呼べり、子よ、此の顯見は何ぞや、如何ぞ爾性に於て苦に興からざる者

のにして苦を受くる、是れ人類を苦より解かんと欲し給へばなり。

#### 又

イルモス、天使の軍の歌ふ所の天の王を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

神の母童貞女よ、祈る、我が諸罪の重任を我より卸し給へ、我が徹を崇め讃めん爲なり。

審判者及び神を生みし潔き者よ、爾の慈憐なる祈祷を以て彼を我が爲に寛容の者と爲し給へ、我を永遠の火より救はん爲なり。

生神女よ、吾が罪は數へ難し、祈る、今我に援助の手を授けて、我不當の者を滅えざる焔より脱れしめ給へ。

至淨なる者よ、祈る、罪の暗に昧まされたる吾が心の自を明にして、神聖なる光を受くるに勝ふる者と爲し給へ、我が爾に因りて爾の子の前に淨き者と現れん爲なり。

### 第九歌頌

イルモス、天は懼れ、地の極は驚けり、神は身にて人人に現れ、爾の腹は天より廣き者と爲りたればなり、故に天使と人人の群は爾生神女を崇め讃む。

主宰よ、爾は傷つけられ、己の手を血に染めて、我が傷を醫し給へり。主よ、爾は己の足、昔此を以て<u>エデム</u>に遊べる時、原祖が見て匿れたる所の者を十字架に釘せられて、仁慈なるに因りて我を救の途に向はしめ給へり。

こうきん 洪恩なる主よ、爾が十字架に擧げられしに、大なる堕落を以て落ちたる原祖は擧り、 できる。 できる。 なるで落ちたる原祖は擧り、 できる。 ながるで落ちたる原祖は擧り、 ながる。 敵の悉くの權力は落ち、全地は爾の脅より流されし血と水とに因りて聖にせられ

第八調 水曜日の早課 八二五

第八調 水曜日の早課 八二六

たり。故に我等は絶へず爾を崇め讚む。 致命者讃詞

聖なる致命者よ、ない。 室なる致命者よ、ない。 ではいるないではいるないではいるないではいるないではいるないではいです。 ではを縛り、足下に服せしめ、恥に充てて、觀る者の哂と為せり、神の恩寵に由り でなり。 **致命者讃詞** 

地は光榮なる致命者の聖躯を納むるに由りて聖にせられたり、蓋此は諸の醫療の泉にして、常に靈體の苦を醫し、悪鬼の害を除く、神の恩寵に由りてなり。

## 生神女讚詞

恒忍なる主よ、我産む時に母の産苦を脱れしに、今は爾が自由なる苦に與りて、痛く傷つけられしに因りて、心に傷つけられ、靈は苦に充ちたりと、至淨なる者は呼べり。我等は宜しきに合ひて彼を崇め讃む。

#### 又

イルモス、凡の者は神の言ひ難き寛容の事、如何に至上者が甘じて肉體を取るまでに降りて、童貞女の腹より人と爲りしかを聞きて、恐れざるなし。故に我等信者は至淨なる生神女を崇め讃む。

至淨なる者よ、我が不當なる靈を憐みて、之を害する諸慾を殺し、苦しき失望を退け、痛悔の涙の聖なる流を與へ給へ、我が此を以て我を俟つ畏るべき定罪を免れん爲なり。

潔き童貞女、神の聘女よ、爾は「ハリスティアニン」等の為に塩なり、世界の為に堅固なる避所なり、我等は此に因りて救を得。蓋神は爾より身を取りて、爾を衆人に拯救の帡幪として賜へり。故に潔き者よ、我不當の者を救ひ給へ。

文の無原なる言、及び吾が子、聖神と同座なる主よ、如何ぞ爾は己の至淨なる手を十字架に舒べたる、至仁なる主よ、今の是くの如き爾の謙卑は何ぞやと純潔なる者は爾の十字架の前に立ちて呼べり。

次ぎて「常に福にして」、及び伏拜。小聯祷、光耀歌、及び常例の聖詠。

挿句に十字架の讃頌、第八調。

にからなる我が教世主よ、 $\underline{E + V + V}$ の杖は爾の尊き十字架を預象せり。 蓋爾は此を以て爾の民を海の深處よりするが如く救ひ給ふ。

句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。爾

第八調 水曜日の早課 八二-

第八調 水曜日の早課 八二八

我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代へて、我等を樂しましめ給へ。願はくは爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

<u>エデム</u>の樂園の中に植物の間に果の食ふべき樹は生じたり、ハリストスよ、爾の教會の内に全世界に生命を流す爾の十字架は樹ちたり。彼は食を以て食ひし<u>アダム</u>を殺し、此は信を以て救はれし盗賊を生くる者と為せり。ハリストス神、衛の苦に由りて我等に對して設くる敵の悪謀を破りし主よ、我等をも此の救に與る者と為して、爾の國を得しめ給へ。

句. 願はくは主吾が神の惠は我等に在らん、願はくは我が手の工作を我等に助け給へ、我が手の工作を助け給へ。

#### 致命者讃詞

勝たれぬ<u>ハリストス</u>の致命者よ、爾等は苦しむる者の恐嚇を畏れずして、苦を以てたのしみな。と為し、十字架の力を以て迷に勝ちて、永遠の生命の恩寵を受けたり。今爾等の血は我等の靈の爲に醫治と爲れり。我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

# 光榮、今も、十字架生神女讃詞。

主よ、爾を生みし潔さ者は爾が十字架に懸けられたるを見て、近づきて哭きて日へり、子よ、何ぞ身を以て斯く苦しみて、我を子なき者と爲さんと欲する。求む、速に光榮を獲よ、我が爾の苦に因りて讃美せられん爲なり。

次ぎて「至上者よ、主を讃榮し」。聖三祝文。「天に在す」の後に<mark>讃詞、聯祷、及び</mark> 第一時課、并に發放詞。

 $\sim\sim\sim\sim\sim\sim\sim\sim$ 

### 水曜日の眞福詞、第八調。

ハリストス、世界の教主よ、木に在りて盗賊を憶ひし如く、我等を憶ひ給へ、獨洪恩なる主よ、我等衆に爾の天國を獲しめ給へ。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

<u>モイセイ</u>は杖を以て十字架を畫して、深處を分ちて、<u>イズライリ</u>民を過らせたり。我等は之を畫して、無形の敵に勝つ。

句、人我の爲に爾等を詬り、窘逐し、爾等の事を譌りて諸の悪しき言を言はん時は、爾等福なり。

ハリストス救世主よ、昔イアコフは其子の子たる少者を祝福して、手を交えて伸べて、爾の十字架を畫せり。我等皆此を以て誰より解かれたり。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

第八調 水曜日の眞福詞 八二九

第八調 水曜日の晩課 八三〇

受難者よ、爾等は $\underline{\text{ハリストス}}$ の苦に效ひ、甚しき苦痛を勇ましく忍びしに由りて、不朽の榮冠を蒙らせられて、天に居り給ふ。 光樂

光樂は惟一の不死なる父に歸し、光樂は世世に生くる子に歸し、光樂は偕に至聖なる神、萬物を聖にする主に歸す。

神、萬物を聖にする主に歸す。 今も なんじ とうてい はら ない かっき との造成主は輝き出で給へり、衆造物は彼が木 に懸られしを見て動きたり。

#### 水曜日の晩課

# 「主よ、爾に籲ぶ」に聖使徒の讃頌、第八調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

主よ、爾は無恤者の光を以て爾の使徒を照し、彼等を光體と爲して、爾の智慧の靈妙なる光照を以て正教を堅め給へり。故に主宰よ、我等爾の言ひ難き仁愛に伏拜す。句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

 を敵の奴隷より贖ひ給へり。

つ、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

神聖なる使徒、聖三者の前に立つ者、我等の靈の爲に祷る者よ、爾等は偕に教會の基の中に尊き石と現れたり。爾等はハリストスの光照を以て全地に神を識る確なる智識を輝やかし給ふ。

次ぎて若し之あらば、月課經の聖人の讃頌。若し月課經なくば、又聖大奇跡者<u>ニュライ</u>の讃頌、第八調。

句、願はくは $\underline{\underline{\mathsf{TX}}}$  は主を恃まん、蓋 憐 は主にあり、大なる 贖 も彼にあり、彼は $\underline{\mathsf{TX}}$  できません。

第八調 水曜日の晩課 八三一

第八調 水曜日の晩課 八三二

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

主よ、爾の成聖者の神聖なる祈祷に因りて 憐 を垂れて、忠信に爾の勝たれぬ權柄に伏拜する爾の諸僕を凡の禍、諸の憂、及び諸敵の攻撃より脱れしめ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

 $\frac{tv}{2}$  =  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$ 

# 光榮、今も、生神女讃詞。

神の聘女よ、我が傷める心の歎息を見よ。純潔無玷なる童貞女マリヤよ、仁愛なるに因りて、我が手を擧ぐるを容れて、之を退くる勿れ、我が爾人類を尊くせし者を歌ひて尊まん爲なり。

次ぎて「穩なる光」。本日の提綱。「主よ、我等を守り、罪なくして此の晩」。

## 

主よ、使徒等は地上に熱切に爾を愛して、一切を以て芥帯と為せり、獨爾を獲ん為なり、又爾の為に己の身を苦に付せり。故に光榮を獲て、我等の靈の為に祈る。句、天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

主よ、爾は使徒等の記憶を地上に大なる者と爲せり、我等皆共に此に集まりて爾を 意味。蓋爾は彼等に由りて我等に醫治を與へ、其祈祷に因りて全世界に平安と大 なる 憐とを賜ふ。

句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は傷に魘き足れり、我等の靈 は驕る者の辱と誇る者の侮とに饜き足れり。

## 致命者讃詞

如何なる徳、如何なる譽も、之を聖者に歸すべし。蓋彼等は爾天を傾けて降りし者の為になった。 かため では、かため では、ないになった。 で降れり、神は、ないのが持に因りて、爾が惠の多きを以て我等を憐み給へ。

## 光榮、今も、生神女讃詞。

聖なる童貞生神女よ、我爾の庇蔭に趨り附く、我爾に依りて救を得んことを知る、爾は、潔き者よ、我を援くるを能すればなり。

第八調 水曜日の晩課 八三三

第八調 水曜日の晩堂課 八三四

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひ」。聖三祝文。「天に在す」の後に<mark>讃詞、聯祷、并</mark>に發放詞。

## 水曜日の晩堂課

至聖なる生神女に奉る祈祷の規程、第八調。

### 第一歌頌

イルモス、昔奇蹟を行ふ<u>モイセイ</u>の杖は、十字形に撃ちて、海を分ち、車に乗りて追い來るファラオンを沈め、徒歩にて逃るる<u>イズライリ</u>、神を讃め歌ふ者を救ひ給へり。純潔なる生神童貞女よ、爾は先に無形なる神の言を性に超えて身を取りし者として生めり、彼は神人として世に居り給へり。故に我等皆爾神に亞ぎて我等の保護なる者を讃樂す。

華麗に装飾せられたる童貞女、神の恩寵を蒙れる讃美たる者よ、爾は父の言、言ひ難き慈憐に因りて肉體と成りし者を智慧と言とに超えて生みて、無玷なる童貞女と止まり給へり。 光樂

できずょ ものよ 、 なんだ は まう の根より出でて、 芸 ハリストス 、 神の 言、 智慧と明悟とに超えて 爾の 潔 き血より身を取りし主を、二性一位の者として生み給へり。

#### 今も

至淨なる神の母よ、爾を生神女と傳ふる者はその異端に勝つ、蓋爾は悉くの造物より上なる實在の神の言を變易なく肉體と成りし者として生み給へり。

#### 第二歌頌

イルモス、始に智慧にて天を堅め、地を水の上に建てし<u>ハリストス</u>よ、爾が誠の石に我を堅め給へ、爾獨人を慈む主の外に聖なる者なければなり。

神の母よ、神は爾の聖なる胎に入りて、親ら知るが如く身を取り、生を施す、苦を以て我等を救ひ給へり。故に我等爾を救の門として讚樂す。

った。 潔き者よ、衆人に靈を嘘き入れたる至上の神は種なく爾の胎より出で、肉體あり で地上に人人と偕に居り給へり。故に我等衆信者は歌を以て爾を讃揚す。

#### 光榮

童貞女よ、爾は世の無き先に父より生れし主を婚姻に與らずして爾の胎内に孕みて、

第八調 水曜日の晩堂課 八三五

第八調 水曜日の晩堂課 八三六

我等の爲に一位に神及び人の全き二性を分離なく有つ者として生み給へり。

#### 今も

神福なる 潔 き童貞女よ、我等皆爾を不朽の花たる<u>ハリストス</u>を生ぜし杖、金の香爐、 機炭たる神の性を有つ主を手に抱きし者として知る。

### 第四歌頌

イルモス、主よ、爾は我の固、我の力なり、爾は我の神、我の喜なり、爾は父の懐 を離れずして、我等の貧しきに臨み給へり、故に預言者アウワクムと共に爾に呼ぶ、人を慈む主よ、光榮は爾の力に歸す。

至りて無玷なる童貞女よ、昔神の録しし律法を受けたる約匱は言ひ難く爾の胎内に妊まれたる生を施す言を預象せり。彼は豊に我等の靈を養ひて歌はしむ、人を慈しむ主よ、光榮は爾の力に歸す。

神の母よ、爾は獨爾の至淨なる血より造物主及び造成主に身を藉して、救の真の
はなる。これは強いない。

#### 光榮

当地はなる主よ、爾は慾の中に埋れたる爾の像を仁慈の富を以て求めん為に童貞女の腹に入り、此より爾神の智慧は殿を造り、人人と偕に在して、地の四極を救ひ給へり。

#### 今も

至りて無玷なる童貞女よ、我等は爾を神の前に轉達者として獲たり。蓋爾に藉りて かみできなっしゅれはできまいしゅかれた。 神造物主及び造成主は我等の像を受け、之を朽壞及び苦難より救ひて、神聖なる光榮 を以て榮し給へり。

### 第五歌頌

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐なる我を掩へり。祈る、我を返して、我が途を爾の誠の光に向はしめ給へ。

至淨なる者よ、天上の軍は爾を讚揚す。蓋唯爾に因りて我等地の者は天の者と偕に曾して、爾の産を歌ふ。
光榮

童貞女よ、世の無き先に父より輝きし言、獨仁慈なる主は言ひ難き法を以て爾の内に入りて人と爲り、人人を朽壞より救ひて、不朽の生命に上せ給へり。

## 今も

至淨なる童貞女よ、爾は童貞の華美に飾られ、爾を歌ふ者に不死の衣を賜ふハリストスを生みて第一のエワの醜きを改め給へり。

第八調 水曜日の晩堂課 八三七

第八調 水曜日の晩堂課 八三八

### 第六歌頌

イルモス、救世主よ、我を淨め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を悪の淵より引き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が救の神よ、我に聽き給へ。

にゅんけっ なる こうていじょ よんのう ちから もっ ばんゆう たも にゃん なんじ なんじ なんじ なんじ なん 全能の力を以て萬有を保つ主は爾に因りて肉體の不能を衣給へり、人を愛する主として人人に恩を施さん爲なり。

至りて潔き童貞女よ、全功なる聖神は爾に臨みしに、神の言は爾の内に入り、變易せずして言ひ難く肉體と成り給へり。

光榮
・ 大学
・ 大学
・ 大学
・ 大学
・ 大学
・ 大学

かみ よめ に は まげんしゃ ことば なんじ しじょう は 6.5 な ことば こ は 6.5 な さん は 6.5 な は 6.5 な は 6.5 な ことば こ は 6.5 な は 6.5 な は 6.5 な と 言 に 超 ゆ る 産 と を 預 言 せ り 。 求 む 、 せいきょう こころ いだ なんじ うた もの たましい て 6 たま こ まな の 心 を 抱 き て 爾 を 歌 ふ 者 の 靈 を 照 し 給 へ 。 今 も い さ ぎょ い さ ぎょ

我等は敬虔の心を抱きて、實に神聖尊貴なる神の居所たる至りて潔き<u>マリヤ</u>を歌ふ。 造徒は容れ難く悟り難き神を受けて、己の内に容れ給へり。

次に主憐めよ、三次。光榮、今も、

## 坐誦讃詞、第八調。

造物主の純潔なる聘女、救世主の婚姻に與らざる母、撫恤者を受けし器たる讚頌せらるる童貞女よ、我罪過の汚はしき居所、心が悪鬼の玩弄と爲りし者を 亟 に其悪業より救ひて、諸徳の光明なる居所と爲し給へ。光を施す不朽なる者よ、諸慾の雲を拂ひて、爾の祈祷を以て我を上なる暮れざる光に與らしめ給へ。

#### 第七歌頌

イルモス、昔<u>ワワィロン</u>に於て火は神の降臨に慙ぢたり、故に少者は爐に在りて、 花園に歩むが如く祝ひて歌へり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

衆人の教主を生みし至淨なる女宰よ、我を言ひ難き神聖なる救贖に與らしめ給へ。 造社がおおいます。 蓋我大なる聲を以て呼びて歌ふ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。

至淨なる者よ、今爾に由りて萬有は神聖なる光に充てられたり。蓋爾は門と現れて、神は之に由りて世界に入り、信者を照して呼ばしむ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。 光榮

視よ、今神聖なるダワイドとの神聖なる預言は應へり。潔 き神の母よ、恩寵の富を獲たる者は實に今爾の顔に伏拜して、吾が先祖の神を崇め讃む。

至淨なる者よ、爾は萬有より上なる神、人類を死及び朽壞より救はんことを喜びし主

第八調 水曜日の晩堂課 八三九

第八調 水曜日の晩堂課 八四〇

を生み給へり。我等宜しきに合ひて彼を歌ひて呼ぶ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。

#### 第八歌頌

イルモス、爾の誠に熱中せし少者は、爾の恩寵に因りて、窘迫人及び火焔に勝つ者と為りて籲べり、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ。

祝福せられたる至淨なる少女よ、吾が靈の傷と罪の汚とを潔め給へ。禰は、潔さ者よ、婚姻に與らざる童貞の胎より萬有の上なる神を生み給へり。少者よ、彼を歌ひて、世世に崇め讃めよ。

童貞の華美に輝ける純潔なる者よ、爾は暮れざる光を受くる者と爲りて、凡そ靈 より爾を真の生神女と承け認むる者を照して呼ばしむ、少者よ、崇め讃めよ、司祭 よ、歌ひて、世世に彼を尊み崇めよ。

至りて無玷なる生神女よ、爾は聖神に聖にせられて、實に胎内に父と同永在なる無原の子を受け給へり。彼は爾潔き者の内に身を取りて、信者に諸恩を施して呼ばしむ、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、歌ひて、世世に彼を尊み崇めよ。

### 今も

至淨なる神の母よ、言及び明悟に超えて神を生みし者として、彼に祈りて、其畏るべき降臨の時、彼が人類を審判し、衆が畏を以て裸體にして立ちて審判せらるる時に、我等衆不當なる者に對して寛容の主と爲らんことを求め給へ。

#### 第九歌頌

イルモス、天は懼れ、地の極は驚けり、神は身にて人人に現れ、爾の腹は天より廣き者と爲りたればなり。故に天使と人人の群は爾生神女を崇め讃む。

至淨なる者よ、我等永遠の生命の處より退けられ、不當にして死に陥りし者を、衛は救世主の母と爲りて、復召して、先の郷國に進むを得しめ給へり。故に我等は絶えず爾神の母を崇め讃む。

生神女よ、我に載く度生の患難の激浪を渡らしめて、仁慈なる者として、諸慾の興るを鎮め、諸徳の途を履みて天に往くを得しめ給へ、我が絶えず爾を恩者として崇め讃めん爲なり。

光榮

至榮なる潔き神の母よ、愛を以て爾を歌ふ者を慈憐を以て誘惑より救ひ、災禍より釋き給へ、爾は、童貞女よ、神を生みし者として、凡そ行はんと欲する所を妨なく行ふを能すればなり。故に我等皆爾を崇め讃む。

第八調 水曜日の晩堂課 八四一七

第八調 木曜日の早課 七〇八

神の恩寵を蒙れる女宰よ、ハリストス爾の子が其仁慈に因りて己の尊き血を以て獲たる尊き教會を諸異端に勝つ者と爲し、又我等衆を諸の災禍及び我等を圍む誘惑より救ひ給へ。

次ぎて「常に福にして」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、并に發放詞。

~~~~~~~~

木曜日の早課

第一の誦文の後に使徒の坐誦讃詞、第八調。

我等は始より我が神の神聖なる門徒と為りし者を歌はん。彼等は世界の光體、我が救の教導師として、幽暗の中に居る我等に光を輝かし、衆に光榮の日を顯せり。故に偶像の迷を破りて、三位一體の神を傳へ給へり。此に由りて使徒等よ、爾等に祈る、我等に諸罪の赦と大なる憐とを賜はんことをハリストス神に祈り給へ。

句、其聲は全地に傳はり、其言は地の極に至る。

主の至りて讃美たる使徒等よ、地の諸極に出でたる爾等の睿智なる言は實に全世界に神を識る知識を 間に傳へて、異邦の不知を知に變ぜり。此に因りて偶像の暗ははれて、智慧の光は幽暗に居る者に輝けり。故に祈る、愛を以て爾等の聖なる記憶を尊む者に諸罪の赦を賜はんことをハリストス神に祈り給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

至淨なる者よ、我見ゆると見えざる敵の多くの誘惑の網に陥り、我が無量の罪の暴風に圍まるる者は爾の仁慈の篤き保護と帡幪、及び我が港に趨り附く。至りて潔き生神女よ、種なく爾より身を取りし主に常に爾を歌ふ爾の諸僕の爲に祈りて、信を以て爾の産に伏拜する者に諸罪の赦を賜はんことを熱切に求め給へ。

第二の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

預言者の言ひし如く、睿智なる使徒等の言は全地に出でたり、蓋彼等は神言を傳へて、萬族を照し給へり。故に我等職として歌を以て彼等を崇め産めん、其常にハリストスに吾が靈の救はれんことを祈り給へぱなり。

句、主よ、諸天は爾の奇異なる事を讃樂せん。

第八調 木曜日の早課 八四三

第八調 木曜日の早課 八四四

使徒等は信を以て主の一誠を富を致す寶として靈の内に受けて、衆人の恩者と顯れ、 を認めて主の一誠を富を致す寶として靈の内に受けて、衆人の恩者と顯れ、 悪鬼の貧しきを退けて、衆を神の富を以て富ましむ。我衆彼等に呼ばん、祈る、我等貧しくなりし者をも諸徳の行に富まし給へ。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

致命者讃詞

節制を以て燃ゆる諸慾を殺しし致命者は<u>ハリストス</u>より恩寵を受けて、生くる時にも終りて後にも病者より病を逐ひ、諸の異能を行ふ。實に至榮の奇跡なる哉、其白骨も醫治を流す。光榮は獨睿智なる造物主神に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

信者の轉達者、憂ふる者の喜悦、泣く者の大なる慰藉たる神の母童貞女よ、爾の至聖なる胎より性に超えて生れし主に、聖使徒等と偕に常に我等の爲に祈りて、詰問の時に我等を畏るべき定罪より救はんことを求め給へ。

第三の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

ハリストスの實見者よ、爾等は輝ける光體と現れて、常に全地を照し、敬虔の教の光 を以て多神の幽暗を逐ひ拂ふ。捧神なる使徒等よ、祈る、我諸欲の幽暗の中に在りて畏 なく行く者を衝の聖なる祈祷を以て照し給へ。

光榮なる使徒等よ、爾等は神聖なる言の網を以て魚の若く靈智なる者を捕へて、之 を初實の果として爾等の神に攜へ、且 $\underline{\text{ハリストス}}$ の傷を愛して、之を衣て、其苦 に效ふ者と現れたり。故に我等職として集まりて、今爾等の祭を尊みて、同心に呼 ぶ、愛を以て爾等の聖なる記憶を尊む者に諸罪の赦の賜はらんことをハリストス神 に祈り給へ。

光樂、今も、生神女讃詞。 生神女よ、悟り難き言、神の子、智慧に超えて言ひ難く爾より生れし主に使徒等と偕 に祈りて、其至大なる仁慈に因りて、世界に平安を與へ、我等に終の先に諸罪の赦 を賜ひて、爾の諸僕に天國を得しめんことを求め給へ。

光榮にして讃美たる聖使徒の規程。フェオファンの作。第八調。

<mark>イルモス、<u>イズライリ</u>は乾ける地の如く水を過り、<u>エギペト</u>の禍を免れて呼べり、</mark> 我が救主及び神に歌はん。

使徒の光明なる會、大なる光の前に立つ者よ、昧まされたる吾が心を照して、救ひ の途に向はしめ給へ。二次。

また。 教世主の真の友よ、我度生の多くの誘惑に迷はされ、無知の夜に蔽はれて、諸慾に耽

第八調

第八調 木曜日の早課 八四六

る者を救ひ給へ。

有能の主の矢たる神聖なる使徒等よ、凶悪者の武器に傷つれられし我等、信を以て なんじょう ***い した はし っっ もの いき した** 爾等の帲幪の下に趨り附く者を醫し給へ。

生神女讃詞

った。 はは かみ かな こと じゅうまん もの おのれ つく なんじ たい み と と りて、出で 潔 き母よ、神に合ふが如く充滿なる者は己を罄し、爾の胎より身を取りて、出で て、蛇の悪謀に誘はれし者を慈憐を以て救ひ給ふ。

又聖奇跡者ニコライの規程、第八調。

イルモス、祈られたる者は祈られざる者を祈り分ち、日は曾て見ざりし地を見たり、水 は殘忍なる敵を溺らして、イズライリは過られぬ處を過り、歌は唱へられたり、主 に謳はん、彼嚴に光榮を顯したればなり。

天上の軍の會と偕に萬有の王の前に立ち給ふ福たる<u>ニコライ</u>よ、我等地上に於て常 に爾を呼ぶ者を凶悪者の種種の誘惑より救ひて、我が諸罪の赦を求め給へ。

せい 聖ニコライよ、我等爾を轉達者として得たる者は晝に夜に信を以て爾に呼ぶ、今悪鬼 の奸計と悪を謀る人人の行爲とに因りて諸の禍に遭ふ我等を援け給へ、我等が平穩 を得て爾を崇め讃めん爲なり。

 $\frac{\text{th}}{\text{u}} = \frac{1}{2} \frac$

に呼ぶ、主に謳はん、彼嚴に光榮を顯したればなり。

第三歌頌

イルモス、主よ、爾は爾に趨り附く者の固、爾は昧まされし者の光なり、我が神は爾を歌ふ。

教世主の使徒等よ、諸慾と悪念とに由りて弱りたる吾が心に力を佩ばしめ給へ。二次。

ハリストスの門徒は惟一なる三光の神の煇煌を傳へて、多神の幽暗を拂ひ給へり。 おかり、 またと いきし ほどこ おんし まんし まんし きゅう しょう まんし きゅう しょう まんし きゅう しょう まんし きゅう しょう こころ ぎいかく きず いき たま 我が神の門徒よ、醫治を施す恩賜を受けし者として、吾が心の罪悪の傷を醫し給へ。

生神女讃詞

ない。 | 潔 き女宰、性に超えて衆人の贖罪者、主宰、救世者、及び主を生みし者よ、我を救

第八調 木曜日の早課 八四七

第八調 木曜日の早課 八四八

ひ給へ。

又 イルモス同上

成聖者<u>ニコライ</u>よ、我等に援助の手を授け給へ、我等が常に爾を尊み、爾を歌はん爲なり。

 $\frac{1}{2}$ $\frac{$

<u>ニコライ</u>よ、我が慾と悪人の誘惑とに攻めらるる我を爾の轉達を以て援け給へ。

生神女讃詞

った。 潔き者よ、我に諸の罪と度生の災禍との解かるるを賜はんことを救世主に祈り給

第四歌頌

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を聆き、爾の作為を悟り、爾の神性を讃樂せり。 光樂なる使徒等よ、救世主は爾等を神聖なる華美にて飾り、己の光を輝かす者と為して、世界の光體と立て給へり。二次。

衆人の嚮導師たる神聖なる使徒等よ、我度生の海に漾ひて難に遭ふ者を暴風より援け給へ。

多神の海を涸らしし神の選びたる者よ、爾等の祈祷を以て我が諸罪の淵を涸らし給

生神女讃詞

女宰童貞女よ、爾は父と同功なる言を爾の胎より身を取りし者として生み給へり、故に悉くの造物より上なる者と顯れたり。

又 イルモス同上

我無量の罪に因りて失望に陥りたり。聖<u>ニコライ</u>よ、恩主に数ひて 亟 に我を援け給

死に定められたる三人の少者を救ひし $\underline{\underline{u}}$ = \underline{u} = \underline{u}

至淨なる者よ、我を堅めて神の旨を行はしめ、吾が靈に常に生命の途を行かしめ給

第五歌頌

イルモス、主よ、我等人に興きて爾に籲ぶ、我等を救ひ給へ、爾は我等の神なれば

第八調 木曜日の早課 八四九

第八調 木曜日の早課 八五〇

なり、爾の外他の神を知らず。

使徒等よ、嚮導師として、我多くの罪に狹めらるる者を救の廣きに向はしめ給へ。

二次。

神の實見者たる使徒等よ、祈る、我爾の至りて尊き會を尊む者を凡の恥づべき行

教世主の苦に效ひし聖なる使徒等よ、吾が靈より凡の逸樂を遠ざけ給へ。

生神女讃詞

衆人の病を負ふ者を生みし至淨なる女宰よ、我が病める靈を醫し給へ。

又 イルモス同上

神福なる $\frac{-1}{2}$ よ、爾の祈祷を以て我等を堅めて、 $\frac{1}{2}$ を守らしめ給へ。

ミラに住ひしニコライよ、我等敬虔に爾を歌頌する者を神聖なる馨香に滿たしめ給

成聖者 $\frac{1}{1}$ よ、大仁慈なる神に祈りて、爾の祈祷に因りて我等に慈憐を垂れしめ給へ、我等が諸の災禍と憂患とを免れん爲なり。

生神女讃詞

生活の水に滿ちたる童貞女よ、我等衆敬虔に爾を歌ふ者に之を飲ましめ給へ。

第六歌頌

イルモス、我祷を主の前に灌ぎ、我が憂を彼に告げん、我が靈に滿ち、我が生命は地獄に近づきたればなり。我イオナの如く祈る、神よ、我を淪滅より引き上げ給へ。 ハリストスの門徒よ、爾等は祈祷の中に神を呼ぶを以て偶像の宮を動かして倒せり。 今信を以て祈る、我が靈の偶像を破りて、多くの罪を犯しし我を神の殿と為し給へ。 一次。

業はれたる石として動かざる巖の上に基づけられし實見者よ、殘はれ易く砂の上に建てられたる吾が心を救ひ給へ、蓋誘惑の河は溢れて、甚しく我を荒す。

言の友よ、肉體に於ける偽の愛と之に由る多くの汚れたる行より我を解きて、多くの慈憐を以て罪人を愛せし主に於ける愛を起して、我を彼に繋ぎ給へ。

生神女讃詞

少女よ、造物主は爾を薔薇の如く、最淨き百合の如く、世の美しき谷の芳しき花の如

第八調 木曜日の早課 八五一

第八調 木曜日の早課 八五二

く見て、爾の胎に入り、生れて、萬有を馨しき香に滿て給へり。

又 イルモス同上

聖<u>ニコライ</u>よ、爾の心は樂園と現れ、生命の樹たる教主<u>ハリストスは其中に立ち給いり。絶えず彼に祈りて、我等衆爾を熱心なる轉達者として獲たる者を樂園の居住者と爲さんことを求め給へ。</u>

我怠惰の中に生を送りて、畏なく罪を犯す不當の者は、彼處に行はれんとする審判を思ひて戰ひ慄く。神よ、<u>ニコライ</u>の祈祷に由りて、慈憐なる者として我を憐み給

我多種の誘惑の暴風に遭ひて、多くの罪を行ひし者は呼ぶ、福たる者よ、我を保護なく棄てずして、慈憐なるを以て援の手を伸べて我を救ひ給へ。

生神女讃詞

童貞女よ、爾は智慧に超えて至高なる王の宮及び火の状の寶座と爲りて、<u>ヘルワイ</u>ムとセラフィムより上なる者と現れ給へり。故に凡そ呼吸ある者は爾を造物主の母として讚榮す。

第七歌頌

イルモス、<u>エウレイ</u>の少者は爐に在りて勇ましく焔を踐み、火を露に變じて呼べり、 主神よ、爾は世世に崇め讃めらる。

意情の夜は我を圍み、罪の暗は我を蔽ふ。世界の光と現れし睿智なる使徒等よ、速に我が眛まされたる心を照し給へ。二次。

に我が味まされたる心を照し給へ。二次。 我が神の光樂を傳ふる第二の天と現れし神言者よ、信を以て爾等の有能なる帡幪に趨り附く者を恥づべき諸慾より脱れしめ給へ。

無性者の火に燃さるる熾炭と現れし使徒等よ、我が多種の悪業を焚きて、我等を世世に熄えざる火より脱れしめ給へ。

生神女讃詞

女宰よ、衛は樹蔭繁き山、手にて斬られざる者と現れ、此より石は斬り分けられたり。 祈る、我が昧まされし靈、逸樂に因りて頑になりたる者に傷感を與へ給へ。

マ イルモス同上

聖神父よ、爾は聖三者の力に堅められて、迷の偶像を壞り給へり。故に我信を以て爾に祈る、我が心の慾の偶像を滅し給へ。

第八調 木曜日の早課 八五三 第八調 木曜日の早課 八五四

生神女讃詞

できずる。 潔き者よ、爾は死の流を停め給へり、不死なる神を生みたればなり。彼に祈りて、 我が卑微なる肉體の諸慾を殺して、我に生命を得しめんことを求め給へ。

第八歌頌

イルモス、<u>ハルデヤ</u>の窘迫者は怒に堪へずして、敬虔の者の為に爐を七倍熱くしたれども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼ぺり、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

教會の壞られぬ基及び動かされぬ柱、信者の固なる者よ、諸慾に動かさるる吾が靈を堅め給へ。爾等は淪滅の深處に在る者を助けて、之を穩静なる港に導きて、信を以て歌はしむ、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、世世に彼を尊み崇めよ。一次。

教世主の門徒、夫子の慈憐を饒に蒙りし使徒等、神の實見者よ、我逸樂に由りて深く陥りて、失望の暗き柩に臥す者を憐みて、爾等の祈祷を以て起こし給へ。二次。

生神女讃詞

にまたけっなる者よ、爾は諸徳の華美に輝く者と現れて、萬徳の原因なる造成主の華美を たいないに容れ給へり。熱切に彼に祈りて、諸罪諸慾に侵されたる吾が靈、古の華美 を慕ふ者を最美しく照さんことを求め給へ。

又

イルモス、神を傳ふる少者は爐の中に焔を蹈みて歌へり、主の造物は主を崇め讃めよ。

三日光の神性の輝ける光線にて照されし神智なる成聖者<u>ニコライ</u>よ、爾の祈祷を以て我が諸慾の幽暗を散じ給へ。

至福なる $\frac{-1}{2}$ よ、悪鬼の誘惑と強迫する人人とに因りて動かさるる我等を爾の祈祷を以て堅めて、害せられざる者として救ひ給へ。 $\frac{1}{2}$ 生神女讚詞

至聖なる童貞女、人人の扶助者よ、主に祷を奉りて、信を以て爾に趨り附く者を憐

みて救はんことを求め給へ。

次ぎて生神女の歌を歌ふ、「我が靈は主を崇め」。

第八調 木曜日の早課 八五五

第八調 木曜日の早課 八五六

第九歌頌

イルモス、天は懼れ、地の極は驚けり、神は身にて人人に現れ、爾の腹は天より廣き者と爲りたればなり。故に天使と人人の群は爾生神女を崇め讃む。

霊を滅す獅の順を神の力にて壊りし使徒等よ、爾等は聖詠に云へる如く、<u>ハリストス</u>より全地の牧伯と立てられし者にして、敬虔に之を聖神に服せしめ給へり。祈る、法に戻る吾が心の動搖を神の法に服せしめ給へ。二次。

人の諸子より美しき者たる世界に現れし神の言を傳へたる睿智者よ、爾等平安と生命とを福音する者の足は美しき哉。祈る、諸慾に亂さるる吾が靈を爾等の祈祷を以て平安ならしめ給へ。

神福なる使徒等よ、爾等は地に在る肢體を殺し、苦を以て尊貴なる苦に效いて、全 き生命を衣給へり。祈る、凶悪者の毒悪の矢にて殺されたる我を真の痛悔の醫治を以 て活かし給へ。 生神女讃詞

至仁なる神を生みし至淨なる者よ、甚しき慾を病める吾が靈を慈憐なるに由りて醫して、常に我を誘ひ、我を攻むる諸敵より脱れしめ給へ、我が救はれて、熱切に爾人類を尊くせし者を尊まん爲なり。

又

イルモス、潔き童貞女よ、我等爾に依りて救はれし者は爾を實に生神女と承け認めて、無形の軍と偕に爾を崇め讃む。

聖<u>ニュライ</u>よ、信を以て爾に求むる人人を憂愁の時に救ふ者として、仁慈なる神及び主に祈りて、我を凡の悪より救ひ給へ。

審判は門の側にあり、吾が靈よ、敬みて審判者神に呼べ、主よ、聖<u>ニコライ</u>の祈祷に因りて我を救ひ給へ。

生神女讃詞

光の器たる童貞女よ、諸慾に味まされたる吾が靈を照し給へ、我が信と愛とを以て常に爾を讃樂せん爲なり。

次ぎて「常に福にして」。聯祷、光耀歌、并に常例の聖詠。

挿句に使徒の讃頌、第八調。

主よ、使徒等は地上に熱切に爾を愛して、一切を以て芥帯と爲せり、獨爾を獲ん爲なり、又爾の爲に己の身を苦に付せり。故に光榮を獲て、我等の靈の爲に祈る。
句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に鞄かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。爾

の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

主よ、爾は使徒等の記憶を地上に大なる者と爲せり、我等皆共に之に集まりて爾を なる。鱗とを賜ふ。

句、願はくは主我が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作を我等に助け給 へ、我が手の工作を助け給へ。 致命者讃詞

聖致命者よ、爾等は善く信の甲を衣、十字架の武器を執りて、剛健なる軍士と現れ、勇 ましく暴虐者に敵し、悪魔の迷を倒し、勝利者と爲りて、樂冠を受け給へり。常に我等 の爲に吾が靈の救はれんことを祈り給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

女宰よ、我を殺人者なる蛇、詭譎を以て全く我を呑まんと欲する者より免れしめ給 へ。爾に祈る、其額を破り、悪謀を空しくし給へ、我が其爪より脱れて、爾の保護 を讃美せん爲なり。

次ぎて「至上者よ、主を讃榮し」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、聯祷、第一 時課、常例の聖詠、其他、并に發放詞。

木曜日の眞福詞、第八調。

<u>ハリストス</u>、世界の教主よ、木に在りて盗賊を憶ひし如く、我等を憶ひ給へ、獨洪恩 なる主よ、我等衆に爾の天國を獲しめ給へ。

句、義の為に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

使徒等よ、爾等は<u>ハリストス</u>の角と現れて、邪宗の墓に臥す者を起して、神聖なる 生命に與る者と爲し給へり。

句、人我の爲に爾等を詬り、窘逐し、爾等の事を譌りて諸の悪しき言を言はん時 は、爾等福なり。

*** ことば、ませんでんしゃ。 なんじょう ことば ひみゃっ たね ま きて、衆異邦人の果を結ばざる心 を豊に神を識る智識の果を結ぶ者と爲し給へり。故に宜しきに合ひて讃美せらる。 句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

よりする救の衣を衣給へり。

至聖至尊なる三者よ、爾の神聖なる使徒等の祈祷に因りて、我が不當なる靈の悪慾

を殺し給へ、我が救はれて爾を讃樂せん為なり。
今も
神聖なる熾炭の鉗よ、慶べ、諸預言者の封印、諸使徒の宣傳たる至淨なる生神女よ、
慶べ、我等は爾に由りて朽壞より釋かれたり。

木曜日の晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に十字架の讃頌、第八調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、執か能く立たん、然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

鳴呼至榮なる奇跡や、生を施す植物たる至聖なる十字架は今日高く擧げらるる者として現る、地の四極は之を讃榮し、悪鬼の軍は之を畏る。嗚呼如何なる賜か地上の者に賜はりたる。 $\underline{\underline{NUZhZ}}$ よ、此を以て我等の靈を救ひ給へ、爾獨慈憐の主なればなり。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

鳴呼至榮なる奇跡や、生命を充てたる葡萄の房として至上者を載する十字架は今日地より擧げらるる者と見らる、此を以て我等皆神に引き寄せられ、死は全く勝に呑まれたり。鳴呼至尊なる木や、我等は之に由りて復エデムに不死の糧を受けて、ハリストスを讃樂す。

可、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。
至仁なる $\frac{1}{4}$ 大変に於ける爾の仁慈は大なる哉。如何ぞ爾は己を卑くし、人と為りて、不當なる諸僕の爲に甘じて苦と、十字架と、恥づべき死とを忍びたる。我等何の獻物をか宜しきに合ふ者として爾神に獻げん、我等信者は唯爾を讃榮して感謝す。

次ぎて若し之あらば、月課經の聖人の讃頌。若し月課經なくば、又至聖なる生神女の讃頌、第八調。

句、願はくは $\underline{\underline{\text{イズライリ}}}$ は主を恃まん、蓋 憐 は主にあり、大なる 贖 も彼にあり、彼は $\underline{\text{イズライリ}}$ を其 悉 くの不法より贖 はん。

讃美たる生神女よ、爾より身を取りし主の仁慈は言ひ難き哉。蓋彼は人を愛する主として、十字架と死とを忍び給へり、其造りし世界を救はん爲なり。彼に祈りて、我不當にして多罪なる者をも苦より救ひて、暮れざる光の輝く所に居らしめんことを求め給へ。

第八調 木曜日の晩課 八六一

第八調 木曜日の晩課 八六二

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

嗚呼主宰よ、斯の我が自に見る所の顯見は何ぞや。爾は萬物を有つ主にして木に擧 げられ、衆人に生命を賜ふ者にして死すと、生神女は言ひ難く彼より輝き出でたる 神及び人が十字架に擧げらるるを見る時、泣きて云へり。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

至淨なる者よ、爾の子及び神が血を濺ぎて獲たる牧群を爾の尊き祈祷を以て諸難よ り救へ、猛獸の如き見ゆると見えざる敵を逐ひて、其面を恥に充て給へ、昔聖詠者 ダワィドの述べしが茹し。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。 主宰イイススよ、童貞女爾の母は爾が十字架に釘せられ、自由に 苦 を受くるを見 て呼べり、鳴呼吾が甘愛なる子、人類の不能を癒す醫師、爾の慈憐を以て衆を滅込 より救ふ主よ、如何ぞ非義なる傷を忍ぶ。

次ぎて「穩なる光」。本日の提綱。「主よ、我等を守り」。

挿句に十字架の讃頌、第八調。

<u>ハリストス</u>神よ、爾は十字架に擧げられて、人類を救ひ給へり。我等爾の苦を讃樂

句、天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦 の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

ハリストス神よ、爾は十字架に釘せられて、樂園の門を啓き給へり。我等爾の神性 を讃榮す。

つ、主よ、我等を憐み、我等を憐みん、蓋我等は侮に饜き足れり、我等の靈 は驕る者の辱めと誇る者の侮とに饜き足れり。

主の致命者よ、爾等は凡の處を聖にし、凡の病を醫し給ふ。爾等に祈る、今も我等 の靈が敵の網より救はれんことを祈り給へ。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

無玷なる牝牛は犢が甘じて木に釘せられしを見て、痛く哭きて呼べり、鳴呼甘愛な る子よ、恩を識らざるエウレイの會は何をか爾に報いたる。至愛なる子よ、彼等は我 を子なき者と爲せり。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひ」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞。聯祷及び 發放詞。

第八調 木曜日の晩課 八六三 八六四 第八調 木曜日の晩堂課

至聖なる生神女の規程、第八調。

第一歌頌

イルモス、我等其民をして、紅の海を過らせし主に歌はん、彼獨 嚴 に光榮を顯した ればなり。

附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。

至りて無玷なる童貞女よ、<u>ハリストス</u>を我が爲に慈憐の主と爲して、詰問の日に於て なないきに要るべき定罪を免れしめ給へ。

女宰よ、祈る、我に傷感の滴を注ぎて、我の汚を滌ひ給へ、我が爾を讃樂せん爲なり。 光榮

童貞女よ、暮れざる光を生みし者として、我を照らして、我が怠惰の深き暗を拂ひ給へ。

へ。 はようしんじょ ちしんじょ をおして、 また くるしみ かっか たま 生神女よ、多くの罪に溺れたる我を救ひて、畏るべき定罪と凡の苦より脱れしめ給へ。

第三歌頌

イルモス、主天の穹蒼の至上なる造成者、教會の建立者、冀望の極、信者の固、獨人を愛する者よ。我を爾の愛に堅め給へ。

至淨なる者よ、我潔 き度生に離れ、禽獸に似たる者と爲りて、全く定罪に服せり。祈る、審判者を生みし者よ、我を凡の定罪より脱れしめて救ひ給へ。

より、こうないのというでは、からないである。 過られぬ門たる少女、神に往かしむる者よ、祈る、我が為に痛悔の門を開きて、爾、神のというない。 の恩寵を蒙れる者の慈憐の流にて我が諸罪の汚を潔め給へ。

女宰よ、我を諸慾の攻撃より救ひて、今我と戦ふ諸敵に勝ち、我を神の旨の石に堅め給へ。神の光の門よ、吾が靈を照し給へ。

第四歌頌

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を静き、爾の作為を悟り、爾の神性を讃樂せり。 が強いというではない。 が強いというではない。 が強いというではない。 神の恩寵を蒙れる童貞女よ、吾が靈の傷を醫し給へ。 潔 き者よ、諸慾に味まされた。 たまないというではない。 なが智慧を照し給へ。

至淨なる者よ、言の母として我憂悶の中に眠りて、諸罪に蔽はれたる者を痛悔に召し給へ。

第八調 木曜日の晩堂課 八六五

第八調 木曜日の晩堂課 八六六

光榮

婚姻に與らざる女宰、身を取りたる言を生みし者よ、我が靈を照して、我を「ゲエンナ」及び苦より救ひ給へ。 今も

母童貞女よ、我悉くの恃賴を爾に負はせたり、神我が救主を生みし者よ、吾が靈

を護り給へ。

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐なる我を掩へ り。祈る、我を返して、我が途を爾の誠の光に向はしめ給へ。

潔き童貞女よ、吾が靈の醫されぬ諸慾を醫し、怠惰に由りて滅えたる我が燈を點 し、我を痛悔の途に向はしめ給へ、我が信と愛とを以て爾を讃樂せん爲なり。 神の恩寵を蒙れる者よ、我恥づべき行を爲しし者は詰問の先に己を定罪す。唯祈

る、衆人の轉達者として我が爲にも轉達して、我を畏るべき定罪より救ひ給へ。

至聖なる少女、罪人の轉達者、人人の慈憐なる挟助者よ、我を圍みて擄にせし靈を害 する諸敵、及び我を殺す。甚しき諸慾より我を援け給へ。 今も 世界の爲に生命たる贖罪主及び王を生みし至淨なる者よ、我犯罪に由る死の刺に殺さ れたる者を活かして、光に向はしめ給へ。

第六歌頌

イルモス、教世主よ、我を浮め給へ、我が不法多ければなり、流る、我を悪の淵より引 き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が教の神よ、我に聽き給へ。

至淨なる童貞女、言ひ難く人人の爲に生命を生みし生神女よ、我多くの罪に殺された る者を活かして、主の旨を行ふに導き給へ。

生神女、獨信者の爲に避所たる者よ、我等衆信者、常に罪悪と、災禍と、憂愁との深處

に溺るる者は爾を轉達者及び垣墻として獲たり。 光樂 爾の聖なる産を以て蔓りたる無神を枯らしし無玷至淨なる者よ、常に敵の播きて我 の内に生ずる悪を絶ち給へ。

撃なる神の母よ、我が智慧を聖にし、我が心を照し、我を圍む悪より我を脱れしめ給 へ、我が爾堅固なる保護者を讃樂せん爲なり。

次ぎて主憐めよ、三次。光榮、今も、

八六七 第八調 木曜日の晩堂課 八六八

坐誦讃詞、第八調。
鳴呼新たなる奇跡や、嗚呼畏るべき秘密やと、童貞女は其子の十字架の木に懸けられしを見て呼べり、不死なる神の言よ、是れ何ぞや、如何ぞ爾は死者と見られて、
世紀のうした。
全能者として地を震はしむる。我爾の驚くべき神聖なる寛容を歌頌す。

第七歌頌

イルモス、<u>エウレイ</u>の少者は爐に在りて勇ましく焔を踐み、火を露に變じて呼べり、 主神よ、爾は世世に崇め讃めらる。

童貞女よ、我に慈憐を垂れて、我罪の武器に傷つけられし者を爾の祈祷の治療を以 て醫し、世世に滅されぬ火より我を脱れしめ給へ。

数世主の母よ、我を圍む 甚 しき誘惑と、悪しき念と、罪なる 行 より脱れしめ給へ、 我が教はれて常に職として爾を讃樂せん爲なり。

光樂
神の母よ、我罪過の縲絏に縛られたる者は今爾に趨り附く、童貞女よ、大なる仁慈を以て我を釋きて、悪鬼の強暴及び苛虐より脱れしめ給へ。

「一慈なる神の言を生みし童貞女よ、我を憐みて救ひ給へ、爾の内に在る光を以て吾が靈を照して、我を悪鬼の 甚 しき詭計より脱れしめ給へ。

第八歌頌

イルモス、ハルデヤの窘迫者は怒りに堪へずして、敬虔の者の爲に爐を七倍熱くしたれども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼べり、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

婚姻に動らざる童貞女よ、萬事に完全にして、性の近づかれぬ主は爾より身を表て、 我が捫るべき者と現れたり。彼に熱切に祈りて、我が罪禍の任を卸して、我を將來 の定罪より脱れしめんことを求め給へ。

至淨なる神の母よ、吾が靈の傷と罪の汚とを爾の子の脅より流れし泉を以て滌ひて潔め給へ、蓋我爾に呼び、爾に趨り附き、爾神の恩寵を蒙れる者に祈る。

今も

第八調 木曜日の晩堂課 ハ六九

第八調 木曜日の晩堂課 八七〇

獨生命を生みし至りて無玷なる童貞女よ、蛇の囓むに因りて殺されたる吾が靈を活かして、我等の爲に生れし主の旨を行ふを得しめ給へ。蓋我呼ぶ、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、彼を世世に尊み崇めよ。

第九歌頌

イルモス、天は懼れ、地の極は驚けり、神は身にて人人に現れ、爾の腹は天より廣き者と爲りたればなり。故に天使と人人の群は爾生神女を崇め讃む。

光の門たる者よ、我が靈、諸慾に昧まされ、悪念に汚されて惱める者を照して、我を嫌疑と、悪鬼の毒害と、畏るべき詰問と、將來の解及び苦より脱れしめ給へ。 ままれて、爾を生みし者を産の後にも不朽の者と護りし救世主よ、我を憐みて、我が行を審判せん爲に坐する時、我が不法と諸罪とを顧みること勿れ、爾 は獨罪なくして、仁慈仁愛の神なればなり。

今长

がみ まんちょう こうむ しょうじょ なんじ むけい こうしょう もっ われら おもいと こころ のぞみ てら たま神の恩寵を蒙れる少女よ、爾の無形の光照を以て我等の思と、心と、望とを照し給

へ、我等が直く生命の途を行き、慈憐を蒙りて、常に爾の讃美を唱へん爲なり。 次ぎて「常に福にして」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞。其他常例の如し、并 に發放詞。

金曜日の早課

第一の誦文の後に十字架の坐誦讃詞、第八調。

とうぞく 盗賊は生命の首が十字架に懸れるを見て曰へり、我等と共に釘たれし者は、若し身 を取りし神に非ずば、日は其光線を隱さず、地も戰い慄かざらん。萬の事を忍ぶ主 よ、爾の國に於て我を憶ひ給へ。

地獄に降され、一人は罪を釋かれ輕くせられて、神學の智識に昇せられたり。<u>ハリス</u>

第八調

第八調 八七二 金曜日の早課

トス神よ、光榮は爾に歸す。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

童貞女よ、我等は常に爾の子及び神の十字架に護られ、悪鬼の攻撃と悪謀とに勝ち て、爾眞の生神女を歌頌し、爾の預言せしが如く、愛を以て萬世に爾至淨なる者 を讃揚す。求む、爾の祈祷を以て我等に諸罪の赦を與へ給へ。

第二の誦文の後に十字架の坐誦讃詞、第八調。

<u>エデム</u>の中の樹は死を生じ、全地の中の樹は生命を生ぜり、蓋不朽なる我等は第一 の者の果を食ひて朽壞の者と爲れり、第二の者を獲て、不朽を樂しむ、爾十字架を以 て神として人類を救ひ給へばなり。

句、神我が古世よりの王は救を地の中に作せり。

樂園の樹は先に我を裸體にし、敵は食を以て我を殺せり、十字架の樹は人人に永遠 の生命の衣を衣せたり。十字架が地に樹てられしに、全世界は喜に滿ちたり。我等 信者は其擧げらるるを見て、心を合せて神に呼ばん、爾の家は光榮に充ちたり。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

致命者讃詞

今日斯の殿は天の光に照さる、蓋此の内に天使の軍は喜び、彼等と偕に人の會も樂 しむ、受難者の記憶を祭るに因りてなり。ハリストスよ、彼等の祈祷に因りて爾の世界 に平安と大なる。隣とを降し給へ。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

至淨なる者よ、爾は潔き爾の血より身を取りて、智慧に超えて爾より生れし主が

罪犯者の中に木に懸れるを見て、心を傷め母として哭きて呼べり、嗚呼吾が子よ、此の神聖なる言ひ難き攝理は何ぞや、爾は此を以て爾の造物を活かし給へり。我爾の慈憐を歌頌す。

第三の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

ハリストス教世主よ、爾の十字架及び死に由りて敵の苛虐は罷み、死は死され、地獄は古世より擴にせし死者を俄に出せり。彼等は爾の權柄及び爾の驚くべき神聖なる謙卑、爾至仁の主が此を以て衆人を救ひし者を歌頌せり。

ハリストスよ、原祖は神と爲らんとする不義なる望に因りて衆の爲に滅囚の縁由と現れ、爾は至仁なる主として己の十字架を以て生命を流し給へり、人人を始の定罪より釋かん爲に甘じて釘せられたればなり。故に我等爾の自由なる苦を歌頌す。

第八調 金曜日の早課 八七三

第八調 金曜日の早課 八七四

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

無玷なる牝羊は 盖及び牧者が十字架に懸れるを見て呼べり、吾が子よ、此の畏るべくして至りて悲しき顯見は何ぞや、如何ぞ萬衆の生命は地上の者と均しく死に定めらるる。祈る、言よ、言ひし如く三日目に復活せよ、我が喜びて爾を讃樂せん爲なり。

尊貴にして生命を施す十字架の規程。イオシフの作。第八調。

第一歌頌

イイススよ、致命者の大數は爾の十字架、及び苦に因りて勇敢を得て、己を苦に付し、無量の苦痛と苦難とを忍びて、爾を諸敵の前に造物の王と承け認めたり。故に皆爾光榮の主の光榮に與る者と爲れり。

なななんじこうえい
皆爾光榮の主の光榮に與る者と爲れり。

なななんじこうえい
なななん

主よ、爾の致命者は爾の神聖なる尊き血の濺ぐに因りて救を獲、靈を害する汚はしき悪鬼に祭を獻ぜざるに因りて非義に苦しめられ、己の血を流して、實に尊き祭祀として爾萬有の王に捧げられたり。
生神女讚詞

無話なる者は爾見ざる所なき主が十字架に釘せらるるを見て、突きて云へり、吾が子よ、此れ何ぞや、爾の多くの恩賜を樂しみし者は何をか爾に報いたる、如何ぞ我苦痛

を忍ばん。恒忍なる主よ、光榮は爾の慈憐と畏るべき定制とに歸す。

又至聖なる生神女の規程、第八調。

イルモス、<u>イズライリ</u>は乾ける地の如く水を過り、<u>エギペト</u>の禍を免れて籲べり、

第八調 金曜日の早課 八七五

第八調 金曜日の早課 八七六

我が救主及び神に歌はん。

神の母よ、度生の逸樂に味まされ、常に世俗の憂に擾さるる吾が靈を爾の光照を以て照し給へ。

がかの母よ、爾の神聖なる産に因りて天の門は啓かれたり。求む、仁慈なるに因りて吾が 靈 を之に向はしめて、我に其内に入るを得しめ給へ。

童貞女よ、凶悪者の矢に傷つけられ、其悪謀に惱まされたる吾が靈を爾の仁慈を以て醫し給へ。

 ***</

第三歌頌

イルモス、杖は秘密の預象として受けらる、蓋芽を出すに因りて司祭を指し示せり。嘗て實を結ばざる教會にも今十字架の木は華さきて、其權力及び堅固と爲れり。

衆人の拯救たる惟一の救世主よ、爾が非義に木の上に擧げられしを見て、日は變じて黒くなり、石は裂け、地は懼に因りて震へり。

セイセイは手を舒べて尊き十字架を像り、我等は今敬虔に之を像りて、悪鬼の軍に勝ちて、之に惱まされぬ者として止まる。 致命者讃詞

受難者は己を多種の苦に付して、勇ましく之を忍び給へり、蓋甘じて苦を受けて死を死し、世界に生命を輝かしし主の苦に效へり。 **致命者讃詞**至榮なる受難者は躓を爲す誘惑を心より遠ざけて、礙なく苦の途を行き、樂し

至榮なる受難者は躓を爲す誘惑を心より遠ざけて、。礙なく苦の途を行き、樂しみて神聖なる安息に進み給へり。 生神女讃詞

生神女は哭きて云へり、子よ、我人類の常の法に超えて爾を生みたり。如何ぞ不法者は爾獨生命の法を立てし主を不法の者の間に木の上に舉げたる。

∇

イルモス、主天の穹蒼の至上なる造成者、教會の建立者、冀望の極、信者の固、獨人を愛する者よ、我を爾の愛に堅め給へ。

童貞女よ、我に黙さざる歎息と、熱切なる涙と、傷める心とを與へ給へ、我が犯しし諸罪の爲に泣かん爲なり。獨讃美たる者よ、我が増長する諸慾を殺し給へ。

神福なる女宰よ、罪の眠に重くせられて地獄の腹に降らんとする我が靈を起して、我

第八調 金曜日の早課 八七七

第八調 金曜日の早課 八七八

に真の痛悔の心を與へ給へ。

たました。
たました。
たました。
たました。
たました。
たました。
たまれ、
はおいってん。
たまれ、
たまれ、
たまれ、
たまれ、
たまれ、
たまれ、
たまれ、
たまれ、
たまれた。
たまれた。

神の母よ、我恃賴を爾に負はしめて、亟に失望より救はれん、我明に爾の慈憐の富と爾の勇敢の力とを知ればなり。

第四歌頌

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を聆き、爾の作爲を悟り、爾の神性を讃樂せり。 我等は黄楊として敬虔を、松として信を、杉として愛を有ちて、神聖なる十字架に伏拜

教世主よ、爾は死者と為りて、殺されたる人人を活かし、罪を入れたる蛇を殺し給 へり。

致命者讃詞

神聖なる致命者はハリストスの苦に效ひて、天の光照にも與る者と爲れり。

致命者潜詞

致命者よ、爾等は美しき言に合せられて飾られ、義の日を愛して 明 に照されたり。

生神女讃詞

にゅんけっ 純潔なる少女よ、爾は世の無き先より在す完全なる主を新なる赤子として生み給へり。彼は十字架と仁慈とを以て衆を完全の者と爲し給ふ。

又

イルモス、主よ、爾は我の固、我の力なり、爾は我の神、我の喜なり、爾は父の懐を離れずして、我等の貧しきに臨み給へり。故に預言者 \underline{r} ウワクムと共に爾に呼ぶ、人を慈しむ主よ、光榮は爾の力に歸す。

神の聘女、生神童貞女よ、爾の仁慈の流を吾が靈に灌ぎて、其諸罪を淨め、悪しき念を洗ひて、之を潔き者と爲し給へ、我爾の轉達と爾のけと援助とに趨り附きたればなり。

至淨なる神の母よ、我今爾の保護に趨り附く、亟に我を敵の起す 甚 しき暴風と 靈を養す不法の流より救ひて、直に爾の港及び爾の穩静に導き給へ。

敵は罪過の矢を以て吾が靈に傷つけ、逸樂を以て吾が心を汚して、我を直き途より遠

第八調 金曜日の早課 ハ七カ

第八調 金曜日の早課 八八〇

ざけたり。故に我爾に呼ぶ、我を返し、我を醫して救ひ給へ。

第五歌頌

イルモス、鳴呼ハリストス王及び主が懸りたる木は三重に猫なる哉。木を以て誘ひ

し者は爾に誘はれて墜ちたり、神我が靈に平安を賜ふ者は身にて爾の上に釘せられしに因る。

ハリストスよ、爾は我等裸體と爲りし者に不朽の衣を衣せんと欲して、裸體と爲り、 「はまうじか」 した。 十字架に釘せられて、敵を其悪謀より裸體となし給へり。故に我等爾の苦を讃楽す。 なが、の脅より流れし救を施す血は世界を潔め、偶像の祭の血を涸らし、智識の果に因 りて朽壞せし者を新にし、我等の 靈に不朽を流せり。

致命者讃詞

<u>ハリストス</u>よ、忠信に爾を愛する諸聖人の中に於て爾は如何にか奇異なる。蓋彼等は爾より富を得て、世界に醫治の神聖なる河を流し、我等の苦の流れを涸らす。

生神女讃詞

至淨なる生神女よ、爾は衆人の救主及び醫師を生みて、罪にて病める我等を醫し給へり、彼は十字架の木に釘せられて、我等の靈に救を流したればなり。

又

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐れなる我を掩へり。祈る、我を返して、我が途を爾の誠の光に向はしめ給へ。

純潔なる者よ、我熱切に爾の保護に趨り附きて、靈の目を爾に擧ぐ。我を退くる母れ、仁慈なるに因りて我を護り、我を援けて、我が諸罪の汚を滌ひ給へ。

獨讚美たる童貞女よ、死を致す毒は罪の齒に由りて我等の中に入りたり。然れども 仁慈に由りて我等の爲に身にて苦を受けし爾の子の釘と神聖なる戈とを以て出だされて滅えたり。

女宰よ、我を悪鬼の奸計と人の悪事より救ひて、速に吾が靈體の諸病を醫し給へ、爾は獨凡の肉慾と諸罪との醫師、救者及び主を生みたればなり。

第六歌頌

第八調 金曜日の早課 八八一

第八調 金曜日の早課 八八二

ハリストス、洪恩なる主宰よ、爾は弓として、爾の神聖尊貴なる十字架を張りて、矢

を殺人者に放ち、爾の手の釘を其殘忍にして極めて汚らはしき心に打ち、全く彼を殺して、彼に殺されし者を活かし給へり。 **致命者讃詞**

光明なる受難者は不義なる審判者の爲に苦に付されて、物質の火に焚かるる時、更に多く熱心を燃し、聖神の恩寵と功用とに由りて靈を玷なく護られ、善き 戰 を戰 ひし者として榮冠を獲たり。

生神女讃詞

至淨なる童貞女よ、爾が己の子の十字架に釘せられ、甘じて苦を受け、其神聖なる費を戈にて刺され、戦ふ蛇の軍を殺すを見る時、劍は爾の心を貫けり。故に母として哭きて彼を讃め揚げたり。

又

イルモス、救世主よ、我を淨め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を悪の淵より引き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が救の神よ、我に聽き給へ。

我不當の者は神より離れて放蕩に生を送り、逸樂の奴隷と為りて、凡の神聖なる徳を剥がれたり。至淨なる者よ、我を顧み給へ。

我は賜はりし誠より逃れ、生命に遠ざかりて、死に近づきたり。至淨なる神の母よ、我に返るを教へ給へ。

至淨なる童貞女よ、我が生は悪しくして怠惰に充つ。然れども爾の仁慈は大いして言い難し、願はくは爾の慈憐は我が不能なる心に勝たん。

第七歌頌

第八調 金曜日の早課 八八三

第八調 金曜日の早課 八八四

イルモス、不虔なる苛虐者の威嚇と聞くに堪へざる神に於ける謗讟とを吐く無智なる命令は民を擾せども、三人の少者は殘忍の怒と滅囚の火とを懼れずして、露を送る風に演しくせらるる焔の中に在りて歌へり、讃榮せらるる先祖と我等との神よ、爾は崇め讃めらる。

文の言よ、爾は十字架の木の上に葡萄の房の如く懸りたる時、秘密の酒を滴らせ給へり。是は犯罪の醉を醒まし、凡そ爾を自由に苦を受くる神及び造物主と識る者を樂しませ、之を救ひて歌はしむ、讚詠せらるる先祖と我等との神よ、爾は崇め讃めらる。

我が<u>ハリストス イイスス</u>、洪恩なる主よ、爾は恥づべき釘殺を忍びて、人人の凡の たんそく 東島とを止め、膽を嘗めて、凡の悪の苦味を去り、爾の手に傷つけて、我等 の靈の傷を醫して歌はしむ、讚詠せらるる吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

致命者讃詞

勇敢なる聖受難者よ、爾等は苦を以て苦なき生命を獲たり。故に上より恩寵を受けて、我等の病を醫し、苦を去り、悪鬼を遠ざけ、信者の爲に轉達して、之を救ひて呼ばしむ、讃詠せらるる吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。 致命者讃詞致命者よ、爾等は審判座の前に立ちて、我等の爲に朽壞の外に我等と同じき身を受けしハリストスを承け認め、實に彼の苦に效ふ者と現れて、火に焚かるること及び其他の諸の苦を忍びて、樂しみて呼べり、讃詠せらるる吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

生神女讃詞

子よ、我爾が非義に苦を受くるを見て悲哀に充ち、爾が戈にて脅を刺さるるを見て靈を刺さると、生神女、唯一なる女宰は涕泣し歎息して呼べり。我等皆宜しきに合いて彼を讃美し、且敬虔にして呼ぶ、讃詠せらるる吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

又

イルモス、エウレイの少者は爐に在りて勇ましく焔を踐み、火を露に變じて籲べり、 主神よ、爾は世世に崇め讃めらる。

隱れざる光を受けし潔き童貞女よ、爾は全身光明を放つ者にして、信を以て爾に向ひて、至淨なる者よ、爾の腹の果は祝福せられたりと呼ぶ者を照し給ふ。

童貞女よ、爾の仁愛と仁慈とを顯さん爲に我を悪の深處より上げ給へ。蓋我呼ぶ、 至淨なる者よ、爾の腹の果は祝福せられたり。

第八調 金曜日の早課 八八五

第八調 金曜日の早課 八八六

め給へ、我が救はれて、常に職として爾を讃樂せん爲なり。

第八歌頌

イルモス、聖三者と同數なる少者よ、神父造物主を崇め讃め、降りて火を露に變ぜし言を讃め歌ひ、萬有に生命を施す至聖神を世世に尊み崇めよ。

<u>エデム</u>の内に木の果を食ふに因りて生じたる誰を全く滅しし木は祝福せられ、斯の上に仁慈に因りて自由に上げられんことを甘ぜし<u>ハリストス</u>は讃樂せらる。

常に光榮なる先祖は昔其孫を祝福する時、手を交ふるを以て聖にせられし木の象を動きた。現せり。此の木に縁りて凡そ木の果の食の爲に詛はれて、悪の深處に陥りし者に祝福は賜はりたり。

主宰よ、衛十字架に舒べられしに、全人類は直くせられ、悪鬼の軍は倒され、離れたる者は合せられ、爾の權柄と爾の能力とは世世に崇め讃めらる。

致命者讃詞

神聖なる主の受難者よ、爾等は今福たる光樂と、不朽の糧と、光明なる居所とを嗣ぎ、天上の品位に合せられ、爾の光樂なる望の成就を獲て樂しみ給ふ。

致命者讃詞

光明なるハリストスの受難者よ、爾等の勇毅は日よりも明に輝きて、神聖なる力を以て悪魔の悉くの迷を昧まし、衆信者の心を世世に照す。

生神女讃詞

至淨なる童貞女、萬有を造りし主の讃美たる母よ、我等皆爾を靈智の雲、成聖の幕、神の寶座、光の門、燈及び言の東と稱ふ。

又

イルモス、ハルデヤの窘迫者は怒りに堪へずして、敬虔の者の爲に爐を七倍熱くしたれども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼べり、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

童貞女よ、全能の主は爾の腹に入りて、爾を信者の爲に堅固なる柱と爲せり。我等之に趨り附きて、災禍及び憂愁より救はれ、誘惑を免れて、同心に歌ふ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、彼を世世に尊み崇めよ。

女宰よ、我聖潔の度生に離れ、扼め難く罪に引かれ、其奴隷と爲りて、<u>ハリストス</u>に於

第八調 金曜日の早課 八八七

第八調 金曜日の早課 八八八

ける自由と真の義とを剥がれたり。教の寶藏なる者よ、我裸體貧窮にして爾に趨り附く者を棄つる毋れ。

女宰よ、願はくは爾より生れし主に捧ぐる我が祈祷は納れられん。願はくは彼獨仁慈なる主として我を犯罪と定罪、及び法に合ふ詛より脱れしめ、我が甚しき諸罪の汚を滌ひ給はん。

至淨なる神の母よ、吾が靈の傷と罪の汚とを爾の子の脅より流れし泉を以て滌ひて潔め給へ。蓋我爾に呼び、爾に趨り附き、爾神の恩寵を蒙れる者に祈る。

次に生神女の歌を歌ふ「我が靈は主を崇め」。

第九歌頌

鳴呼至りて義なる惟一の萬有の王、吾が<u>ハリストス</u>よ、如何に禰は非義にして木に釘せられん爲に定められたる。然れども是は凡そ信を以て禰の自由なる苦と攝理とを讃樂して、忠信に禰を崇め讃むる者の義とせらるる縁由と爲れり。

かるることと斷たるること、炎び火に焼かるることを忍びて、主を愛する愛を益熾 に燃せり。故に樂冠を冠りて天に居り給ふ。

<u>ハリストス</u>神、我等の爲に人と現れし主、使徒と致命者との甘愛なる者よ、彼等の祈祷 に因りて、仁慈なる主として、我等衆に慈憐を垂れて、諸罪の赦を與へ、諸難を免 れしめ、顔の國に入るを得しめ給へ。 生神女讚詞

童貞女よ、爾は不朽なる爾の胎に入りし主、甘じて苦を忍び、言ひ難き仁慈に因 りて衆に苦なきを賜ひし者の爲に輝ける殿と現れたり。我等信を以て彼に伏拜し て、敬虔に爾を崇め讃む。

又

八八九

第八調 金曜日の早課 八九〇 イルモス、天は懼れ、地の極は驚けり、神は身にて人人に現れ、爾の腹は天より廣 き者と爲りたればなり。故に天使と人人の群は爾生神女を崇め讚む。

神の母よ、て が生みし真の神に絶えず祈りて、<math>て で の 諸僕に其行ひし諸罪諸悪の全き赦を賜ひて、彼等に衆聖人と偕に永遠の福樂を獲しめんことを求め給へ。

至聖なる生神女よ、爾の大なる慈憐に因りて、我が卑微なる靈に屬神の能力と勇毅 とを佩ばしめ、十字架の武器を以て之を固め、爾の仁愛の露を以て吾が罪の汚を潔 め給へ。

った。 潔き者よ、我が爲に救の柱と爲りて、悪鬼の軍を防ぎ、諸の誘惑と災禍とを遠ざ け、諸慾の起るを鎮め、吾が靈に深き平安を與へ給へ。

讃美たる神の母、潔き童貞女よ、愛を以て爾を歌ふ者を救ひ、慈憐を垂れて彼等を 諸の誘惑及び憂患より護り給へ、爾は神を生みし者として、凡そ欲する所を行ふ を能し、妨なく慈憐を施し給へばなり。故に我等皆爾を崇め讃む。

次ぎて「常に福にして」、及び伏拜。小聯祷、光耀歌、及び常例の聖詠。

挿句に十字架の讃頌、第八調。

にんかい たい しゅうしゅ しゅうじか とうじゅうじか とうしゅうじか はしょう けだしなんじ これ もっ なんじ 仁愛なる我が主よ、<u>モイセイ</u>の杖は爾の尊き十字架を預象せり。蓋爾は此を以て爾 の民を海の深處よりするが如く救ひ給ふ。

句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。 は爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

<u>エデム</u>の樂園の中に植物の間に果の食ふべき樹は生じたり、<u>ハリストス</u>よ、爾の教會 の内に全世界に生命を流す爾の十字架は樹ちたり。彼は食を以て食ひしアダムを殺 し、此は信を以て救はれし盗賊を生くる者と為せり。ハリストス神、徹の苦に由り て我等に對して設くる敵の悪謀を破りし主よ、我等をも此の救に與る者と爲して、爾

の國を得しめ給へ。

句、願はくは主吾が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作を我等に助け給 へ、我が手の工作を助け給へ。

致命者讃詞

聖なる者よ、我等何を以てか爾等を稱せん、ヘルワィムとせんか、ハリストス爾等では、 の上に息ひたればなり、<u>セラフィム</u>とせんか、爾等絶えず彼を讃楽したればなり、天使 とせんか、爾等肉體を捨てたればなり、能力とせんか、爾等奇跡を行へばなり。爾等 の名は多く、恩賜は更に多し。我等の靈の救はけんことを祈り給へ。

八九二 第八調 金曜日の眞福詞

光樂、今も、十字架生神女讃詞。 子よ、我爾衆人に警醒を賜ふ主が木の上に眠りしを見るに勝へず。然れども是れ昔果 を食ふ罪に因りて滅込の眠にて眠りたる者に神聖なる救の警醒を賜はん爲なりと、 童貞女は哭きて言へり。我等彼を崇め讚む。

次ぎて「至上者よ、主を讃榮し」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、聯祷、第一 時課、常例の聖詠、并に發放詞。

金曜日の眞福詞、第八調。

<u>ハリストス</u>、世界の教主よ、木に在りて盗賊を憶ひし如く、我等を憶ひ給へ、獨洪恩 なる主よ、我等衆に爾の天國を獲しめ給へ。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

<u>ハリストス</u>よ、爾は木の上に手を舒べて、凶悪なる首領と權柄とを退けて、敬虔に爾 を讃楽する者を此等の惱より救ひ給へり。

句、人我の爲に爾等を詬り、窘逐し、爾等の事を譌りて諸の悪しき言を言はん時 は、爾等福なり。

されし者の爲に不死の流を注ぎ給へり。故に我等畏を以て爾を讃榮す。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

受難者は地上の暫時の樂を顧みず、勇ましく己を苦に付して、其聖なる傷にて悪敵 に傷つけたり。

無原なる三者の一、甘じて十字架に苦を忍びたる主よ、我が苦の流を盡く涸ら

して、我に教を得しめ給へ。 今も
忙一の無玷なる牝羊及び童貞女は神の 羔 及び言
エムマヌイルの身にて木の上に懸れ るを見て、痛く哀しみて涙を流し給へり。

金曜日の晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に聖致命者の讃頌、第八調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人 の爾の前に敬まん爲なり。

> 金曜日の晩課 八九三

> 第八調 金曜日の晩課 八九四

主の致命者よ、爾等は凡の處を聖にし、凡の病を醫し給ふ。爾等に祈る、今も我等 の靈が敵の網より救はれんことを祈り給へ。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

主よ、爾の致命者は現世を忘れて苦を思はざりき、來世の生命を獲ん爲なり、故に之 を嗣ぐ者と爲りて、諸天使と共に喜ぶ。彼等の祈祷に由りて爾の民に大なる。憐を賜

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより 甚し。 如何なる徳、如何なる譽も、之を聖者に歸すべし。蓋彼等は爾天を傾けて降りし者 の爲に己の首を劍の下に傾け、爾己を罄して僕の形を受けし者の爲に其血を流し、 きを以て我等を憐み給へ。

又讃頌、第八調。

句、願はくは<u>イズライリ</u>は主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼 はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

主宰よ、我果を結ばざる木と均しくして、空しき葉に蔽はるるが如き状を爲す者は、爾 が我を祈りて、滅えざる永遠の火に投ぜんことを恐る。求む、我に悔改の時を與へ給 へ、我が爾に徳行の善き果を獻げて、爾の國に入るに勝ふる者と爲らん爲なり。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

主よ、主よ、我爾の僕、日日に多く爾の仁慈を侵す者を爾の顔より退くる勿れ、爾 の義なる怒を以て罰する勿れ。人を愛するハリストスよ、我罪を犯し、衆人に超え て爾の前に罪を犯ししを認む。爾の母の祈祷に因りて、我を憐みて救ひ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

<u>ハリストス</u>よ、爾が光榮の中に萬有の王として審判の寶座に坐し、爾の聖なる諸天使 が畏を以て爾を繞り、審判せらるべき全人類が爾の前に立たん時、主よ、其時爾の母 の祈祷に因りて、信を以て寢りし者を凡の苦より救ひ給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

天の王は人を愛するに因りて地に現れ、人と偕に在せり、蓋淨き童貞女より身を取

り、人の性を有ちて生れし者は、二の性にて一の位ある獨一子なり。故に我等彼が實に全き神及び全き人なるを傳へて、ハリストス吾が神を承け認む。 夫を識らざる母よ、我が靈の憐を蒙らんことを彼に祈り給へ。

第八調 金曜日の晩課 八九五

第八調 金曜日の晩課 八九六

次ぎて「穩なる光」、及び其他常例の如し。

挿句に讃頌、第八調。

主の致命者よ、爾等に祈る、我等の神に祈りて、吾が靈の爲に多くの恩惠と多くの罪過の潔淨とを求め給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福かり。

死者の讃頌

我死を思ひて泣く、神に像りて造られし我が美麗の醜しく、面目なく、姿を失ひて、 極に臥すを見て、涙に勝へず。嗚呼奇跡や、此の我等に成りたる秘密は何ぞや、我 等如何ぞ朽壊に從ひし、如何ぞ死に合せられし、眞に神の命に因りてなり、録され しが如し、彼は世を逝りし者に安息を賜ふ神なり。

句、彼等の靈は福に居らん。

主よ、爾の死は不死の縁由と爲れり、若し爾墓に置かれざりしならば、樂園は開かれざりしならん。故に人を愛する主として、世を逝りし者を安息せしめ給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

潔き童貞女、言の門、我が神の母よ、我等の救はれんことを祈り給へ。 次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。及び其常例の如し、并に發放詞。

金曜日の晩堂課

至聖なる生神女に祈る規程、第八調。

第一歌頌

イルモス、我等其民をして紅の海を過らせし主に歌はん、彼獨嚴に光榮を顯したればなり。

至淨なる童貞女、生命を生みし者よ、我が肉體の念を殺して、我を凡の苦より救 ひ給へ。

童貞女よ、爾より輝やきし主の至りて光明なる光にて吾が靈の眸子を照し給へ、 我が爾を讃樂せん爲なり。

光榮

女宰、獨聖なる生神女よ、我が審判の日に於て救と神聖なる光照とを獲んことを祈り給へ。 今も

至淨なる生神女、疾なく智慧と言とに超えてハリストスを生みし者よ、吾が心の疾

を鎖め給へ。

第三歌頌

イルモス、主よ、爾は爾に趨り附く者の固、爾は昧まされし者の光なり、我が神 は爾を歌ふ。

室淨なる者よ、徹の祈祷を以て我を敵の失より脱れしめ、我に蓋る態念より吾が心 を護り給へ。

至りて無玷なる者よ、吾が靈の傷を醫し給へ。神の母よ、爾の祈祷を以て吾が心 の紛擾を鎮め給へ。

よ、慶べ。

第四歌頌

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を聆き、爾の作爲を悟り、爾の神性を讃樂せり。 の幽暗を照し給へ。

童貞女よ、我が怠惰の坐睡に因りて罪の眠は我に及べり。爾の警醒する祷を以て我 を痛悔に起し給へ。

を痛悔に起し給へ。 光榮 至りて無玷なる者よ、仁慈慈憐の泉より赦罪の水を流して、種種の罪過に因りて枯

れたる吾が心に飲ませ給へ。 今も 至聖なる神の聘女、世界の女宰よ、爾我を救ひて、諸難を退け、諸慾の害を逐ひ給

第五歌頌

イルモス、主よ、我等夙に興きて爾に籲ぶ、我等を救ひ給へ、爾は我等の神なれば なり、爾の外他の神を知らず。

至淨なる女宰よ、顧みて我が聲を聞き、我が悉くの不法を潔め給へ。

暮れざる日を生みし至りて無玷なる生神女よ、我全く諸慾に味まされたる者を照し給 へ、我が爾を讃美讃樂せん爲なり。 光樂 至聖なる少女よ、吾が靈を憐みて、定罪と永遠の苦より脱れしめ給へ。

今も

第八調 金曜日の晩堂課 八九九

第八調 九〇〇 金曜日の晩堂課

衆人の恙を負ひたる主を生みし至聖なる女宰よ、我が病める靈を醫し給へ。

第六歌頌

イルモス、罪の淵、過の暴風は我を擾して、重き失望の深處に引く、鳴呼主宰よ、爾の強き手をペトルに於けるが如く我に伸べて、我を救ひ給へ。

生を施するである。 生を施するである。 動揺を殺し給へ、我が爾を人人の更新の縁曲として讃樂せん爲なり。

窓隣の淵を生みし生神童貞女よ、吾が靈を度生の憂患より救ひて、吾が爲に屬神の 動喜の門を啓き給へ、我獨爾に恃賴を負はせたればなり。

光榮

至淨なる童貞女よ、我が喜びて爾の威嚴と奇跡の大なる恩寵とを歌はん爲に、爾の祈祷を以て常に我を攻むる不當なる念を斥け給へ。 今も

生神童貞女よ、爾は父の懐を離れずして、爾に依りて人人と對話せし主を性に超えて生み給へり。祈る、我等衆の美譽及び堅固として、爾に趨り附く者に慈憐を垂れ給へ。

主憐めよ、三次。光榮、今も、

坐誦讃詞、第八調。

第七歌頌

イルモス、<u>エウレイ</u>の少者は爐に在りて勇ましく焔を踐み、火を露に變じて籲べり、 主神よ、爾は世世に崇め讃めらる。

鳴呼不當の者は悪の中に生を送りて、如何ぞ我を俟つ苦を逃れん、如何にして畏るべき審判者の前に現れん。神の母女宰よ、其時我を援くる者と爲り給へ。

童貞女よ、我が多くの罪悪が我に及ぼしし憂を視て、爾の子に獻ぐる爾の母たる祈祷 を以て我が逝世の先に我に安息を與へ給へ。 今も

第八調 金曜日の晩堂課 九〇一

第八調 金曜日の晩堂課 九〇二

童貞女よ、爾の露を以て吾が心の諸慾の焔を滅し給へ。少女よ、我を永遠の定罪と、畏るべき火と、悪鬼の苛虐より脱れしめ給へ。

第八歌頌

イルモス、聖三者と同數なる少者よ、神父造物主を崇め讃め、降りて火を露に變ぜし言を讃め歌ひ、萬有に生命を施す至聖神を世世に尊み崇めよ。

生を施す爾の産を以て蛇を殺しし童貞女よ、我等の肉慾の動きを悉く殺して、我等に老いざる生命を獲しめんことを祈り給へ、我等が世世に爾を歌はん爲なり。

神の母よ、我常に爾を援助の爲に呼ぶ、我恥づべき行爲を行ひし者を辱かしむる勿

れ。至淨なる童貞女よ、我を憐みて、焔を逃れしめ、永遠の苦より救ひ給へ。

がみ だんちょう こうむ しょうしんじょ しゅうじん てんたっしゃ おれかんなん うち あ もの ため ため なじょしゃ と な神の恩寵を蒙れる生神女、衆人の轉達者よ、我患難の中に在る者の爲に扶助者と爲 りて、我を滅ぼさんと謀る悪鬼より救ひ給へ、我が常に爾を讃美せん爲なり。

至聖なる少女、使徒の譽、致命者の光榮なる者よ、我を永遠の光榮に與る者と爲し給 へ、蓋我呼ぶ、至聖なる神を萬世に崇め讃めよ。

第九歌頌

イルモス、生神女よ、爾は性の法則に超えて、造成者及び主を孕みて、世界の爲に救 の門と爲り給へり、故に我等常に爾を崇め讃む。

光の門たる者よ、爾の暮れざる光にて吾が靈の甚しき幽暗を拂ひて、我に痛悔 の光明なる途を示し給へ、我が之を履み、罪の暗より脱れて、絶えず爾を崇め讃め ん鶯なり。

仁慈なる神の言よ、爾の諸僕を潔めて、諸罪の赦を與へ、永遠の焔より我等を脱れ しめて、爾の國に與る者と爲し給へ、蓋爾は人類を救はんと欲して、十字架を忍び給

生神女よ、爾は仁慈なるに因りて、我に輙く生命の道を行かしめ、誘惑を斥け、諸慾 の勃起を鎮め、諸徳を以て天の國と神聖なる安息とを受くるを得しめ給へ、我が救は れて爾を讃樂せん爲なり。

れて爾を讃樂せん爲なり。 $\frac{今も}{2}$ 至仁なる神を生みし至淨なる者よ、爾は慈憐なるに因りて、 $\frac{1}{4}$ しき慾を病める吾が 霊を醫し、常に我を侵して悪に引く誘惑より脱れしめ給へ、我が救はれて、爾人類

第八調

第八調 「スボタ」の早課 九〇四

を尊くせし者を熱切に尊まん爲なり。

次ぎて「常に福にして」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、并に發放詞。

「スボタ」の早課

第一の誦文の後に致命者の坐誦讃詞、第八調。 聖なる致命者よ、爾等は靈智なる光體と現れたり、蓋信を以て迷ひの幽昧を散じ、 爾等の靈の燈を盛に燃して、新娶者と偕に光樂を以て天上の宮に入り給へり。今 爾等に祈る、我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

節制を以て燃ゆる諸慾を殺しし致命者はハリストスより恩寵を受けて、生くる時に も終りて後にも病者より病を逐ひ、諸の異能を行ふ。實に至榮の奇跡なる哉、其白骨 も醫治を流す。光榮は獨我等の神に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

我等の為に童貞女より生れ、十字架に釘うたるるを忍び、神なるに因りて死にて死を はるばし、後話を立められているという。 滅し、後話を立められているという。 一方ではなる主よ、ないでしている。 一方ではなるが、神なるに因りて死にて死を ではない。 ではない。

第二の誦文の後に坐誦讃詞、第八調。

預言者、ハリストスの致命者、及び成聖者、敬虔と智慧とを以て善き戦を法の如く終って、神より萎まざる 冕を承けし者よ、絶えず我等の爲に彼の仁慈に祈りて、其寛容なる神として、我等に諸罪の赦を賜はんことを求め給へ。

句、主よ、簡が選び近づけし者は福なり。

死者讃詞

主宰よ、爾が慈憐なるに因りて、敬虔を抱きて暫時の生命より移りし者を選ばれたる者の居所に諸義人と偕に入れて、慶賀する者の處に、樂園の終なき樂に安息せしめ給へ。人を愛する主よ、爾の至大なる仁慈に因りて、彼等の自由と不自由との罪を赦し給へ。

句、彼等の靈は福に居らん。

死者讃詞

惟一の造成主、深き智慧と仁慈とを以て萬事を治め、衆人に益ある事を賜ふ主よ、爾

第八調 「スボタ」の早課 九〇五

第八調 「スポタ」の早課 九〇六

の諸僕の靈を安ぜしめ給へ、蓋彼等は爾造物主と造成主と我が神に恃賴を負はせたればなり。

光榮、今も、生神女讃詞。

聘女ならぬ生神女、信者の救なる者よ、我等は爾を垣墻と港、及び爾が生みし神の前に其悦ぶ所の祈祷者として有つ。

聖致命者、成聖者、克肖者、及び死者の規程。其冠詞は、新なる八調經の神聖なる終。 <u>イオシフ</u>の作。第八調。

第一歌頌

イルモス、我等其民をして紅の海を過らせし主に歌はん、彼獨嚴に光樂を顯したればなり。

至りて勇敢なる<u>ハリストス</u>の受難者よ、爾等は尊き教會の樂冠を装飾する尊き眞珠 と現れたり。

睿智なる成聖者よ、爾等は神聖なる光照を以て諸徳の模範を輝かして、信者の心を照し給へり。

ニヒヒi タカピタ。 タムレピ メサチムレセッ ニメ「ムョラレセッ タサ。 セい 言よ、我等は爾預言者と克肖者との中に奇異なる主に祈る、彼等の祈祷に因りて我等 を救ひ給へ。 光榮

至りて義なる言よ、義なる審判を行はん爲に來る時、彼等の祈祷に因りて我等を定罪 せずして救ひ給へ。
生神女讃詞

童貞女よ、女の會は爾を主を生みし者と知りて、苦難を忍びて爾に從ひて、彼の前に進められたり。

又死者の規程、其冠詞は、死する信者の爲に第八の歌頌を綴る。第八調。

第一歌頌

イルモス、<u>イズライリ</u>は乾ける地の如く水を過り、<u>エギペト</u>の禍を免れて籲べり、 我が救主及び神に歌はん。

致命者は死を以て<u>ハリストス</u>の死に效い、苦を以て尊き苦に效ひて、皆神聖にして福たる生命を得たり。

大仁慈なる主よ、福たる居處を得たる者の光榮と歡喜とを爾の受けし諸僕に豊に與る。

今も

たる力に由りて地獄は虚しくなれり。

第三歌頌

イルモス、言を以て天を堅め、地を多水の上に基けし主よ、爾を歌頌讃樂せん爲に我を堅め給へ。

受難者は至りて堅固なる思を以て汚はしき祭を廃して、祭と爲り給ひし言に捧ぐる至りて淨き祭と爲れり。

教えを宜べ、聖機密を行ふを以て種種の慾に因りて古びたる人人を新にせし者よ、 なならない。 爾等は世界を新にせし主の神聖なる門徒と現れ給へり。

先に顯に諸預言者に賜はりし至聖神の恩寵は末の時に於て修齋者を神聖なる恩賜に 充てたり。 光樂

神よ、信を以て今生より移りし者を爾の言ひ難き慈憐に因りて聖人の會に合せて、 繁園の住者と爲し給へ。 生神女讃詞

至りて潔・き讃美たる童貞女よ、宇宙に容れられぬ主<u>イイスス</u>は爾の聖にせられし腹に狭からず入り給へり。

又

イルモス、主、天の穹蒼の至上なる造成者、教會の建立者、冀望の極、信者の固、獨人を愛する者よ、我を爾の愛に堅め給へ。

よ、爾等はハリストスと偕に主たり。

***・ 甘じて死者として墓に置かれ、墓に居る者を興しし救世主よ、我等より受けし者を爾 の義なる軍の居處に入れんことを悦び給へ。

主宰救世主よ、爾の神性に屬する愛憐に促されて、爾の諸僕に諸罪の赦を與へて、之

りて、人を死の削より救ひ給ふ。

第四歌頌

イルモス、主よ、我爾が攝理の秘密を聞き、爾の作為を悟り、爾の神性を讃樂せり。 神福なる受難者よ、爾等は苦難の途を經て、屬神の熱を以て物質の迷を焚き給へり。 主よ、爾は克肖者及び成聖者を明に榮し給へり。彼等の神聖なる祈祷に因りて我を

第八調

至仁なる主よ、移しし爾の諸僕を、諸聖人の祷に因りて、彼等と偕に聖なる居所に於 て慶賀するを得しめ給へ。
生神女讃詞

ためんけった。 たんだしてんせい ほう こんせい りっぽうしゃ だらく がん せい からた 純潔なる者よ、爾は天性の法に超えて、神聖なる立法者、堕落せし人の性を新たに する主を生み給へり。

イルモス、主よ、爾は我の固、我の力なり、爾は我の神、我の喜なり、爾は父の懐 を離れずして、我等の貧しきに臨み給へり。故に預言者アウワクムと共に爾に呼ぶ、人 を慈しむ主よ、光榮は爾の力に歸す。

主宰ハリストスよ、神聖なる致命者は爾の光榮を見、天上に於て爾の輝ける光照を獲 ん爲に、多種の苦を忍びて歌へり、人を慈む主よ、光榮は爾の力に歸す。

きゅうせいしゅう なんじ すまい おお なんじ これ しょとく りょう したが ひて宜しきに合ひて衆に頒 救世主よ、爾に第宅多くして、爾は之を諸徳の量に隋ひて宜しきに合ひて衆に頒 ち給ふ。洪恩なる主よ、信を以て移りし者に此に入るを得しめ給へ、蓋彼等は敬虔 に爾に呼ぶ、人を慈しむ主よ、光榮は爾の力に歸す。

不死なる主よ、爾は我等と侔しき人の現れ、衆と侔しく死を忍びて、生命の途を示 し給へり。移りし者に之を得しめて、仁愛なる主宰として、彼等に諸罪の赦と光に與 ることとを與へ給へ。

聘女ならぬ者よ、爾は信者の譽、爾は「ハリスティアニン」等の轉達と避所、垣墻 と港なり。純潔なる者よ、爾は己の子に祷を捧げて信と愛とを以て爾を潔き生神女 と識る者を患難より救ひ給ふ。

第五歌頌

イルモス、主よ、爾の誠を以て我等を照せ、人を愛する者よ、爾の高き臂を以て爾の平安を我等に與へ給へ。

神聖なる致命者は肉體の傷を忍びたり。故に我等の傷を常に醫して、悪鬼に傷つけ給

神の聖なる成聖者よ、衆克肖者と偕に我等に諸罪の赦を賜はんことをハリストスに祈り給へ。

人を愛する主よ、克肖なる女等は苦難と勤勞とを以て肉體を制して、其善なる望を

第八調 「スボタ」の早課 九一一

第八調 「スボタ」の早課 九一二

この死を以て死を滅し給ひし不死なる主よ、永生の望を抱きて死せし爾の信なる諸 僕を仁愛の主なるに因りて安息せしめ給へ。
生神女讃詞

できょうもの なんじ しゅうじん きょくな しゅいいち しょ イイススを身に生みて、原祖の定罪を虚 次 き者よ、爾は衆人を義と爲しし惟一の主<u>イイスス</u>を身に生みて、原祖の定罪を虚 しくし給へり。

又

イルモス、隱れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐なる我を掩へり。祈る、我を返して、我が途を爾の誠の光に向はしめ給へ。

慈憐なる救世主よ、爾の諸僕を天使の品位の處、義人の會の喜ぶ處、<u>アウラアム</u>の管懐に入れて、彼等に勇敢を以て畏るべき神聖なる寶座の前に立つを得しめ給へ。

光榮

洪恩なる主よ、爾は我等の爲に潔淨と、稱義、及び救贖と現れて、爾の傷を以て我等の不能を醫し給へり。至仁なる主として、移りし者を樂園の樂に入れ給へ。

今も

大仁慈なる主よ、爾は神の光榮を以て人類を装飾せんと欲して、童貞女の胎内より靈ある活ける身を取りて、此を以て死を滅し給へり。

第六歌頌

イルモス、救世主よ、我を淨め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を悪の淵より引き上げ給へ、我爾に呼びたればなり、吾が救の神よ、我に聽き給へ。

型なる致命者よ、爾等は己の尊き傷にて我等の靈の不能と體の傷とを醫し、悪鬼たいす。 の大數に傷つけ給ふ。

克肖者の會、成聖者の品位、聖にせられし女の神聖なる群は勇ましく苦難を忍びしに因りて、天上の福樂を嗣ぎ給へり。

生ける者の生命、死せし者の安息なる言よ、爾の神聖なる指塵を以て我等より移しし爾の諸僕を爾の悦を獲たるアウラアムの懷に入れ給へ。

第八調 「スボタ」の早課 九一三

第八調 「スボタ」の早課 九一四

生神女潜詞

深き者よ、父の光は爾の内に入りて、己の神性の無形なる煇煌を以て多神の幽暗を散じて、世界を照し給へり。

又 イルモス同上

教世主よ、爾の聖なる致命者は爾を愛する愛にて靈傷つけられ、爾の永在なる光榮と爾の甘味なる共與とを慕ふに由りて、多くの苦を忍び給へり。

数世主よ、地獄にある爾の諸僕を涙と歎息より脱れしめ給へ。蓋爾慈憐なる主は
数世主よ、地獄にある爾の諸僕を涙と歎息より脱れしめ給へ。蓋爾慈憐なる主は
獨凡そ信を以て爾を讃め揚ぐる者の面より涙を除き給へり。

「中うまん」 なんじ ないない つく カルカー こく

だかがりる。 ままで まか ろく にゅうだん から たいない ろく にゅうまん なっぱい から はっぱい から はっぱい から に 本が なる者は己を整し、獨不死なる者は衆人の救の爲に死を以て死し給ふ。

小讚詞、第八調。

<u>ハリストス</u>よ、爾が諸僕の靈を諸聖人と偕に、疾も悲も歎もなくして、終なき生命のある處に安ぜしめ給へ。

同醬詞

人を造りし主よ、爾は獨死せざる者なり、我等地の者は土より造られて、復土に逝かん、爾我を造りし主の命じて我に言ひしが如し、爾は土にして土に歸らんと。我等人人皆彼處に往き、墓の上に哭きて歌ひて云はん、「アリルイヤ」。

第七歌頌

イルモス、敬虔なる少者は<u>ワワイロン</u>に於て黄金の像に伏拜せずして、火の爐の中に霑されて、歌を詠ひて云へり、先祖及び我等の讃樂せらるる神よ、爾は崇め讃めらる。

この縛らるるを以て邪宗の墻を破りし讃美たる致命者よ、我が諸罪の縲絏を釋きて、 おおおおおおおおいっぱいでは、 おおおおおいっぱいでは、 おおおおいっぱいでは、 おおおいっぱいでは、 おおおいっぱいでは、 おおおいっぱいでは、 おおおおいっぱいでは、 おおいっぱいでは、 我を救ひ給へ。 蓋我呼ぶ、我等の先祖の神は崇め讃めらる。

春智なる成聖者よ、爾等は己の聖なる血の流を以て諸異端の火を滅し、信と愛との焔を以て不虔と迷謬との稗を燬きて、信者の靈を照し給へり。

修齋者は節制を以て肉體を殺して、死の後に生く。義なる預言者の會と苦難を忍びし 女等の群とは榮せられたり。ハリストスよ、彼等の祈祷に因りて我等を諸難より救い給へ。 光榮

「スボタ」の早課

ハリストスよ、凡そ永生の望を抱きて寢りし者の靈を安ぜしめて、彼等が生涯行 ひし諸罪を爾の多くの慈憐を以て顧みること母れ。獨仁慈なる救世主、先祖の神よ、 爾は崇め讃めらる。 生神女讃詞

なんじ まった いきぎょ もの たま ない ない ない ない ことば たいない こう たま ほんり こことよう ない は 全く 潔 き者として、身を取らんと欲する言を胎内に受け給へり。 至淨なる者 よ、彼に祈りて、我淨き信を以て爾に趨り附く者の靈體の諸罪を潔めんことを求め給

又

イルモス、<u>エウレイ</u>の少者は爐に在りて勇ましく焔を踐み、火を露に變じて籲べり、 主神よ、爾は世世に崇め讃めらる。

まめいしゃ まった のぞみ ひとり しゅさい toか あい もっ かれ あわ うた しゅかみ なんじ 致命者は全き望を獨主宰に向はしめ、愛を以て彼に合せられて歌へり、主神よ、爾 は世世に崇め讃めらる。

主よ、爾は信を以て移りし者に神聖なる國の光照を與へ、不朽の衣を賜ふ、蓋彼等呼

しめ給へ、主神よ、爾は世世に崇め讃めらる。 $\frac{今も}{1}$ 主よ、爾は至りて無玷なる童貞女に入りて、エワの誰を解き、至淨なる者よ、爾の腹

の果は祝福せられたりと呼ぶ者に祝福の流を注ぎ給ふ。

イルモス、神を傳ふる少者は爐の中に焔を踐みて歌へり、主の造物は主を崇め讃め

主の受難者、諸天使の對談者よ、爾等は苦を受くるを以て偶像の殿を毀ちて、己 を神聖なる三者の殿と爲し給へり。

ハリストスよ、爾の司祭等は義を衣て、古世よりの克肖者と偕に今喜びて、至りて 明 に爾の神聖なる華麗を觀る。

言よ、爾の至りて聖にせられし諸預言者、常に光樂なる女等、及び悉くの古世よ りの義人等の祈祷に因りて、爾の慈憐を爾の世界に垂れ給へ。

我等主なる父と子と聖神とを崇め讃めん。

義なる審判者主宰よ、審判せんと欲する時、我等より受けし者を定罪なく護りて、其 諸罪を顧みること強れ。 生神女讃詞

義の日を生みし童貞女よ、現れて、爾の光明を以て吾が靈の最暗き雲を拂ひ給へ。

「スボタ」の早課

「スボタ」の早課 第八調

又

イルモス、樂器は鳴らされ、無數の人は<u>デイル</u>の像に伏拜するに、三人の少者は順

はずして、主を歌ひて、萬世に讃樂せり。

ぱっちゃいしゃ。 いっちょう こまんろう へん のっち てん の 楽況を受け、絶えず爾に呼ぶ、主を歌ひ て、萬世に讃め揚げよ。

洪恩なる主よ、輸は最下なる谷に降りて、生を施す手を以て墓の中に在る者を復活 せしめ、信を以て先に寢りし爾の諸僕に安息を與へ給へり。

光祭 $\frac{\chi_{\text{cons}}}{\chi_{\text{cons}}}$ χ_{cons} $\chi_{\text{co$

に爾を歌ひて、萬世に讃樂するを得しめ給へ。 今も 神教世主を人人の爲に肉體を以て生みしマリヤ生神童貞女よ、信を以て爾の産を歌 ひて、萬世に讃め揚ぐる者を救ひ給へ。

次ぎて生神女の歌を歌ふ、「我が靈は主を崇め」。

第九歌頌

イルモス、爾至上の神の母婚姻に與からざる童貞女、爾智慧に超えて言に因りて眞 の神を生みし者、至淨なる軍より高き者を、我等黙さざる讃美を以て崇め讃む。

致命者は不義なる審判者の前に立ちて、<u>ハリストス</u>の恩寵を以て透ざくの不義を定罪 し、彼等より苦を受けて、義の榮冠を獲給へり。

福たる司祭諸長及び諸牧師よ、爾等は教會の操舵師と爲りて、愼みて舟を導きて、神 の誠の途を過らしめ給へり。故に我等は爾等を嚮導師として尊む。

人を愛する主よ、預言者の會と難を忍び勤勞を以て輝きし克肖なる女の群とは爾に 祈る、爾の慈憐を我等に垂れ給へ。

仁慈なるハリストスよ、信を以て虚しき生命より離れたる爾の諸僕に衆聖人の得た る永遠の尊貴と光榮とに與るを得しめ給へ、爾の諸聖人の祈祷に因りてなり。

生神女讃詞

萬善の充滿を手に抱きし純潔なる者よ、我等爾の諸僕の祷を應へて、我等の途を神 に向はしめ、諸徳を行ふ力を與へて生を送るを得しめ給へ。

又

第八調

第八調

イルモス、凡の者は神の言ひ難き寛容の事、如何に至上者が甘じて肉體を取るまで に降りて、童貞女の腹より人と爲りしかを聞きて、恐れざるなし。故に我等信者は至淨 なる生神女を崇め讃む。

讃美たるハリストスの致命者は勝ち難く破り難き力を有ちて、苛虐者の神に逆ふ命 を空しくし、天の國を獲て、聖三者の光明に照らさる。

苦しき地獄は破られたり、人を愛する主よ、禰は之を破りて、古世より彼處に眠る者 を復活せしめ給へり。仁慈慈憐なる主よ、今も爾に移りし者に爾の暮れざる光を獲 しめ給へ。

光榮

今も

神の母よ、我を救ひ給へ、爾はハリストス我が救主を生み給へり。彼は神及び人、二性にして一位なり、父よりする獨生子、爾よりする衆造物の家子なり。我等彼を二性に於て崇め讃む。

次ぎて「常に福にして」、聯祷、光耀歌、及び常例の聖詠。

凡そ「呼吸ある者」に致命者の讃頌、第八調。

死者潜詞

放蕩に生を送る者の爲には無量なる苦、切齒、慰藉なき歎息、火の「ゲエンナ」、外の幽暗、眠らざる蟲、無效なる涙、及び憐なき審判あらん。故に我等終の前に呼びて云はん、主宰ハリストスよ、移しし者を爾の選びたる者と偕に安ぜしめ給へ。

第八調 「スボタ」の早課 九二一

第八調 「スボタ」の早課 九二二

光榮、今も、生神女讃詞。

聖なる童貞生神女よ、我爾の庇蔭に趨り附く、我爾に依りて教を得んことを知る、爾は、潔き者よ、我を援くるを能すればなり。

挿句に讃頌、第八調。

主宰よ、爾は指を血に染めて、赤き色を以て我が爲に王たる赦免を書して、爾の血を以て之に灌ぎ給へり。故に我等信を以て爾に祈る、爾慈憐の主に移りし者を爾の諸家子に加へて、爾の義人等の喜を獲しめ給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

句、彼等の靈は福に居らん。

なんじょう。 なんじない なんしょ なんじない なんじょく なんしょ なんじょう はんしょう はんしょく はんしんしょく はんしんしんしんしんしんしんしんしんしんし と讃美との聲のある處に入れ給へ。

THE COLOR OF SERVICE の泉よ、仁慈仁愛なるに因りて、斯の生命より移りし者を爾の華美華麗の光明にて照 し給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

神の母よ、神父の無原なる言を生みし者として、爾の母たる勇敢を以て熱切に祈り て、爾の諸僕を、樂しみて爾を讃め揚ぐる義人等の絶えざる慶賀の處、永遠の光照 と祝ふ者の歡喜の聲とのある處に入れんことを求め給へ。

讃詞、聯祷、及び發放詞。

「スボタ」の眞福詞、第八調。

<u>ハリストス</u>、世界の教主よ、木に在りて盗賊を憶ひし如く、我等を憶ひ給へ、獨洪恩

なる主よ、我等衆に爾の天國を獲しめ給へ。 受難者よ、爾等は勇ましく己を一切の苦に付して、爾等の聖なる傷を以て、神の恩寵 に因りて、萬萬の悪鬼に傷つけ給へり。

<u>ハリストス</u>の克肖者、神聖なる成聖者、預言者、及び衆聖人の會は天の嗣業を受け たり。我等宜しき合ひて彼等を讃美すべし。

神よ、爾が信に於て斯の生より移しし者を悉く義人等の地に入れて、樂園の嗣業者、

第八調

「スボタ」の眞福詞 第八調

タョット 美しく爾を歌頌する者と爲し給へ。

光榮 $\frac{\chi_{\text{the sales}}}{2}$ 型三者よ、我最終の歌を爾に奉る。信に於て地より移しし者に諸聖人の居所を獲し

なる隣とを求め給へ。